

2019 年度
学校教育における
即興型英語ディベートの推進・指導者育成 報告書

助成：公益財団法人 日本財団

2020 年 3 月

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)



目次

1 はじめに

2 研修会・地域交流大会・合宿・大会

2.1	PDA 東海交流大会 第1回授業 (岡崎高校)	5月10日
2.2	PDA 東海交流大会 第1回授業 (静岡高校)	5月14日
2.3	PDA 東海交流大会 第1回授業 (四日市高校)	5月16日
2.4	秋田県即興型英語ディベート教員研修(令和元年度 中・高英語教育研究協議会)	5月23日
2.5	PDA 東海交流大会 第1回授業 (岐阜市高校)	5月24日
2.6	令和元年度 学力向上進学重点校英語4技能指導法研究グループ 英語4技能指導法研究会 第1回集合研修	6月5日
2.7	PDA 東海公立高校即興型英語ディベート交流大会	6月15日
2.8	令和元年度 学力向上進学重点校英語4技能指導法研究グループ 英語4技能指導法研究会 第3回集合研修	7月5日
2.9	PDA 関西交流大会 第1回授業 (奈良高校)	7月10日
2.10	PDA 関西交流大会 第1回授業 (北野高校)	7月16日
2.11	PDA 関西交流大会 第1回授業 (彦根東高校)	7月17日
2.12	PDA 関西交流大会 第1回授業 (膳所高校)	7月19日
2.13	高松高等学校即興型英語ディベート体験会	7月22日
2.14	高知追手前高等学校即興型英語ディベート体験会	7月23日
2.15	松山東高等学校即興型英語ディベート体験会	7月24日
2.16	徳島市立高等学校即興型英語ディベート体験会	7月25日
2.17	第4回青森県即興型英語ディベート交流大会	7月27日
2.18	PDA 関西交流大会 第1回授業 (堀川高校)	7月27日
2.19	PDA 関西交流大会 第1回授業 (神戸高校)	7月30日
2.20	PDA 全国高校即興型英語ディベート合宿・大会 2019	8月7日・8日
2.21	PDA 北海道公立高校即興型英語ディベート交流大会	8月16日
2.22	PDA 関西公立高校即興型英語ディベート交流大会	8月24日
2.23	令和元年度 学力向上進学重点校英語4技能指導法研究グループ 英語4技能指導法研究会 第4回集合研修	9月4日
2.24	PDA 柏陽高校・横浜翠嵐高校即興型英語ディベート 体験会	9月7日
2.25	PDA 相模原高校・平塚江南高校・希望ヶ丘高校即興型英語ディベート 体験会	9月21日
2.26	PDA 横浜平沼高校・湘南高校・横浜緑ヶ丘高校・鎌倉高校・茅ヶ崎北稜高校 即興 型英語ディベート 体験会	10月5日
2.27	PDA 千葉県立船橋高校即興型英語ディベート 体験会	10月5日
2.28	PDA 四国高校生即興型英語ディベート交流大会 2019	10月13日
2.29	PDA 群馬高校生即興型英語ディベート交流大会 2019	10月19日
2.30	PDA 川和高校・多摩高校・大和高校・光陵高校・柏陽高校即興型英語ディベート 体験会	10月19日

2.31	PDA岩手高校生即興型英語ディベート交流大会 2019	10月20日
2.32	PDA 東京都立日比谷高校即興型英語ディベート 体験会	10月21日
2.33	PDA 東京都立八王子東高校即興型英語ディベート 体験会	10月24日
2.34	PDA 厚木高校・横須賀高校・小田原高校・相模原高校即興型英語ディベート 体験会	10月26日
2.35	PDA 千葉県立千葉高校即興型英語ディベート 体験会	10月28日
2.36	令和元年度PDA神奈川県高等学校即興型英語ディベート交流大会	11月2日
2.37	PDA 東京都立西高校即興型英語ディベート 体験会	11月5日
2.38	PDA 新潟県立新潟高等学校即興型英語ディベート 体験会	11月7日
2.39	PDA 埼玉県立浦和高校即興型英語ディベート 体験会	11月8日
2.40	PDA 埼玉県立浦和第一女子高校即興型英語ディベート 体験会	11月11日
2.41	PDA山口県高等学校即興型英語ディベート交流大会 2019	11月16日
2.42	PDA首都圏公立高等学校即興型英語ディベート交流大会 2019	11月16日
2.43	文部科学省後援 第5回PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会	12月21日・2日
2.43-1	第5回PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会(5周年記念事業)全国高等学校校長 情報交換会	12月21日
2.44	文部科学省・外務省後援第5回PDA 高校生パラメンタリーディベート 世界交流大会 2020	1月17日～19日
2.45	岡山朝日高等学校即興型英語ディベート体験会	2月1日
2.46	令和元年度PDA東京都立中高一貫校中学校即興型英語ディベート交流大会	2月11日
2.47	令和元年度 PDA熊本県高校生即興型英語ディベート交流大会	2月15日
2.48	PDA 全国中高教員向け即興型英語ディベートワークショップ 2020	3月21日
2.49	第3回PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会	3月21日

3. PDA 認定教育ジャッジ

4. おわりに

1. はじめに

本年度は、新型コロナウイルス感染症により、学校の休校など多くの生徒が影響を受けました。本年度最後の活動である第3回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会については遠隔システムを利用した開催など新しい取り組みを行いました。このように Society5.0 の到来など変化の速い昨今、多様な価値観や考え方を理解し、グローバル社会で活躍できる人財の育成が求められています。社会問題に対する関心や知識、多角的な考え方、コミュニケーション力など世界に貢献できる国際的な素養を身につけ、国際社会でのアクティブな活動を促すことは重要と考えられます。そこで、一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）では、英語での発信力のもとより、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力など複数のスキルを効果的に鍛えることができるパラメンタリーディベートの活動を推進しています。

公益財団法人 日本財団助成事業である本活動「学校教育におけるパラメンタリーディベートの推進活動」では、授業でできるパラメンタリーディベートの教育手法（即興型英語ディベート）をより全国的に普及し、その指導者育成を開始します。これまで代表理事が行ってきた文部科学省助成事業をはじめとする知見を活かし、単なる競技としてのパラメンタリーディベートを超え、公教育に取り入れ可能で、かつ教育的配慮を伴う指導内容を持った形の即興型英語ディベート手法を推進します。

本報告書では、授業導入に向けた即興型英語ディベートの紹介活動として、北海道から沖縄までの地域において開催した生徒および教員向けの研修会や交流大会について紹介します。各地域での即興型英語ディベートの紹介活動に加え、全国の高校生、教員が集い、情報交換を行い、切磋琢磨にモチベーションを向上させる機会とした全国合宿、全国大会、世界交流大会、中学生全国大会について記載します。最後に、PDA 認定教育ジャッジ資格を取得された先生方のメッセージを別添します。PDA で推進している即興型英語ディベートは、授業の50分内で完結でき、教育的配慮を重んじた手法であるからこそ、公教育の場で、多くの賛同を得ることができ、認定教育ジャッジ制度について支持いただけたと考えます。



2.1 PDA 岡崎高校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2018年5月10日(金) 15:45-18:00

会場：愛知県立岡崎高等学校

参加者：生徒34名、教員3名

ジャッジ：PDAスタッフ、名古屋工業大学、東京大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

まず、PDAスタッフより、PDAの団体説明と、代表理事中川先生(大阪府立大学・准教授)の紹介を、またなぜ今即興の英語で議論する力を鍛えることが重要かといったイントロダクションがありました。即興型英語ディベートの魅力、効用についての話に続いて、ルール説明がありました。

ルール説明後は、大学生によるモデルディベートを見ていただき、生徒さんたちに感じをつかんでいただきました。その後、早速ディベート実践です。参加者の7割程度が初挑戦のディベート体験の中、実践の中でルール、ポイントの確認をしていく流れとなりました。ラウンド終了後には、ジャッジから勝敗とその理由、そして個人コメントのフィードバックがあり、生徒たちは真剣に聞いていました。

続く2ラウンド目では各テーブルジャッジからのアドバイスを参考に、スピーチシートを効果的に利用し、具体的な例を使いながら論題に取りかかることができました。2回目という少ないディベート実践の場で、ほとんどの生徒がこの授業で英語力の伸びを実感したようでした。終了後、6月15日(土)岐阜高校にておこなわれる東海交流会出場の呼びかけに対して参加したいとアンケートに記入している生徒たちが印象的でした。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・動画で実際のディベートを見せていただけたのでイメージができて勉強になりました。
- ・アドバイスを数多くいただくことができ、他の人の意見も聞くことで自分の思いつかなかった新たな視野が広がり面白かったです。
- ・ラジオや授業よりずっと能動的に英語に向かうことができた。思うように言葉にできないことがもどかしかったが、それが余計にボキャブラリーを増やそうとか、簡単にして言えるようにしようと考えるようになり楽しかった。
- ・自分の意見を声に出すのはとても難しかった、けれどとてもいい経験になったし、うまく言えたときに達成感を味わうことができとても楽しかったです。次の機会もぜひやってみたいと思いました。
- ・チームで考えたり、普段はできないような英語で話す体験ができたのでとても楽しかったです。
- ・去年も体験会や大会で経験していて何度もやるごとにより自信をもって楽しめました。またこれからもたくさんやりたいと思います。





2.2 PDA 静岡高校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2019年5月14日(火) 15:30-18:00

会場：静岡県立静岡高等学校

参加者：生徒23名、教員5名

ジャッジ：PDAスタッフ、九州大学、東京大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

まず、PDAスタッフより、PDAの団体説明と、代表理事中川先生(大阪府立大学・准教授)の紹介を、またなぜ今即興の英語で議論する力を鍛えることが重要かといったイントロダクションがありました。即興型英語ディベートの魅力、効用についての話に続いて、ルール説明がありました。

ルール説明後は、大学生によるモデルディベートを見ていただき、生徒さんたちに感じをつかんでいただきました。その後、早速ディベート実践です。参加者の7割強程度が初挑戦のディベート体験の中、実践の中でルール、ポイントの確認をしていく流れとなりました。ラウンド終了後には、ジャッジから勝敗とその理由、そして個人コメントのフィードバックがあり、生徒たちは真剣に聞いていました。

続く2ラウンド目では各テーブルジャッジからのアドバイスを参考に、スピーチシートを効果的に利用し、POIも積極的に出せ、また答えるという姿が見られました。2回目という少ないディベート実践の場で、ほとんどの生徒がこの授業で英語力の伸びを実感したようでした。終了後、6月15日(土)岐阜高校にておこなわれる東海交流会出場の呼びかけに対して参加したいとアンケートに記入している生徒たちが印象的でした。最後に志村校長先生から恐れず挑戦することの大事さ、岐阜大会への案内のお言葉を頂いて体験終了となりました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・時間に追い詰められて頭のなかの引き出しを開けまくって、「これだ」と思える表現が見つかる瞬間があってそれが楽しかった。
- ・岐阜に行きたい。もっとやりたい。まだまだやりたいくらいです。今度はロングディベートもやりたい。これをやったことでますますたくさん英語を学びたいになりました。岐阜にとっても行きたいです。
- ・他学年と交流できて楽しかったです。「伝わる英語」って大事だと改めて思いました。聞いたことがあるのに意味の分からないことや、英語でなんていうのかわからない単語などがあり、刺激を受けました。日常会話でもっと英語が話せるようになりたいと思いました。
- ・楽しかったけれど、それと同じくらいむずむずしました。言いたいことや主張したいことはたくさんあるのに、英語力が不足しているせいで表現ができず、まだまだだなあと感じました。自分の現状を把握する良い機会になったと思います。
- ・ぺらぺらとしゃべれないから、独自の意見と視点でがんばった。またできるだけ亮チームに分かりやすいように簡単な英語を使うこと、POI にしっかりと対応することを心がけた。
- ・一回目は単語プリントを活用し忘れたり、ルールを間違えて理解していたりぼろぼろだった。他の子の説得力のある文章や発音などを聞いて刺激された。2回目では聞いたアドバイスをいかして、アイコンタクトを多く取ったり、すぐに相手側の意見への反論を取り入れたり工夫した。2回目では時間が足りなくなるほど言いたいことがでてきて自分でもびっくりした。楽しかった。





2.3 PDA 四日市高校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2019年5月16日(木) 16:00-18:30

会場：三重県立四日市高等学校

参加者：生徒58名、教員6名

ジャッジ：PDA 講師、奈良女子大学、名古屋大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

はじめに、即興の英語で議論する力を鍛えることの重要性や即興型英語ディベートの魅力、効用についてお話をしました。ルール説明後は、モデルディベートを見ていただきました。その後、早速ディベート実践です。参加者の6割強の生徒が初挑戦のディベート体験の中、実践の中でルール、ポイントの確認をしていく流れとなりました。ラウンド終了後には、各テーブルの生徒ジャッジからのコメントのあと、PDA ジャッジから勝敗とその理由、個人コメントのフィードバックをしました。生徒の皆さんは真剣です。

続く2ラウンド目ではジャッジからのアドバイスを参考に、スピーチシートを効果的に利用し、具体例などをたくさん取り入れたディベートをしました。2回という少ないディベート実践の場で、ほとんどの生徒がこの授業で英語力の伸びを実感したようでした。終了後、6月15日(土) 岐阜高校にておこなわれる東海交流会出場の呼びかけに対して参加したいとアンケートに記入している生徒たちが多数いました。最後に松岡校長先生から短い学び多い時間をすごせましたとご挨拶を頂き終了となりました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- 初めは上手にできないけれど、2回目で慣れてきたら「とりあえず伝える」のが出来て楽しかった。実際日常で使うには即興なわけだから、こういう練習を使うと、とても良いと思う。「伝える難しさ」とか「常に頭を働かせて、主張、反論を考える」のが楽しかった。
- 即興型ディベートは、自分の意思を伝える「表現力」（文章、態度、行動）と、人の発表を聞きとる「リスニング力」、書き取って意見をまとめる「整理力」そして自分の反論と主張を組み立てる「論理力」など、様々な要素を同時に鍛えることが出来ると思った。こういう総合的な練習は今後も取り入れていきたい。
- 今までやったことのないディベートを初めてやったことで、英語を話すことに苦手意識があったけれど、身振り手振りで伝わることを学べた。
- 短時間で自分の意見をまとめて話すというのはこんなにも難しいことが分かりました。話している途中で補足をしたり、その場で新たに考える即興する力の大切さを学ぶことが出来ました。
- このような授業に参加したのは初めてでした。時間のなかで自分の主張を考えてすぐ文章を作り、話すのは難しかったけれどとても勉強になりました。すごくやりがいがありました。主張を組み立てて話していくのは難しかったし途中で詰まってしまうことがあったり、まだまだ勉強が必要だし、もっと練習して力をつけたいと思いました。またこのような機会があれば是非参加したいです。



2.4 秋田県即興型英語ディベート教員研修（令和元年度 中・高英語教育研究協議会）

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2019年05月23日（木）11:00-12:00, 13:00-14:30

会場：秋田県総合教育センター

参加者：教員77名

参加校：(中学校)秋田市立秋田西、潟上市立天王、八郎潟町立八郎潟、大潟村立大潟、由利本荘市立本荘北、横手市立横手北、湯沢市立湯沢南 7校

(高等学校)花輪、十和田、小坂、大館鳳鳴、大館鳳鳴(定)、大館桂桜、大館国際情報学院、秋田北鷹、ニツ井、能代、能代松陽、能代工業、能代工業(定)、能代西、五城目、男鹿海洋、男鹿工業、秋田西、金足農業、秋田、秋田南、秋田中央、新屋、秋田工業、秋田明德館(定)、秋田商業、御所野学院、本荘、本荘(定)、由利、由利工業、矢島、西目、仁賀保、西仙北、大曲農業、大曲、大曲工業、角館、角館(定)、六郷、横手、横手(定)、横手城南、横手清陵学院、平成、雄物川、増田、湯沢、湯沢翔北、羽後、雄勝、聖霊女子短期大学付属、秋田修英 55校(定時制含む)

ジャッジ：PDAディベート講師、早稲田大学ほか

講師：大阪府立大学工学研究科 准教授 中川智皓（PDA代表理事）

午前中の講演では、即興型英語ディベートが将来生徒にとってどのように役立つのか、説明を行いました。また、次期学習指導要領における新科目案「論理・表現」では、ディスカッションやディベートなどの活動が期待されている旨を紹介しました。次に、即興型英語ディベートの具体的なルール説明を行いました。ここで紹介する即興型英語ディベートは、授業の50分で完結する形で、英語部等の生徒のみが熱心取り組む従来の手法ではなく、一般的な生徒また教員が取り組めることが特徴です。午後のワークショップでは、実際に先生方にディベートを体験していただきました。肯定チーム、否定チーム、ジャッジチームに分かれ、15分の準備を行いました。そして、ディベート実践です。活発な議論が繰り広げられました。ディベート実践後は、ジャッジチームの先生方より、勝敗とその理由が発表されました。最後に、ジャッジ講師よりフィードバックを行いました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- とてもわかりやすく、やる気を引き起こすものでした。
- PDA方式のフォーマットに従って練習を積むことで、誰もが不安が少ない状態でディベートに触れる機会を増やせるものと思います。
- 「うちの生徒には無理じゃないかな?」という気持ちを捨て、いろいろなことにチャレンジさせたい、という気持ちにさせられました。
- Worksheetもsimpleでかつ機能的でとてもよかった!
- ビデオの中で一生懸命ディベートに挑戦する高校生を見て、まずは取り組んでみるべきだと感じました。
- 即興型ディベートのルールやフォーマットをわかりやすく教えていただきました。すぐにも使いたいと思います。
- 英語で話さざるを得ない状況を作ることが大事というお話が印象的でした。
- 「難しいけどワクワクするだろうな」と生徒の姿が想像できる内容であった。
- 参加するまでは、ディベートなんて…と二の足を踏んでいたが、簡略化して授業に取り入れることで、総合的な力を伸ばすことにつながるのではないかと刺激を受けた。
- 情報量も多すぎず適切でわかりやすかったです。
- 時間を目一杯使って、考えて、聞いて、反論して…とてもtoughな活動ですが楽しかったです。(ワークショップ)チームメンバーとのチームワークもとても大事で、人間力も養えると思いました。
- 英単語や構文の使用できるレベルが高いと思われるが、中学生でもできるというところが印象的でした。
- 自分でディベートを経験することによってとても緊張するとか、終わればとてもほっとするとか体験できた。
- 今まで考えていたよりも容易に導入し、取り組みやすいようにルールが工夫されている点良かった。



2.5 PDA岐阜高校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時:2019年05月24日(金)15:40-18:00

会場:岐阜県立岐阜高等学校

参加者:生徒30名、教員3名

ジャッジ:PDA講師、名古屋工業大学、南山大学、九州大学

助成:公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI財団

即興型英語ディベートの魅力、効力についての説明をしました。授業でできるシステムの有効性やルールの説明の後、モデルディベートを生徒に見せました。早速のディベート実践では、半数近くが去年も体験会に参加していたとのことで、1ラウンド目からよいディベートが繰り広げられました。2ラウンド目では、今回初めて参加した生徒たちもジャッジからのアドバイスをしっかり取り入れて勢いのあるディベートをしていました。最後に、ベストディベーターの先輩生徒から「早めに始めるのはいい、ぜひ続けて欲しい」とのコメントがありました。岐阜高校での交流大会や、全国大会に興味を持っている生徒も複数いました。ご担当いただきました澤田先生からも鼓舞するメッセージをいただきました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- 仲間の意見や相手の意見を注意して聞かなくてはならなかったが、それだけ集中して話ができるのがよかった。
- 今回はじめて参加したので、一年前から参加しておけば良かったと思います。
- 即座に組み立てて、文を作り反論することがとても難しいけれど、とても楽しかった。
- 今回初めてだったけれどとても楽しかったです。積極的にいくことは大事だと思いました。しかしまだPOI が長いので15-20秒くらいにまとめたいです。
- 今までで一番、相手を説得するために頭を使ったと感じました。また自分が出来てないところを多く見つけることができました。
- デイバートがスタートするまですごく緊張していたけれど、実際やってみると意外と話すことができ達成感でいっぱいです。そして何より、仲間と協力し合えたことがとても楽しかったです。
- 難しかった分苦しかった。でもそれでも議論することの楽しさを大変感じた。
- 何度やっても楽しいので、もう一度全国大会に行きたい。
- とにかく周りにこんなに英語を、即興で理解し、会話できる人がいてただただ感動した。



2.6 令和元年度 学力向上進学重点校英語 4 技能指導法研究グループ

英語 4 技能指導法研究会 第 1 回集合研修

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

日時 2019 年 6 月 5 日（水）14:00~17:00

場所 神奈川県立横浜平沼高等学校（大会議室）

参加者 17 校 25 名（横浜翠嵐 1、横浜平沼 2、横浜緑ヶ丘 1、光陵 2、希望ヶ丘 1、川和 1、柏陽 5、多摩 1、横須賀 1、平塚江南 1、鎌倉 2、湘南 1、小田原 1、茅ヶ崎北陵 1、相模原 3、厚木 1、大和 1）

令和元年度学力向上進学重点校英語 4 技能指導法研究グループ、第 1 回「英語 4 技能指導法研究会」集合研修において、教員向けの即興型英語ディベート研修会が開催されました。

はじめに、神奈川県教育委員会高校教育企画室指導主事の田村先生より本研修会の趣旨が説明されました。昨年度に引き続き、論理的思考力・判断力・表現力の育成を育む 4 技能を高める授業を、即興型英語ディベートを用いて導入できるようにしていくことの旨が述べられました。

次に、学力向上進学重点校エントリー校、グローバル教育の代表である横浜平沼高校の鑑校長より、本研修が行われた経緯や、以下の説明がなされました。

1. 各校における授業力向上の取組の一環として、組織的にディベートを授業に取り入れるため。

2. 生徒の学力向上、特に思考力・判断力・表現力等の育成に繋がる教員の資質・能力及び英語力向上のため。これらの一助として、教員の皆様でこの研修成果を各学校に持ち帰っていただきたい。

昨年度の初回研修は 7 月の開始とスタートが遅く、参加者の方も各学校の事情や行事による参加の継続が難しいこともあった。昨年度の反省から今年度は各校長から任を受けたリーダーシップのとれる先生方にお越しいただき、意欲的に取り組んでいただくことを期待している。とのお言葉を頂戴いたしました。その後初回研修ということで、17 校から集まった 25 名の教員一人一人の自己紹介が行われました。



教育委員会高校教育企画室 田村先生のご挨拶



鑑校長による趣旨説明

PDAによる説明では、昨年度までの取組みの経緯と反省、本年度に向けての指針を触れたのち、即興型英語ディベートのルール、それを通して身につく力、授業での導入方法および第4回神奈川県即興型英語ディベート交流大会に向けての指導について簡単に説明がなされました。また、次期学習指導要領での新科目案「論理・表現」についてもふれ、今後ますます生徒が英語を話す環境が必要になることが述べられ、即興型英語ディベートの指導の重要性が指摘されました。授業において、教育的配慮を伴ったジャッジができる人材をPDA認定教育ジャッジとして認定していく制度についても紹介されました。



モデルディベートの鑑賞



ディベート実践の様子

動画によるモデルディベートで即興型英語ディベートの流れを学んだ後、実際の参加者によるディベート実践が行われました。3テーブルに分かれ、各テーブルには、各テーブルには、現役大学生とPDA認定教育ジャッジの講師がジャッジとしてつきました。本日の論題は“Convenience stores should be closed late at night. (コンビニの深夜営業はやめるべきだ。) ”、

“It’s better for university entrance exam takers to have a boyfriend or girlfriend. (受験生に彼氏彼女がいることは必要だ) です。

昨年度の参加経験者が各テーブルにてリードし、議論を引き出す流れを補助していただきました。各役割の重要点、ルールの再確認を説明、論点を2つにまとめ、それぞれの論点の詳細をスピーチシートに記入していくを把握することが出来ました。準備時間15分が終わるとすぐにディベートが始まります。ディベートでは、去年の経験者が実践でPOI(質疑応答)をし初参加者へ手本を見せるなど、議論が深まる内容で、さまざまな意見が出たディベートでした。ディベート終了後には、対戦相手と握手を交わし、和やかに会話がなされました。最後に、ジャッジからの勝敗、その理由、個人コメントが行われました。開始早々全体の静かな様子から、教員も他校の教員と打ち解け、ラウンド終了後には全てのテーブルで和気藹々とした良い雰囲気での会話が交わされました。

教員の声（アンケート抜粋）

- 即興でのディベートをどのように進めていくか、実践して感じる事が出来ました。
- 同じチームの先生方の戦力の練り方、スピーチ、ジャッジの方のコメント1つ1つが大変参考になりました。初めてでしたが、様子が分かり良かったです。
- これまでに触れたことがない活動が体感でき、相手の意見を聞き自分の意見を伝える難しさを感じ、同生徒に還元するかを考えさせられた。
- 実際に自分で行うことでルールや進め方を理解することができた。授業で行う際のコツや、ポイントを少しではあるが、抑えることができた。
- これほど論理的に英語を話すものか・・・と実感しました。またこれほど英語を話すことが久しぶりで自分自身のモチベーションがあがりました。
- 実践的でディベートのやり方を理解できたとともに、他校のベテランの先生から刺激を受けることができました。
- お恥ずかしい限りですが、もっと語彙の力をつけなければと思いました。他校の先生方の英語力の高さに刺激を受けて、自分も頑張らなくてはという気持ちにさせていただきました。
- ジャッジの分析がとても良くてわかりやすかったですし、アドバイスが具体的でとても勉強になりました。
- 授業で取り入れるために、まずは自分がディベートをできるように取り組みたいです。
- 今年度、認定ジャッジをとりたいです！！生徒にも還元できるよう頑張ります。

ベストディベーターに選ばれた先生方（第1回研修会）

R1

● ●先生（柏陽）

● ●先生（相模原）

● ●先生（柏陽）

● ●先生（柏陽）

R2

● ●先生（相模原）

● ●先生（柏陽）

● ●先生（大和）

● ●先生（柏陽）

● ●先生（柏陽）



2.7 PDA 東海公立高校即興型英語ディベート交流大会（体験会）

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2019年6月15日（土）10:30-14:30

会場：岐阜県立岐阜高等学校

参加者：生徒37名、教員11名、その他生徒見学者

ジャッジ：PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ、名古屋工業大学、南山大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

初めに、岐阜高等学校の折戸校長先生より、「チャレンジする気持ちを持った人がこれからの社会や世界を切り開いていきます。この交流大会では、それぞれの力を出し、切磋琢磨することでその力を高めてほしい。また、高校生のネットワークも広げてください。」とのメッセージが送られました。

次に、PDAディベート推進委員より、参加校の紹介や交流大会の説明、POIの練習などが行われました。開会式前は緊張していた様子の生徒たちも、元気よくPOIをすることで緊張がほぐれていました。



岐阜高校 折戸校長先生



POIの練習

そしていよいよ、第1ラウンドの開始です。1ラウンド目の論題は「Marrying at older age is better than marrying young. (早婚よりも晩婚のほうがよい。)」でした。準備時間になるとチームメイトと真剣な顔でブレインストーミング（アイデア出し）を初めて行きました。ディベートでは、経済的安定が重要であることや出産のリスクなど様々な視点から議論が展開されました。ディベートが終わるとお互いの検討を称え合い、握手が交わされました。ジャッジのコメントも真剣にメモを取りながら聞き、次のディベートに活かそうとする姿勢が見られました。



1 ラウンド目 岐阜 vs 岡崎



ディベート後の握手

ジャッジの先生からコメントをもらうとすぐ2ラウンド目が始まりました。2ラウンド目の論題は「Celebrities who got accused of drug scandals should not be allowed to be back on mass media. (薬物依存になった有名人は復帰すべきでない。)」でした。



2 ラウンド目 準備時間 静岡 vs 岡崎



2 ラウンド目 岡崎 vs 四日市

2ラウンド目では1ラウンド目にジャッジから受けたアドバイスをもとに、準備時間にPOIを用意したり、復帰すべきでない(復帰すべきである)のは誰の利害のためなのかを考えてスピーチをしたり、復帰したときとしなかったときの差を明確化しようとしていたりしていました。ディベートでは、有名人の持つ影響力や、薬物依存への認識の変化、経済への影響などの観点から議論しました。ラウンド終了後、ジャッジの先生がコメントを始めるまでの間、相手チームと部活は何か、何を意図したPOIだったのかなどを話すなど他校と交流する様子が見られました。

2ラウンド目終了後は昨年の優勝・2位・3位の高校からトロフィーの返還が行われました。



2 ラウンド目 四日市 vs 岐阜

ディベート後の交流 岡崎 vs 四日市

2 ラウンド目終了後は昼食時間です。他の高校の生徒と一緒にディベートや学校生活について議論しながら食事を取りました。



昼食の後は、各高校から選抜された生徒 6 名によるエキシビジョンディベートです。論題は、「It is better to have a two-dimensional boyfriend/girlfriend than having a three-dimensional one. (彼氏彼女を作るなら、三次元よりも二次元がよい。)」でした。エキシビジョンディベートを聞いている生徒もジャッジの練習のつもりでフローシートに前で話している生徒のスピーチのメモをとりました。笑いが起きたり、活発に POI を交わしたり、とても白熱した議論となりました。



エキシビジョンの様子



エキシビションの様子

表彰が終わり、再び岐阜高校校長の折戸先生からコメントをいただきました。「みなさんにとって今日は有意義でしたか？なぜ有意義だったのでしょうか？有意義だったと感じるならその理由を考えることが重要です。今後も大学で会うことがあるかもしれない仲間です。今日できたつながりを大事にしてください。」とご感想をいただきました。次に、静岡高校校長の志村先生からコメントをいただきました。「みなさんがどう成長するのかを楽しみにしています。昨年の東京大学で開催された全国大会でも年金の受給年齢引き上げの論題に関して、限られた準備時間でさっと意見をまとめている姿に感銘を受けました。全国大会など今後みなさんと会う機会を楽しみにしています。」とエールが送られました。四日市高校校長の松岡先生からは、「もし今日もどかしさを感じたらそれがもっとも意味があったことだと思います。お疲れ様でした。」と労いの言葉をかけられました。

最後に全員で集合写真を撮り、東海公立高校即興型英語ディベート交流大会の幕が閉じました。



岐阜高校 折戸校長先生



静岡高校 志村校長先生



四日市高校 松岡校長先生

生徒の声（アンケートより抜粋）

- 同じ年の人でここまですごい人がいるということはこの大会で見ることができたし、そういう人たちとディベートすることでとても刺激を受けました。とてもいい経験になったと思います。【四日市】
- ドキドキしたからとても楽しかった。【岐阜】
- とても楽しかったです。難しいことも多かったので、すごくやりがいを感じました。もっと新聞とかテレビを見て自分の知識を増やした上でディベートをしたらもう少し焦らずできたかなと思いました。【四日市】
- 交流したチームの人々や他校の人とも仲良くなれてとても充実した時間が過ごせました。【四日市】
- ディベートをすると英語力だけでなく社会に対する思考力も養われると感じたのでこれからも続けたいと思いました。来年も参加したいです。【岡崎】
- 学校でも実施されるといいなと思います。本校ではまだ行われておらず、ディベートは1人ではできないのもっと学校で行われることを願います。【岡崎】
- 英語で文章を書いたり、みんなで地元の話や英語について語ったりして、とても良い思い出になった。【岡崎】
- 今まで全く使ってこなかった表現やアイデアをたくさん共有できてよかったです。何回も練習すればもっともっとできるようになりそうなので、機会があれば。【静岡】
- 他校の生徒と話したり、ディベートを聞けたりしたところが楽しかった。自分のディベートでもいろいろな主張があって、考えるのが面白かった。【岡崎】
- とにかくいろいろな面でハイレベルな交流大会だったように思う。もっと英語の力を伸ばすために次回もぜひ参加したい。【岡崎】
- 次までもっと物事を論理的に考えてさらに新聞を読んでもっと見聞を広めたいと思います。【岐阜】
- ものすごく貴重な経験ができました。昨年も参加したのですが、その時に他校のスピーキング能力に圧倒されてしまい、相手の言っていることが理解できなかったという記憶が強くて、今日のディベートは本当に緊張というより恐怖で手が震えるほど不安でした。でも1回目のディベートでだいぶ感覚がつかめて、2回目は落ち着いてできました。やはり他校の話し方には魅了されましたし、完全に論点を理解できた訳ではありませんが、刺激を受け、今後のモチベーションに繋がります。【静岡】
- いろいろな人と交流でき、自分の能力の向上がはかれた。【岐阜】
- 流れがよく考えられており、初心者から経験者まで楽しめる会でした。また、他校の皆さんと交流することでモチベーションの向上につながっていると思っています。【教員】
- このような交流大会は高校生にとっても大切な経験になると感じました。いろいろな意味で人間の幅を広げる重要な機会となっています。【教員】

エキシビジョンディベートに出られたみなさん

PM [redacted] [岐阜]
 MG [redacted] [岐阜]
 PMR [redacted] [四日市]
 LO [redacted] [岡崎]
 MO [redacted] [岐阜]
 LOR [redacted] [静岡]



POI 賞

[redacted] (岡崎 B)
 [redacted] (四日市 B)
 [redacted] (静岡 B)
 [redacted] (四日市 A)
 [redacted] (静岡 A)
 [redacted] (岡崎 B)
 [redacted] (岐阜 A)



ベストディベーター賞

[redacted] (岐阜 A)
 [redacted] (静岡 A)
 [redacted] (岐阜 B)
 [redacted] (岡崎 A)
 [redacted] (岡崎 A)
 [redacted] (岡崎 B)
 [redacted] (静岡 B)



ベストチーム賞

- 1位 岐阜 A
- 2位 岐阜 B
- 3位 静岡 B
- 4位 四日市 A
- 5位 岡崎 B



2.9 PDA関西公立高校即興型英語ディベート交流大会 第一回授業（体験会） 奈良県立奈良高等学校

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

日時：2019年7月24日（金）14:00～16:30

場所：奈良県立奈良高等学校

参加者：生徒32名、教員1名、PDA推進委員、PDA認定教育ジャッジ

助成：公益財団法人 日本財団、 公益財団法人 KDDI財団

海外研修を目前に控えた3年生30名、2年生2名が即興型英語ディベート体験会に参加しました。即興型英語ディベートを体験するとともに海外研修を成功させたい思いも手伝い、参加生徒はやる気に満ち溢れているようでした。まずPDAスタッフから即興型英語ディベートで身に付く力などが紹介され、ルール説明においては、このあとすぐはじめる実戦に向けてメモをとるなど真剣に耳を傾ける生徒たちです。ディベートの進め方だけでなく、ジャッジをする際の注意点についても説明がありました。ルール説明が終わると早速第1ラウンドのスタートです。準備時間では活気ある話し合いが各チーム内でおこなわれました。ラウンドが始まると、どのテーブルからも生徒たちによる英語でのスピーチがしっかりと聞こえてきます。英語ディベートをするのは初めてだという生徒が多いなか、ほとんどの生徒がルールを理解し、英語でのスピーチを実践することが出来ました。2ラウンド目では、1回目よりスムーズに話せている生徒がほとんどでした。2ラウンドが終わり、PDAスタッフから「ディベートやってみて楽しかった人？」とたずねるとほとんどの生徒が手を挙げていました。中には、2年前の体験会に参加し、即興型英語ディベートにすっかり魅了された生徒もおり「今後も英語ディベートを続けたいから大学の入試勉強も頑張ろうと思う！」と嬉しい意見も頂戴しました。さいごに全般にわたりご協力、ご担当くださいました長谷川先生からは、1ラウンドと2ラウンドではものすごく上達を感じることができたこと、実際に海外へ行ったときに自分の発信したものが伝わることの嬉しさや、コミュニケーションがとれることの楽しさをぜひ体感してもらいたいとのメッセージを頂戴しました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- 英語でうまく伝えられないというもどかしさを感じました。それをバネにして英語力をもっとつけようと思います。
- 初めてだったので難しかったが繰り返せばきっと英語力がすごくつくと思った。
- 最初は絶対緊張するししたくないと思っていたけど、実際やってみてとても楽しくて、また今回のことを次に活かしていきたいなと思いました。
- 普段習うばかりで英語を使うという機会があまりなかったけれど使えて楽しかった。
- 初めてだったけど、一回目より二回目の方が断然うまく話せた気がして楽しかった。もっと早く出会いたかったです。
- 英語を使うことで世界の人々と交流できるので、とても良いと思いました。
- 日本語ではいえるのに言えないことへのもどかしさとストレスを感じ、それが逆に英語への意欲が沸いてきた。
- もっとディベートしたい！と思いました。ディベートが大好きです。
- まだまだ言い方や即興で文を組み立てる方法が下手だなと思ったので、もっと英語を学びたいと思えるきっかけとなった。ありがとうございました。



2.10 PDA関西公立高校即興型英語ディベート交流大会 第1回授業（体験会） 大阪府立北野高等学校

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

日時：2019年7月16日（金）15：20～17：50

場所：大阪府立北野高等学校

参加者：生徒19名、教員6名、PDAスタッフ、大阪大学、PDA認定教育ジャッジ（スカイプ）

助成：公益財団法人 日本財団、 公益財団法人 KDDI財団

1年生13名、2年生5名、そして3年生1名の計19名の生徒が即興型英語ディベート体験会第2回目に参加しました。今回の体験会では、翌月に開催される関西交流大会の出場メンバーが選ばれ、あつて生徒たちの士気を感じられるスタートとなりました。まずPDAスタッフからディベートのルール、AREAについて、効果的なPOIの出し方などが説明されました。一つ目の論題が発表されるとそれぞれチームに分かれ作戦タイムとなります。どのチームからも生徒たちの個々の意見が積極的に交わされていました。ラウンドが始まると全テーブルから堂々としたスピーチが聞こえてきます。ラウンドを終えジャッジからのコメントを真剣に聞く生徒たちです。そして2ラウンド目ではジャッジからもらったアドバイスやポイントを早速、自分のスピーチに盛り込むことが出来ている生徒が多く見られました。2ラウンドが終わり、3年生と2年生の二人が、全国大会や世界大会へ出場した際の体験談を皆の前で語ってくれました。全国大会では関東の高校チームの迫力あるディベートに圧倒されたこと、世界大会では諸外国の高校生たちとディベートを通じ、密度の濃い国際交流が出来たこと、など先輩たちがディベートを頑張ることで体験できた貴重な話を語り、後輩たちへの熱いエールとなりました。そして、その2年生の生徒からは、新しく立ち上げたディベートサークルの紹介がありました。各教員からも、これからはどんどん指導やサポートをしていくので皆さんしっかり練習を積んでさらにディベートの腕を磨いていきましょう！との熱い応援メッセージをもって閉会となりました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

〈前回より良くなったところ〉

- 時間をより長く使えるようになった。
- めっちゃ緊張したけど楽しく話せました！
- ほとんどメモをとらずに話せた。
- 相手の論点をあらかじめ把握して、反論を考えてディベートにのぞむことができた。
- 文型を完璧にすることを意識しすぎて話せなくなってしまったが、それでも話し続けることができたので良かった。

〈次回に向けて改善すべきところ、次回の目標〉

- POIができるようにする。
- 次はより具体性、深刻性をもたせたディベートがしたいと思います。
- 具体例を用いることで、内容を長く、より説得力を持たせる。
- 反論するために相手の意見をよく聞きたい。
- 「わかっている」と思っているでも細かく説明する。
- 単語やフレーズの数を増やして言い換えができるようになる。





2.11 PDA彦根東高校即興型英語ディベート体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

日時：2019年7月17日（金）15:00～17:30

場所：滋賀県立彦根東高等学校

参加者：生徒18名、教員4名、PDAスタッフ、京都大学、PDA認定教育ジャッジ（スカイプ）

助成：公益財団法人 日本財団、 公益財団法人 KDDI財団

1年生11人、2年生7人の計18名が参加しました。はじめに彦根東高等学校猪田校長より開会の挨拶がありました。「即興型英語ディベートでは単なる英会話でなく、英語を論理的に話す力、そして良い意味での批判的にものごとを考える力が身に付きます」と、ディベートの魅力を校長先生が力強くお話していただきました。つづいてPDAスタッフよりルール等の説明がありました。真剣な面持ちで説明を聞く生徒たちでしたが、POIの説明と練習になると緊張感がほぐれ、あちこちで笑い声が起こり、そこから少しリラックスできたようでした。1ラウンド目ではなかなか思うように話せなかった生徒も、ジャッジから何を話していいかわからず黙ってしまうときの対処法などをアドバイスされ、ほとんどの生徒が2ラウンド目では言いたいことがより上手く言えたラウンドになりました。閉会の場ではPDAスタッフから「今日のディベート楽しかった人？」と問うと、すべての生徒が挙手してくれ、初めて挑戦する即興型英語ディベートの楽しさを実感できた体験会でした。最後に担当の辰巳先生からも「ぜひ全国大会へ出場しましょう、先生を東京へ連れて行ってくださいね」と温かいメッセージを頂戴し、終了となりました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- 普段は行わない即興型ディベートの基本を学ぶことができよかったです。また実際に試合をすることが出来たので良い経験になりました。
- 自分で考えた英語を話す機会だったので楽しかった。また相手に自分の英語が伝わったので嬉しかった。
- 自分に自信がついたし、試合自体も楽しかった。
- さまざまな視点から論題について考えることができ楽しめた。
- 授業で習ったフレーズとかも使う機会が今まであまりなかったから楽しかった。
- 全国でどんなディベート活動が行われているかということを知ったり、即興型ディベートをしてみるといった機会はあまりないので、良い経験でした。
- エネルギーを使う活動だった。思考力が必要であるという点で、日本語の能力も向上しそうだと思った。
- 最初はまったく話すことが出来なかったが、2回目は1回目より多く話すことが出来たので成長のきっかけとなって良かった。
- もっと学べばもっと一貫性のあるまとまったディベートを作れると思った。今日の体験で興味を持ちました。
- 継続的に練習してより効果的に伝えられるようにしたい。ありがとうございました。





2.12 PDA膳所高等学校即興型英語ディベート体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

日時：2019年7月19日（金）13:00～15:30

場所：滋賀県立膳所高等学校

参加者：生徒8名、教員5名、御見学1名、PDAスタッフ、
PDA認定教育ジャッジ（スカイプ）

助成：公益財団法人 日本財団、 公益財団法人 KDDI財団

1年生2名、2年生6名の計8名の生徒が参加しました。ほとんどの生徒がアカデミック（準備型）英語ディベートの経験者ですが、即興型ディベートにはまだあまり経験がないとのことでしっかりとルール説明に臨みました。いざラウンドが始まるとなかなか言葉がうまく出てこず、困惑した表情の生徒もいましたが、2ラウンド目ではジャッジからもらったアドバイスを生かして、具体的な例を提示したり、効果的なPOIが出たりと、盛り上がりを見せたラウンドとなりました。ラウンド終了後にジャッジに質問に行く生徒も見られ、来月に迫る交流会への意気込みを感じさせました。閉会の場では、オブザーバーとしてお越しくださいました能登川南小学校の中村隆秀先生より「準備型ディベートと即興型ディベートの両方を頑張っている膳所高校さんは素晴らしいです。Power of speechを大事にこれからも是非続けてください」との感想を頂戴しました。また体験会の初めから終わりまで生徒たちの様子を温かく見守っていただきました膳所高校の小島秀樹校長先生からは「堂々と自信を持って話すことが大事です。8月の交流大会に向けてもっと練習を重ねて皆さんがんばりましょう！」と熱いエールをいただき、生徒たちもそれに応えるべくしっかりと校長先生のメッセージを胸に刻んで閉会となりました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- ディベートの仕組みや魅力、自分の発言の改善点をとても丁寧に解説してもらった。
- ふだんアカデミック（ディベート）をやっているのですが、その場で考えて話す即興型英語ディベートはいい経験になった。
- ジャッジの方々が自分たちの良い点を見つけてくださるのが嬉しかったです。
- 英語が出てこなくて焦ったけど良い経験になった。
- 即興で物事を考えるのはとても難しいと感じた。日本語でも難しいのに他言語だとなおさらだった。
- その場で英語で主張や反論を考えて言うことはとても難しかったです。説得力が出るような主張を考えたり相手の主張に対する反論を考えたりすることは面白かった。
- 大会に向けてなどという域を超えてまた来ていただきたいです。
- 本当に学ぶことが多かったです。パーラメンタリーディベートが持つ緊張感と達成感がすごく好きになりました。





2.13 高松高等学校即興型英語ディベート体験会

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

日時：2019年7月22日（月）13:00～15:30

場所：香川県立高松高等学校

参加者：生徒18名（教員含む）、PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ（スカイプ）

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI財団

全員が、即興型ディベートは初めてということで、しっかりとルール説明に臨みました。1 ラウンド目は、言葉がうまく出てこない場面も少し見られましたが、生徒達は自分たちの主張を英語で精一杯絞り出していました。2 ラウンド目は、教員同士のラウンドテーブルも加わり、3つのテーブルで行いました。生徒たちは1 ラウンド目にジャッジからもらったアドバイスを早速生かして、相手の主張をじっくり聞き取った上での反論も丁寧で、主張を支える根拠となる理由に加えて、高校生らしい具体的な例が双方から次々と提示されるなど、非常にレベルの高い、また笑顔の多い白熱したラウンドとなりました。また、効果的なPOIも多く出され、POIに即興で答えようとする前向きな姿勢がどのテーブルでもあり、スピーチの持ち時間をオーバーする生徒も出るほどの盛り上がりを見せました。ラウンド終了後にジャッジに質問に行く生徒も見られ、また、12月の全国大会の案内を聞くやいなや「出たい!」、「一緒に出ようよ!」と握手をして盛り上がる生徒の姿も複数見られました。ラウンド後は、ベストディベーターをとった生徒と教員から、それぞれに感想が共有されました。教員の方からは、関西交流大会への見学希望や、四国交流大会の開催への意欲的なコメントもいただき、高松高校を基盤に、四国エリアへ即興型英語ディベートの輪が広がっていく可能性を感じられる体験会となりました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- 初めてのディベート授業でしたが、ただのスピーチではなくて、相手の意見をしっかりと聞いて、即興で反論を考えて話すことが本当に楽しかったです。
- 頭をたくさん使って、交互に話して議論を深めていくのが楽しかったです。ESSに入っているので、部活でもやってみたいと思いました。
- 英語学習のモチベーションを上げられました。今日パラメンタリーディベートを体験出来て本当に良かったです。
- 英語力や即興で考える力、コミュニケーション能力をもっと伸ばしていきたいと思いました。そして、将来いつかするであろうプレゼンや海外出張などにも、これらの能力はいかせられると思いました。
- 一番最初のディベートは言葉が出なくて大変だったけれど、2回目は自分の考えをしっかりと伝えることができ、英語で反論もできて、とても楽しかったです。
- 相手の言ったことを聞いて、反論を考えるのはとても難しかったです。しかし、話しを構成する力やその他様々な力がつきそうに思いました。後から、「あれが言いたかった！」というものが多くて悔しかったです。英語のモチベーションに繋がりました。
- 何を伝えたいのか、結論さえ見失わなければ、主張を伝えられるかなと思いました。単語力をUPしてもっと話せるようになりたいです。
- たくさんの考え方があるということを感じられました。授業でもしたみたら、スピーキング力ものびて楽しいと思います。
- ジャッジからフィードバックをもらったことで、嬉しい気持ちになり、さらにモチベーションがあがりました。





2.14 高知追手前高等学校即興型英語ディベート体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

日時：2019年7月23日（火）13:30～16:00

場所：高知県立高知追手前高等学校

参加者：生徒10名、教員2名、PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ

助成：公益財団法人 日本財団、 公益財団法人 KDDI財団

9月28日から2週間の留学体験に参加する生徒が体験会に参加しました。会に先立ち、教頭の和田拓先生より、留学準備を兼ねた事前研修の一環として、即興型英語ディベート体験会で気づきや学びを得てもらいたいと参加者に激励の言葉をいただき、体験会が始まりました。準備型英語ディベートの経験者が数名いましたが、即興型ディベートは初めてということで、しっかりとルール説明に臨みました。1ラウンド目では、準備時間15分間の時間配分に戸惑う様子も見られましたが、緊張しながらも、声も大きく、アイコンタクトやジェスチャーもあり、伝える相手を十分意識したスピーチが多く見られました。2ラウンド目では、1ラウンド目にジャッジからもらったアドバイスを早速いかし、また準備時間の時間配分も良くなり、チームワークよくお互いのアイデアや意見を出し合い、整理しながら、スピーチシートにびっしりと英語や日本語で主張や理由、具体例を書き込む姿がどのチームにも見られました。また、相手の主張を確認するPOIや、効果的なPOIも増え、即興で答えるスピーチの中には光るキーワードや表現もありました。ラウンド後、ジャッジからベストスピーカーが発表されると、表情を輝かせながら、伝わる喜び、上手く表現できないもどかしさ、次はもっと相手を納得させたい！という感想が共有されました。参加した生徒全員から、とても楽しかったと挙手があり、12月21、22日に東京大学で行われる全国大会にも是非参加したいとの声が聞かれました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- 自分で考えて英語を話すという経験は実生活ではあまりなかったので楽しかったです。
- ほとんど準備時間がない中でのハラハラ感がとても楽しかったです。
- 初めてディベートをする私に、言い方などが上手じゃなくてもほめてくれて本当に嬉しかったです。これからもっと勉強をがんばって、話せる英語を身につけたいです。
- 仲間や相手の英語表現の良いところを見つけることができ、とても楽しかったです。
- はじめは、即興ディベートは緊張するし、難しいのは分かっているからいやだなあと思っていたけれど、やってみたら色んな考えが色んな英語で聞くことができとても楽しかったです。
- 最初は緊張したけれど、やらざるを得ない環境の中だと、腹をくくってできるんだと思いました。
- 自分にはない視点に「おお、なるほど」と思えて、とても面白かったです。
- 今自分が身につけている英語用法を組み合わせるのがとても楽しかったです。
- 自分の即興の英語が相手にきちんと伝わっていたことが嬉しかった。負けるとやっぱり悔しかったので、もっと相手を納得させられるような意見を出せるようになりたいです。
- 論理的思考力と英語運用能力の伸長が期待できる学習だと思いました。
- ディベートという時間をかけてしっかり準備をして臨むものという印象を持っていたので、即興という方法は意外でした。確かに、コミュニケーションはとっさに始まることも多いと思うので、このような体験をすることは良い訓練になるかもしれないと感じました。





2.15 松山東高等学校即興型英語ディベート体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

日時：2019年7月24日（水）13:00～15:30

場所：愛媛県立松山東高等学校

参加者：生徒11名、教員2名、PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ（スカイプ）

助成：公益財団法人 日本財団、 公益財団法人 KDDI財団

2019年3月に即興型英語ディベート教員研修に参加された秋山先生を中心に、3年生9クラスにて4月より通常授業内に即興型英語ディベートをクラス活動の一つとして取り組まれていることもあり、3年生のディベートスピーチは構成もよく、堂々とした説得力のあるものでした。経験者のスピーチの良い点を、1年生2年生は素早く吸収し、2ラウンド目では自分たちの主張を支える、根拠となる理由に加えて、理由を支える具体例の描写も素晴らしくできていました。また身近な話題だったこともあり、効果的なPOIの応酬が続き、持ち時間では言い足りなくなるほどに英語で話し続けられる生徒が多くいました。非常に白熱した、また身近な具体例の応酬に笑いや笑顔の多い体験会となりました。今回参加した1年生2年生全員からも、即興型英語ディベートを通常授業でやってみたいとの感想があり、また12月21、22日に東京大学で行われる全国大会にも是非参加したいとの声が聞かれました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- 今まで一度も経験をしたことがなかったので、とても新鮮で貴重な経験になりました。
- 自分の発想が相手に伝わることの気持ちよさに改めて気付いた。これからもディベートに興味を持って積極的に参加したい。
- 短い準備時間（15分）でも、仲間と考えを深められ充実していました。広い世界を見られた気がしてとても楽しかった。
- 即興で考えることが難しかったです。でも、一人ひとりにアドバイスをもらえて、次に気をつけたら良いところがとてもよく分かりました。周りの人の意見を聞くことで、色々な視点も学びました。
- 自分の出来ていた所とそうでなかった所を評価してもらえたことで、自信につながりました。また、次に取り組む意欲がわきました。
- 自分の意見や考えを伝えるときのポイントを学ぶことができました。
- 授業でのディベートや英作文でもいかせる汎用性の高いアドバイスをもらえて、楽しい体験会でした。
- 身近な話題についてじっくり考えることができ、相手側の意見も非常に参考になりました。
- 全員が英語を話し続けようとする態度が良かった。
- 普段の授業でディベート活動を行う時に、今日の体験会でみられたプレパタイム中の生徒への声かけやジャッジコメントを参考にしたい。
- 一学期間、授業で6～7回ディベート活動を経験していた3年生が、堂々と反論や立論をしていたので、取り組みの効果を感じることができました。
- 生徒たちが生き生きと英語を話している姿を見ることができて、良かったです。





2.16 PDA徳島市立高等学校即興型英語ディベート体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

日時：2019年7月25日（木）13:00～15:30

場所：徳島県立徳島市立高等学校

参加者：生徒15名（1年生：4名、2年生：13名）、

教員7名（徳島市立：2名、徳島北：1名、城東：2名、県立総合教育センター：2名）、

PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ（スカイプ）

助成：公益財団法人 日本財団、 公益財団法人 KDDI財団

即興型英語ディベートが初めての生徒がほとんどということで、しっかりとルール説明に臨んだ後、実践ラウンドを2テーブル（4人チーム対4人チーム、4人チーム対3人チーム）で行いました。4チームそれぞれに1名ずついる1年生を、先輩の2年生達が頼もしくリードする姿が見られ、ディベートは個人戦ではなく「チームプレイ」であること、限られた時間の中でチームメイトとしっかりコミュニケーションをとり、一貫性のある主張を組み立てていくことが大事であることを、すでに習得しているようでした。1ラウンド目は、持ち時間3分のうち、半分くらいを残してスピーチを終える生徒が多かったのですが、2ラウンド目は、相手の主張内容を積極的に確認するPOIが双方から出され、持ち時間いっぱいスピーチが増え、互いの主張と反論がしっかりとかみ合った白熱した議論となりました。体験会に参加した生徒のほぼ全員から、即興型英語ディベートを通常授業でも行いたいとの感想があり、今後開催予定の四国交流大会にも積極的な意見もきかれました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- 先輩達と一緒に協力できたことは、とても良かった。楽しみながら学べた2時間半は貴重だった。
- ディベートで勝敗が決まるというのは、達成感を感じるものだった。また、それぞれにアドバイスをしてもらったので自分の英語を見つめ直す機会となった。
- 今回のディベートでアドバイスしてもらったことや、プレゼンする際のコツを、ディベートに限らず、他の事にもつなげていけたらいいなと思った。
- グループで論題について話し合い発表したり、その場で即興で反論を考えたりするのが、自分の創造性や知識、技術を試すことができて楽しかった。
- 体験会に参加して、パラメンタリーディベートは楽しく、また、自分の成長につながると感じました。また機会があれば、参加したい。
- 自分が思っていたよりも全然できなくて大変でした。そして、即興型の英語はやっぱり大切だなと感じました。
- 初めは上手くいかなかったけれど、アドバイスを聞いて、チームで準備時間の初めに作戦を立てると少しずつうまく主張できるようになって、楽しかった。
- 言えないながらも、周りと悩みながら協力できたところがとても楽しかった。単語だけでも言おうと、実際言えるようになったので良かった。今後も続けたいと思います。
- 生徒達も大変集中して聞いたり、話したりしなければならず、授業で行っていただけるといいと強く思った。
- ルールが分かりやすいので、授業でも使いたいと思います。
- 実践2ラウンドを通して、生徒の上達が大きく驚きました。
- 英語ディベート研究会が県の組織としてあるので、一校だけでなく県下的にも普及させたい。



開催日時：2019年7月27日（土）09:45-15:30

参加者：全8校、生徒39名

（青森高校、弘前高校、田名部高校、八戸聖ウルスラ高校、三沢高校、青森南高校、八戸高校、青森明の星高校）

主催：青森県高等学校教育研究会外国語部会、PDA

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

講師：青森高校教諭、青森南高校教諭、三戸高校教諭、五戸高校教諭、三本木農業高校教諭、東京大学学生、PDA スタッフ

1. 開会式

即興型の英語ディベートは初めてだという生徒も多く緊張感が漂う中、青森県教育研究会外国語部会長・青森県立青森南高等学校校長である中道哲先生より「意欲的に今回の交流大会に参加した皆さんに敬意を評したいと思います。即興型の英語ディベートに取り組むことによってこれから先グローバル社会を生きる上で必要な能力が培われることを確信しているので、ぜひこの交流大会を有意義な1日にしてください。」と激励のお言葉をいただき、第4回青森県即興型英語ディベート交流大会が開幕しました。

その後、ルールのおさらいやPOI（質疑応答）の練習を行いました。モデルディベートをスピーチのメモを取りながら聞き、実際のディベートのイメージをつかんだらいよいよ他校の人とチームを組んでディベートを行うミックスディベートの始まりです。



青森県教育研究会外国語部会長 中道哲先生



元気よくPOI！！

2. ミックスディベート「大学入試の受験生には彼氏/彼女がいた方がいい。」

今回チームを組む他校の生徒と自己紹介をし、ミックスディベートの始まりです。初対面の生徒同士でしたが、身近なテーマに準備時間の議論は盛り上がりました。ディベートでも受験生の恋愛について自分の知っているエピソードを具体例として説明し場が盛り上がるなど、楽しくディベートをしている様子が見られました。



ミックスディベートでPOI！！



ディベート後はお互いの健闘を称え握手をかわします

3. 第1ラウンド「コンビニエンスストアの深夜営業をやめるべきである。」

いよいよ表彰に関わるラウンドの始まりです。ミックスディベートの時とは打って変わって、少し緊張した空気が流れている中、第1ラウンドが始まりました。ニュースや新聞でも頻繁に取り上げられているコンビニの深夜営業というテーマに、自分の知っている知識をスピーチに盛り込む生徒も見られました。ディベート後に行われるジャッジの先生からのフィードバックを真剣な面持ちで聞き、次に活かそうとメモを取る様子が見られました。



準備時間の様子（青森南A）



青森明の星A vs 八戸聖ウルスラ



八戸A vs 弘前

4. 昼食

ミックスディベートと第1ラウンドの合計2ラウンドを終え、少し頭が疲れたところで昼食時間です。味方チームと第1ラウンドの反省を次にどう活かすかについて議論したり、他校の生徒と第1ラウンドの話や部活動の話をしたり、積極的にコミュニケーションをとる様子が見られました。



5. 第2ラウンド「お店のレジ袋の有料化を義務づけるべきである。」

昼食をとってエネルギーをチャージしたところで第2ラウンドです。準備時間では第1ラウンドでジャッジから受けたコメントを思い出しながら、相手への POI をあらかじめ考えたり、具体例を考えたりする生徒も多く見られました。ディベートが始まると、環境への影響や、消費者の行動の変化などについて白熱した議論を繰り広げました。



青森南 B vs 八戸 B



田名部 vs 青森明の星 A

6. エキシビション「会社は週休3日制を導入すべきである。」

ジャッジをした講師がもう一度この人のスピーチを聞きたいと思った生徒が選出されるエキシビションディベート。エキシビションディベーターを発表するとチームから歓声が湧きました。準備時間中は PDA スタッフトして参加した東京大学の学生より、立論の組み立て方などについてレクチャーが行われました。準備時間が終わるとエキシビションディベートの始まりです。エキシビションディベートでは、ストレスが減ることで過労も減るのか、それともむしろ1日当たりの仕事の量が増えて過労に繋がってしまうのかといった観点や、ワークライフバランスや仕事の効率、給料などの観点からどちらがよいかなどについて白熱した議論が展開されました。また、POI も活発に行われるなど、それぞれの生徒がお互いの話をしっかり聞き、考え、レスポンスする様子が見られました。

ディベートが終わるとメインジャッジを務めた青森高校の當麻先生より勝敗の発表とその理由についての説明が行われました。



勢いよく POI !!



POI の応酬が続きます



當麻先生による勝敗の発表

7. 表彰

すべてのディベートが終わり、それぞれ優秀なパフォーマンスを行った生徒たちが表彰されました。

チーム賞

- 1位 青森 A チーム
([]、 [])
- 2位 青森 B チーム
([]、 []、 [])
- 3位 青森明の星 B チーム
([]、 []、 [])



1位 青森 A チーム



2位 青森 B チーム



3位 青森明の星 B チーム

ベストディベーター

■■■■	さん	(青森 A)
■■■■	さん	(青森 A)
■■■■	さん	(青森 B)
■■■■	さん	(弘前)
■■■■	さん	(田名部)
■■■■	さん	(八戸聖ウルスラ学院)
■■■■	さん	(八戸聖ウルスラ学院)
■■■■	さん	(青森南 A)
■■■■	さん	(青森南 A)
■■■■	さん	(青森南 B)
■■■■	さん	(八戸 A)
■■■■	さん	(八戸 A)
■■■■	さん	(青森明の星 B)



POI 賞

■■■■	さん	(青森 A)
■■■■	さん	(青森 A)
■■■■	さん	(青森 B)
■■■■	さん	(弘前)
■■■■	さん	(田名部)
■■■■	さん	(八戸聖ウルスラ学院)
■■■■	さん	(八戸 B)
■■■■	さん	(青森明の星 A)



エキシビションディベーター賞

PM	■■■	さん	青森高校
LO	■■■	さん	八戸聖ウルスラ高校
MG	■■■	さん	青森明の星高校
MO	■■■	さん	青森高校
LOR	■■■	さん	八戸高校
PMR	■■■	さん	青森明の星高校



8. 閉会・集合写真

全てのディベートが終了し、青森南高校の小角先生より「これからもっと青森に即興型の英語ディベートを広めていきたい。そのためには生徒と教員の協力が不可欠です。これからも一緒に頑張りましょう。」と励ましのメッセージをいただきました。最後に全員で集合写真を撮り、今年の青森交流大会を締めくくりました。



POI のポーズで集合写真

9. 参加者の声 (アンケートより抜粋)

- POI をいっぱいできてとても楽しかった。いろんな人とディベートできて、様々な観点から物事を見られるようになった。勝ち負け関係なく、自分の欠点は多く見られたのでそこを直したい。(青森高校)
- いろんな学校とディベートができてよかった。また今後もこういう機会があれば参加したい。(青森高校)
- 少ない。もっと回数を増やして欲しい。ミックスディベートをもっとやってもいいと思う。(青森高校)
- 普段の英語の勉強や英語での会話とは違った感覚で英語を使うことが新鮮だった。(弘前高校)
- ディベートはとてもおもしろかったです。また、AREA (Assertion・Reason・Example・Assertion) などディベートのコツもわかったので良かったです。(弘前高校)
- 最初にミックスディベートをやって、他の人と話せて緊張がほぐれました。そのあと待っている時間などにお互いの学校のことを話せて楽しかったです。(田名部高校)
- 今回初めてディベートをやって、自分の知識不足やリスニング力、即興でやる力のなさをとても感じました。同じ学校の先輩や、ほかの学校の英語のディベートはどれも即興なのにたくさんの例や POI でとても説得力があっすごいと思いました。エキシビションのディベートは同じ高校生とは思えないくらいすごくて、聞けてよかったです。(田名部高校)
- 英語でのディベートは今回が初めてでしたが自分の考えを相手に英語で伝えることの難しさ、相手や他の人たちの考えの多様さを体験できたのでとても楽しかったと思った。(八戸聖ウルスラ高校)
- 同じ Government (肯定) 側でも違う意見が出たり、お互いにディベートし合うことで新たな視点でものを見ることができて楽しかったです。(八戸聖ウルスラ高校)
- ディベートが始まったときはすごく緊張してできないと思っててネガティブな気持ちになったけど、だんだんうまく伝えられない悔しさや話せてる人を見てこうなりたいという気持ちになることができました。(三沢高校)

○最初はあまり乗り気ではなかったけれど、同じ学校の仲間たちと協力して1人目～3人目まで発表し終えた後、達成感が良く楽しいと感じた。考えることは大変だけど、自分で調べたり、仲間と相談して英文を作成することはとてもおもしろい。(三沢高校)

○実際に自分よりレベルの高い人のディベートを見れてよかった。単純な英語力でなく深く考えた上での様々な意見をつながりを考えながら話すのはこれから自分に必要なスキルの一部だと思った。(青森南高校)

○最後のエキシビジョンディベートがすごかった。英語をしゃべる授業を普段からしたい。(青森南高校)

○短い時間で説明を考えるためのポキャブラリーや話し方を学べた。(青森南高校)

○初参加で緊張しましたが、とても楽しく取り組むことができました。また、英語による表現だけでなく、現代社会の問題も知らなければならないと思いました。他の学校の生徒とも積極的にはなすことができ、普通ではできないことだったと思います。今日学んだことを持ち帰って更に自分の気持ちを高め、いろいろなことにチャレンジしていきたいです。(八戸高校)

○今日は初めての経験ができて楽しかったです。コツや自分の改善点も教えてくださって大変勉強になりました。学校でもぜひやってみたいと思います。前提知識となる社会の知識も不足していたと思うので、これをきっかけに幅広い知識を持っていきたいです。(八戸高校)

○学ぶことが多すぎてとても楽しかった。世界観が広がった！ととてもなくいい経験になった。(青森明の星高校)

○他校の生徒とディベートという形での交流は初めてでとてもおもしろかったし、緊張したのと同時にいい経験になった。明の星では即興型ディベートはないのでぜひ取り入れてほしいと思った。とても良い日でした。(青森明の星高校)

○年々議論の質が高くなっていて、その伸びを見るのが特に楽しかったです。(教員)

○即興ということでかなり難しい活動だと感じましたが、生徒たちが一生懸命互いの英語を聞き、話していたのですばらしいと思いました。他校の生徒同士交流できているいろいろ話せていたようだったので、その点においても良い取り組みだと思います。(教員)

○授業の中でも今回のようなディベートを是非実践してみたいと感じた。ディベートを通じて英語でコミュニケーションをとる楽しさや難しさ、他にも身近な話題について興味関心を深めることを生徒に体験させていきたいと感じた。(教員)

○チームだからこそ、人前で英語を使ってやりとりできるように各生徒が務め、テーマへの理解も深まるのだと思った。(教員)

○他校の生徒たちの議論を見て聞いてとても刺激になった。本校の生徒にとっても自分の意見を伝えることができ、とても良い経験となった。(教員)

○教員としても他校の生徒の英語力を感じられる機会は少ないため、とても刺激になりました。また、ディベートの形やジャッジの流れについても学ぶことができ、今後の授業や指導に活かしていきたいと思います。(教員)

○授業の幅が広がったように思います。何より生徒が楽しみながらやっているのが嬉しかったです。(教員)

○即興がたディベートが生徒の英語力向上につながることを実感した。(教員)

○高校生の生徒にとっては力を試す良い機会だったと思います。(教員)

○生徒たちが一生懸命英語を話していて改めてディベートのよさに気づくことができた。(教員)

○レベルの高い英語ディベートに触れることができた。(教員)

○ディベートに取り組むときに難しいと感じてハードルが上がってしまいがちですが、生徒の様子をみると楽しそうにやっていたので、ディベートは楽しいものだと感じてできるよう、工夫して授業に取り入れていきたいと思った。ディベートを通して生徒のモチベーション、思考力など様々な力が身につくが、継続して取り組むことが大切だと思った。(教員)



2.18 京都市立堀川高等学校即興型英語ディベート体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

日時：2019年7月27日（土）10:00～12:30

場所：京都市立堀川高等学校

参加者：生徒5名、教員2名、PDA認定教育ジャッジ

助成：公益財団法人 日本財団、 公益財団法人 KDDI財団

ラウンド前のルール説明では、副校長の平井先生自ら質問をして下さり、また、英語教諭の重安琢馬先生も2ラウンドともにジャッジとして実践参加されるなど、自発的に学ぶ姿勢を惜しみなく見せてくださいました。1ラウンド目から初心者とは思えないほど分かりやすい立論スピーチ、また的確な反論が肯定／否定側の両サイドからあり、双方の議論にしっかりとエンゲージした白熱したラウンドが繰り広げられました。一般論ではなく、説得力のある聴衆の心に響く具体例も毎回双方から出され、またスピーチ内容や構成も論理的に組み立てられていました。難しい反論にも、相手に反論する理由-反論理由を支える具体例-だから相手の論は立ちません、という説得力のある構成を即興で組み立てる生徒の姿に、ポテンシャルの高さを感じました。ジャッジとして参加された重安琢馬先生からも、1ラウンド目のスピーチと2ラウンド目のスピーチの違い、生徒たちの伸び幅の大きさに感嘆の声があがりました。8月に北野高校で行われる関西交流大会や12月に東大で行われる全国大会にも、「一緒に出ようよ！」と体験会で同じチームになった仲間に声をかける生徒の姿もあり、和気あいあいとした、かつ知的な発見や面白さのつまった体験会になりました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- 論の組み立て方を考える楽しみを知ることができ、とても楽しかった。
- とっさに考えて、発言する難しさを体験できた。自分に足りないものが何かということが分かり、改善する方法を考える糧となった。とても楽しかった。
- フローシートの作りとかがとても分かりやすく、即興ディベートの流れがとても良く理解できました。
- 今までやったことのあるディベートが日本語の準備型ディベートだったので、違う楽しさ、難しさを見いだせました。
- 英語部でもディベートの活動を取り入れたいと思います。





2.19 神戸高等学校即興型英語ディベート体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

日時：2019年7月30日（水）13:00～15:30

場所：兵庫県立神戸高等学校

参加者：生徒17名、教員3名、PDAスタッフ、京都大学他

助成：公益財団法人 日本財団、 公益財団法人 KDDI財団

体験会の開始に先立ち、神戸高校校長世良田先生よりお言葉を頂戴いたしました。

「即興型英語ディベートには、英語力、論理力、コミュニケーション能力など、幅広いスキルが身につきます。本日の体験会では楽しくこれらの力をみにつけてください」

ルール説明後、大学生ディベーターのモデルディベートを見ていただき、スピーチの流れを掴んだ後、早速ディベート実践が始まりました。

第1ラウンドでは、意見や反論の組み立て方をしっかりと構成立ててできており、論理的な流れを意識しているスピーチが多く見られました。

続いての第2ラウンドですが、スピーチに関してはどのテーブルも1つめの論題の際よりも上手な論を展開し、自分たちの意見を述べられるようになっており、1日での上達の早さを見ることが出来ました。

ディベート後、スタッフに駆け寄って「交流大会までに準備すべきことは何か」を質問する生徒がいたり、ジャッジのアドバイスを姿勢良く聞く姿はとても熱心で今後活かされることが期待されます。

次回の交流大会への課題、「相手の意見をしっかりと聞く」「効果的なPOI（質疑応答）を出す」を8月24日（土）までに克服すべく練習の話をしておられたのが印象的でした。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- 人前で英語で話すのはあまり得意ではなかったけど、後半の方では特にけっこう話せて楽しかった。
- けっこう緊張したので、精神的につかれたけど、勝てた時はうれしかった。
- 普段英語の授業を受けたり、問題を解いたりしているだけとは言い方が異なるのだということが分かった。今回の経験を活かして考えていきたい。
- 普段の授業では体験できない特別な経験になったし、今後の自分のためにも有効な力になる時間だったと思う。
- 臨機応変にスピーチする難しさと楽しさを実感し、とても有意義な時間になりました。自分の力不足を実感すると同時に、さらなる向上心にもつながりました。次の機会にはもっとレベルアップしたディベートをできるように頑張りたいです。今回の授業に参加できてとてもよかったです。
- 1回目に比べて2回目为上達している感じが分かった。
- 相手の反論を考えたり、同チームの人と話し合ったり、単なる英語力以外にも鍛えられてとても良い経験になったと思う。
- 緊張のあまり、楽しさを感じる暇がなかった。
- 部活でしているディベートと違って、先生方が個人にアドバイスを下さったのがとても有り難かったです。反論はすごく難しかったけど、先生にほめられた時は嬉しかったです。
- どちらのチームも1つめのトピックの際よりも上手く意見を述べられるようになっており、すぐに上達していると感じた。



2.20 文部科学省後援 PDA 全国高校 即興型英語ディベート合宿・大会 2019 報告書

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：2017年8月7日(水)～8日(木)

(1日目) 練習3ラウンド、レクチャー、予選1、レクリエーション、予備ラウンド

(2日目) 予選2、予選3、準決勝、決勝

会場：ホテルフクラシア大阪ベイ

主催：一般社団法人 パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

後援：文部科学省、JST 未来社会創造事業 (探索加速型) 「知」の循環と拡張を加速する。
対話のメカニズムデザイン

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団



参加校：

(千葉県)渋谷教育学園幕張高等学校, (東京都)富士見中学高等学校, (神奈川県)神奈川県立柏陽高等学校, 神奈川県立相模原高校, 浅野学園中学高等学校, 栄光学園, 湘南白百合学園高等学校, 聖光学院高等学校, (栃木県)栃木県立佐野高等学校, (長野県)長野県松本深志高等学校, (福井県)福井県立藤島高等学校, (愛知県)愛知県立半田高等学校, 愛知県立岡崎高等学校, (奈良県)奈良県立奈良高等学校, (大阪府)関西創価高等学校, 大阪教育大学附属高等学校平野校舎, 関西大倉中学校・高等学校, (京都府)京都府立嵯峨野高等学校, 京都府立鳥羽高等学校, (兵庫県)神戸大学附属中等教育学校, 雲雀丘学園高等学校, 神戸市立葺合高等学校, (福岡県)福岡県立城南高等学校, 福岡県立八女高等学校, (山口県)山口県立大津緑洋高等学校, 山口県立宇部高等学校, (熊本県)真和高校, (宮崎県)宮崎県立宮崎北高等学校

(順不同)

開催趣旨：

〈高校生向けプログラム〉

本合宿・大会は、即興型英語ディベートの実践を中心としたプログラムで、集中的に「英語での発信力」、「論理的思考力」、「幅広い知識」、「プレゼンテーション力」、「コミュニケーション力」を鍛えます。大学生・大学院生をはじめとした補助スタッフによる手厚い指導も伴い、効果的に上記スキルを向上させます。合宿での集中実践の成果を効果的に発揮できるよう、後半には大会を設けています。また他校生徒との交流も深まります。

〈高校教員向けプログラム〉

本合宿・大会では、生徒のみならず、教員を対象としたプログラムを同時に進行させます。授業に導入できる即興型英語ディベートの手法を知っていただく、また即興型英語ディベート実践を経験していただくプログラムとなっています。授業での導入を前提とするため、合宿では一つのコマを約 50 分としています。また、さらに効果的なプログラムを共に開発するための意見交換会も設けています。

論題（論題は、毎回ディベート開始 15 分前にはじめて発表されます）：

論題 1：All P.E. classes should be outsourced at elementary and junior high schools.

（小中学校において、体育の授業はすべて業務委託とするべきである。）

論題 2：The number of classes taught by teachers should be reduced by half at high schools and universities, by introducing e-learning.

（e-learning を導入し、高校・大学教員の担当授業数を半減すべきである。）

論題 3：Mandatory paternity leave should be introduced.

（男性の育児休暇を義務化するべきだ。）

論題 4：NHK should be scrambled.

（NHK のスクランブル化を実現するべきである。）

論題 5：Gender and age should be removed in school application forms.

（入試願書における性別および年齢の記載を廃止すべきである。）

論題 6：Companies should encourage employees to wear a skirt at work.

（スカートで出勤することを推奨すべきである。）

論題 7：People should have a microchip implant in their own bodies.

（人体にマイクロチップを埋め込むべきである。）

論題 8：Companies should introduce the four-day-workweek system.

（会社は週休 3 日制を導入するべきである。）

1日目

開会式では、まず今回の参加校の紹介がなされました。学校の名前が呼ばれると、席を立ち「頑張るぞー！おー！」と叫び、気合いを入れる学校も見られました。そのあと、スタッフの紹介、合宿スケジュールの確認、ルール諸注意が行われました。今回は、授業の部、課外活動の部 初心者、課外活動の部 一般、教員の部の4部が同時並行です。授業の部においては、学校の通常授業において即興型英語ディベートに取り組んでいる学校を対象とし、普段の授業への積極的な参加の成果を発揮する場、また合宿で学んだことを各校に持ち帰られるシステムとしています。



開会式の様子①



開会式の様子②

練習ラウンド1の論題は「小中学校において、体育の授業はすべて業務委託とするべきである。」です。教員の部はラウンドをジャッジする先生、生徒の様子を見学する先生に分かれました。各生徒が、自分たちが小中学校に通っていたころを思い出しながらどのような議論ができるかブレストシート（アイデア出しシート）にメモしていきました。ディベートが終わると、他校の生徒と自己紹介をしたり、意見の共有をしたりする姿が見られました。



練習ラウンド1の様子



お互いの健闘を称え握手を交わします

練習ラウンド2の論題は「e-learningを導入し、高校・大学教員の担当授業数を半減すべきである。」です。現状における教員の負担、教育の質など様々な観点からディベートが行われました。



堂々とPOI(質疑応答)!



ジャッジの先生からのコメント

練習ラウンド3の論題は「男性の育児休暇を義務化すべきだ。」です。ジェンダーや家族の事情など様々な観点からディベートが行われました。



ジャッジの目をみて堂々とスピーチ



教員も同じ論題でディベートを行います

生徒に対しては強いポイントのたて方について、教員に対してはジャッジの仕方、勝敗のつけ方、スコアのつけ方に関するレクチャーが行われました。



レクチャー (生徒)



レクチャー (教員)

夕食をはさみ、世界交流大会に向けたレクリエーションが行われました。今年はマジシャンの方によるマジックの披露と、家に帰ってからできるマジックの紹介がなされました。最後に、「マジックで一番大事なのはいかに聴衆を惹きつけるトークができるか。同じマジックでもトークがつまらなければつまらない。どうなるほどって思わせるかはトークにかかっている。だから常に見ている人、聞いている人を意識することが重要だと思う。」と締めくくりました。一日目の最後は、生徒の予選1です。予選1の論題は「NHKのスクランブル化を実現すべきである。」です。レクチャーで学んだことを早速予選に活かしていたチームもたくさんありました。



マジックを披露！



ジャッジを見てスピーチ

合宿内容が終了後、生徒の希望者は大学生スタッフのエキシビジョンディベートの観戦および大学生による相談コーナーに参加しました。エキシビジョンディベートでは、予選1試合目の論題について大学生スタッフがディベートを披露しました。相談コーナーでは進路に関する相談やディベートに関する相談などが高校生と大学生間で行われました。教員は意見交換会に参加し、自己紹介をはじめ、即興型英語ディベートに関する情報交換、交流を深めました。



大学生によるディベートの観戦



ディベートについて相談

2 日目

2 日目は朝から予選 2 が始まります。予選 2 の論題は「入試願書における性別および年齢の記載を廃止すべきである。」です。差別がなくなり平等な社会を実現するためには何が必要なのか真剣に議論を行いました。



積極的に POI を行います



堂々と POI をしています

続いて予選 3 です。予選 3 の論題は、「スカートで出勤することを推奨すべきである。」です。他の国での事例や日本の状況を例に出しながら、女性の社会進出や、クールビズ、男性のスカート着用など様々な議論が飛び交いました。



予選 3 の様子①



予選 3 の様子②

昼食前に、参加した教員の投票によって選ばれた教員によるエキシビジョンディベートが行われました。エキシビジョンディベートは「高校生はアルバイトすべきだ。」でした。教員の積極的な POI や深い分析などに見ていた生徒にも刺激になったようです。また、このエキシビジョンディベートの勝敗は、観戦していた生徒とその他教員によって決められました。今回は否定側の勝ちとなりました。

そのあと昼食を経て、準決勝進出チーム（授業の部、課外活動の部(一般)）、決勝進出チーム（課外活動の部(初心者)）の発表（ブレイクアナウンスメント）が行われました。



エキシビジョンディベート



教員も POI !

予選とは違い、多くの観客が見守る中、準決勝（授業の部、課外活動の部(一般)）、決勝（課外活動の部(初心者)）が開催されました。論題は「人体にマイクロチップを埋め込むべきである。」でした。その利便性やリスクについて活発な議論が交わされました。



準決勝でも POI !



決勝（課外活動の部 初心者）

いよいよ決勝です。決勝の論題は「会社は週休3日制を導入するべきである。」です。ワークライフバランス、女性の社会進出、仕事の負担や経済への影響などについて堂々とディベートを行いました。



決勝戦（授業の部）



決勝戦（課外活動の部 一般）

結果

チーム賞（授業の部）

- 優勝： 神戸市立葺合高校
準優勝：福岡県立城南高校 B
3位： 大阪教育大学附属高校平野校舎
宮崎県立宮崎北高校



葺合高校

チーム賞（課外活動の部 初心者）

- 優勝： 栃木県立佐野高校 B
準優勝：聖光学院



城南 B

チーム賞（課外活動の部 一般）

- 優勝： 神奈川県立柏陽高校 A
準優勝：福井県立藤島高校・神戸大学附属中等教育学校
3位： 神戸大学附属中等教育学校 A, B



佐野 B

ベストディベーター賞（授業の部）

- 宮崎北 _____
- 大教大 _____
- 大教大 _____
- 葺合 _____
- 葺合 _____
- 城南 A _____
- 城南 B _____
- 城南 B _____

ベストディベーター賞（課外活動の部 初心者）

- 岡崎 A _____
- 岡崎 B _____
- 雲雀丘 A _____
- 雲雀丘 A _____
- 雲雀丘 B _____
- 雲雀丘 B _____
- 聖光学院 _____
- 聖光学院 _____



聖光学院

- 聖光学院 _____
- 柏陽 B _____
- 富士見 C _____
- 富士見 C _____
- 宇部 B _____
- 真和・八女 _____
- 嵯峨野 _____
- 大津緑洋 B _____
- 相模原 C _____
- 佐野 A _____
- 佐野 B _____
- 藤島 B _____



柏陽 A

ベストディベーター賞 (課外活動の部 一般)

- 栄光学園 _____
- 栄光学園 _____
- 鳥羽 _____
- 浅野 A _____
- 浅野 B _____
- 柏陽 A _____
- 宇部 A _____
- 宇部 A _____
- 宇部 A _____
- 富士見 A _____
- 富士見 A _____
- 富士見 B _____
- 神大中 A _____
- 神大中 A _____
- 神大中 B _____
- 神大中 B _____
- 神大中 C _____
- 関西創価 _____
- 奈良 A _____
- 奈良 A _____
- 奈良 B _____
- 松本深志 _____



藤島・神大中

- 松本深志 _____
- 大津緑洋 _____
- 白百合 A _____
- 白百合 B _____
- 白百合 B _____
- 藤島・神大中 _____
- 藤島・神大中 _____
- 藤島・神大中 _____
- 藤島 A _____
- 藤島 A _____

POI 賞 (授業の部)

- 城南 B _____
- 葺合 _____
- 大教大 _____
- 大教大 _____

POI 賞 (課外活動の部 初心者)

- 嵯峨野 _____
- 宇部 B _____
- 富士見 B _____
- 富士見 C _____
- 雲雀丘 B _____
- 藤島 B _____
- 藤島 B _____
- 佐野 B _____
- 佐野 C _____
- 柏陽 B _____
- 岡崎 B _____

POI 賞 (課外活動の部 一般)

- 藤島・神大中 _____
- 藤島 _____
- 白百合 A _____
- 関西創価 _____
- 神大中 A _____
- 神大中 A _____
- 神大中 C _____
- 神大中 C _____
- 柏陽 A _____
- 柏陽 A _____
- 浅野 A _____
- 浅野 B _____
- 浅野 B _____
- 藤島 A _____
- 奈良 A _____

エキシビジョンディベーター (教員)

- _____ 先生(栄光学園高等学校)
- _____ 先生 (京都府立鳥羽高等学校)
- _____ 先生(関西創価高等学校)
- _____ 先生(聖光学院)
- _____ 先生(神奈川県相模原高校)
- _____ 先生(栄光学園高等学校)



アンケート（抜粋）

生徒の声

- 他校との差を埋めるために練習を頑張りたいと思いました。また、たくさん試合ができ楽しかったです。(相模原高校・2年)
- 学校では普段ディベートをあまりしてないのでどういうふうに行ったらより効果的かということがよくわかりました。すごく勉強になった2日間でした。(宮崎北・2年)
- 他校との交流が出来て、非常に楽しかったです。また是非こういう機会があれば、参加してみたいと思います。ありがとうございました。(佐野高校・2年)
- レベルの高い他校の人と当たって勉強になりました。また大学生ディベートや教員ディベートの思考の深さに大変驚きました。(奈良高校・2年)
- 様々な高校とディベートができ、ジャッジの先生のリフレクションを経て試合ごとに改善していったのが良かったです。(神大中・2年)
- 自分の英語の力が全然足りてないことが分かり、これから改善すべき点を見つけたことが良かったです。貴重な経験ができました。(宮崎北・2年)
- 初の参加で不安だらけでしたが、全国の学校の人と戦い、交流をすることが出来て、とても貴重な時間を過ごすことが出来ました。(佐野高校・1年)
- やはり他校の生徒はとてもレベルが高くて、答えられなかったり上手く論を立てられなかったりしたけれど、2日間英語漬けで色々な考え方もできるようになれたのでとても楽しかったです。ありがとうございました。(城南高校・2年)
- 今回はレベルの高い大学生の方々のディベートを見たり、ジャッジをしていただいたりして良い経験になりました！そしてプロのジャッジの方にもジャッジをしていただけて貴重な経験になりました。本当にありがとうございました！(岡崎高校・2年)
- まわりのレベルがとても高い刺激になった。なかには、毎日ディベートをしている人がいて、圧倒された。また、1日目の夜には大学生のディベートを見せてもらい、各人の待ち時間は私たちの二倍の7分もあった。にもかかわらず、POIを断らなければならないほど、ということが次々と出ていて、すごいという言葉以外は当てはまらない。また、あとで紙を見せてもらおうと、メモくらいしか書いておらず、頭で英語の文書を作ると聞いた。僕もそれくらいのレベルになれたらいいなととても思いました。楽しい経験をありがとうございました。(雲雀丘高校・2年)
- 大変有意義な2日間を過ごさせていただきました。これほど高いレベルの高校が集まって練習できる機会はそうそうないので、常に練習相手に飢えている私たちとしては大変ありがたかったです。公認ジャッジの先生方には、ひとりひとりにアドバイスをいただき、質問にも丁寧に答えていただきました。この合宿で学んだことや悔しい思いを糧にして、明日からの練習に取り組んでいこうと思います。(奈良高校・2年)
- 他校と議論する機会が、私にとってはとても貴重な場だったので楽しかったです。ま

た、自分自身の改善点、反省点がたくさんあったように思いました。この経験を活かして、学校のディベートも頑張りたいです。(大教大・2年)

- とても有意義な時間になりました。まだまだ頑張れるなど思ったし、同年代のレベルの高い子たちのディベートを聞いてとても刺激になりました。(葺合高校・2年)
- 今回の合宿に参加することで、より多くの視点から自分の論理の偏りを直すことができました。非常に濃く、素晴らしい合宿をありがとうございました。(葺合高校・2年)
- ジャッジもいつもと違う色んな方からしていただいてレクチャーもしていただけて大変勉強になりました。(松本深志高校・2年)
- 様々な反省点が浮き彫りになったのでこれからの練習で意識していきたいです。(柏陽高校・2年)
- 大会お疲れ様でした。課外活動から初心者の方に参加させて頂きました。授業の部の方とも対戦させていただいたのですが、とても論理的で強くて、授業のレベルがとても高いのだと感じました。今日まで部活を通して沢山ラウンドをこなして復習する日々でした。プレパの時間の有効な使い方に連日悩んでいたのですが、7日の夜の時間で大学生のディベーターさんに沢山の助言を頂けたので、それを8日の試合には活かせたかなと思います。来年の参加も是非させていただきたいです。運営ありがとうございました。(富士見高校・1年)
- 色々な論題に触れることができてよかった。また、多くの生徒、ジャッジ、先生方との意見交換の場が設けられていて、とても役に立った。(藤島高校・2年)

教員の声

- 大変刺激的でした。授業で実践されている学校の生徒さん達が、頑張っている様子を見て、自分も導入したいな、という気持ちが高まりました。ありがとうございました。(渋谷幕張高校・教員)
- 普段生徒に指導していることを、自分が実際にやってみるとなかなか難しく、学校の講座での声かけの仕方もより濃いものになるように感じた。学ぶことの多い合宿だった。(雲雀丘高校・教員)
- さすがに全国大会ということでレベルが高かった。教員ディベートも刺激になりました。(大教大・教員)
- 初めての参加でしたが、充実した2日間ですごく勉強になりました。普段の授業では見ることが出来ない生徒の姿も見れて良かったです。(藤島高校・教員)
- 大変でしたが、勉強になりました。(松本深志高校・教員)

ご支援、ご協力いただきましたすべての皆様に心より感謝申し上げます。

以上

2.21 PDA 北海道即興型英語ディベート交流大会 2019 於 北海道札幌南高等学校

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会

開催日時：2019年8月16日（金）09:45-15:30

参加者：全4校、生徒30名

（北海道札幌南高校、北海道札幌西高校、北海道釧路湖陵高校、北海道旭川東高校）

協力：北海道札幌南高校

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

ジャッジ：PDA 講師、東京大学、一橋大学、秋田国際教養大学

1. 開会式

北海道から4校が集結し、北海道即興型英語ディベート交流大会2019が開幕しました。はじめに、札幌南高校の廣田校長先生より「人生は課題解決の連続です。課題解決に必要なのは知識の蓄積よりもそれをどのように活用するのか、自分はどうか考えるかということです。今日はぜひその力を養ってください。」と激励の言葉をいただきました。

その後、ルールのおさらいやPOI（質疑応答）の練習を行いました。モデルディベートをスピーチのメモを取りながら聞き、実際のディベートのイメージをつかんだらいよいよ他校の人とチームを組んでディベートを行うミックスディベートの始まりです。



札幌南高校 廣田校長先生



ルールの確認

2. ミックスディベート「大学入試の受験生には彼氏/彼女がいた方がいい。」

まずは今回チームを組む他校の生徒や相手チームの生徒チームと自己紹介を行いました。和やかに自己紹介を終えるとミックスディベートの始まりです。模試の結果が悪かったときに励まし合えるのではないかと、一緒に勉強するなどモチベーションにつながるのか、彼氏/彼女はいた方がいいのではないかと、むしろ受験期間に別れたときに立ち直れず受験にも影響するのではないかと、など様々な議論が展開されました。中には高校受験のときのエピソードを具体例として話すなど、大変盛り上がったラウンドとなりました。



ミックス 元気よく POI！！



ディベート 堂々とスピーチをしています

3. 第1ラウンド「NHKのスクランブル化を実現するべきである。」

ミックスディベートが終わるといよいよ表彰に関わるラウンドの始まりです。他校の生徒とチームを組み楽しくディベートをしていたときとは打って変わって、ピリピリとした空気が流れている中、第1ラウンドが始まりました。選挙結果の影響もあり昨今よく耳にするNHKのスクランブル化というテーマに、自分の持っている知識をスピーチに盛り込む生徒も見られました。公共放送の存在意義や、その情報は他のデバイスで入手可能なのかどうかなど様々な観点から白熱したディベートを行いました。ディベート後に行われるジャッジの先生からのフィードバックを真剣に聞き、次に活かそうとメモを取る様子も見られました。



遠隔から大学生スタッフがジャッジを行い、生徒もコメントをしっかりとメモしています

4. 昼食

ミックスディベートと第1ラウンドの合計2ラウンドを終え、少し頭が疲れたところで昼食時間です。チームメイトと一緒に、第1ラウンドの反省会を行ったり、英語学習について意見交換をしたりする様子が見られました。

5. 第2ラウンド「お店のレジ袋の有料化を義務づけるべきである。」

昼食をとってエネルギーをチャージしたら、いよいよ表彰対象のラウンドのうち最後の第2ラウンド目に突入です。準備時間では第1ラウンドでジャッジから受けたコメントを思い出しながら、相手の意見を予測して反論をあらかじめ考えたり、相手へのPOIをあらかじめ考えたり、具体例を考えたりする生徒も多く見られました。ディベートが始まると、環境への影響や、消費者の行動の変化などについて白熱した議論を繰り広げました。



札幌南 A vs 札幌西 A



旭川東 B vs 札幌南 B

6. エキシビション「会社は週休3日制を導入すべきである。」

ジャッジをした講師がもう一度この人のスピーチを聞きたいと思った生徒が選出されるエキシビションディベート。エキシビションディベーターを発表するとそれぞれのチームから歓声が湧きました。準備時間中は、効果的なポイントのたて方、分析の仕方についてレクチャーが行われました。準備時間が終わるといよいよエキシビションディベートの始まりです。エキシビションディベートでは、生産性は上がるのか変わらないのか、何のために働くのか、ワークライフバランスはどうなるのかなどの観点から白熱した議論が行われました。また、POIも活発に行われるなど、それぞれの生徒がお互いの話をしっかり聞き、考え、レスポンスする様子が見られました。

今回のディベートは教員も一緒にジャッジの実践を行いました。ディベートが終わるとメインジャッジを務めたスタッフの一橋大学の学生より勝敗が発表されました。



聴衆を見てスピーチ



活発にPOIをします



POIの応酬が続きます

7. 表彰

すべてのディベートが終わり、それぞれ優秀なパフォーマンスを行った生徒たちが表彰されました。

チーム賞

- 1位 札幌南 B チーム
([redacted]、 [redacted]、 [redacted]、 [redacted])
- 2位 札幌南 A チーム
([redacted]、 [redacted]、 [redacted]、 [redacted])
- 3位 旭川東 B チーム
([redacted]、 [redacted]、 [redacted]、 [redacted])



1位 札幌南 B チーム



2位 札幌南 A チーム



3位 旭川東 B チーム

ベストディベーター

- ■さん (旭川東 A)
- ■さん (旭川東 A)
- ■さん (釧路湖陵 A)
- ■さん (釧路湖陵 B)
- ■さん (札幌南 B)
- ■さん (札幌南 B)



ベストディベーター

POI 賞

- ■さん (札幌西 A)
- ■さん (札幌西 B)
- ■さん (札幌南 B)
- ■さん (札幌南 B)



POI 賞

エキシビジョンディベーター賞

- PM ■さん 旭川東高校
- LO ■さん 札幌南高校
- MG ■さん 札幌南高校
- MO ■さん 札幌南高校
- LOR ■さん 札幌西高校
- PMR ■さん 札幌西高校



エキシビジョンディベーター賞



集合写真

8. 参加者の声（アンケートより抜粋）

○英語で様々な問題について話すのはとても難しかったが、貴重な経験となった。もっと英語を話して、自信を持って話せるようになって、また来年も出たいと思った。（札幌西高校）

○今までよりも俄然ディベートへのやる気が湧いてきた。まだまだ論理的思考力、反論の的確性などが欠けているので、これらを重点的に改善し、ディベート大会に向けて活動かつ日々を過ごしていこうと思う。（旭川東高校）

○自分の英語力の低さを改めて思い知らされました。単語が出てこない、聞きとれるけど日本語変換理解に時間がかかる、声を通らない、など様々な課題が見えました。今後も英語の勉強に励み、脳内で日本語に変換しなくても英語を理解できる、言いたいことを、単語を脳内で漁らず自然にアウトプットして言えるようにしたいです。非常に良い体験で、今後の英語の学習へのモチベーション、参考になりました。（札幌西高校）

○パラメンタリーディベートは事前準備を行うディベートと異なり、その場で考える本物の論理的思考力が試されると感じ、とても面白かったです。なかなかうまくできないことも多かったですが、それによってもっと上手になりたいという思いが生まれた良い機会でした。（旭川東高校）

○自分の視点と違う意見がたくさんあって楽しかった。（札幌南高校）

○自分が試合を通してどんどん成長していくことを実感できたのが楽しかったです。（札幌南高校）

○講師の方々が毎回アドバイスをくださり、反省点を見つけ、改善をしようと心がけることができたのでとてもためになり、自分のディベート力を向上させる良い経験になりました。（札幌南高校）

○時事的、環境などの実生活に関わるトピックをディベートして、相手とともに楽しく真剣に技術の習得ができ

たと思います。(札幌南高校)

○初めての参加で、成功も失敗も経験することができて、他校の生徒とも仲良く話すことができたからとても楽しかった。表現に行き詰まった時にどうするか。ということ、多視点から物事を見たことによって論理的思考力が刺激された。語彙を増やせばもっと面白くなるだろうと考えた。(旭川東高校)

○他校生と交流することは滅多にないので、貴重な機会でした。自分が言いたいことを英語にできなかつたり、相手が言っていることがところどころ聞き取れなかつたりして自分の力が足りていないと痛感したので今まで以上に英語の勉強を頑張ろうと思いました。また、ただ単語の勉強をしてもいざしゃべるとなったら出てこないとわかったので日ごろから話す機会を設けるべきだと感じました。(旭川東高校)

○時間が限られている中、意見をまとめて発表する過程が楽しかった。他校の生徒と話せて楽しかった。他校の人と交流できたのはとても楽しかった。グループディベートも初対面の中、意見を合わせられた準備時間が短いので原稿を書く作業が一番大変だった。反論が来たときの返しも難しかった。(旭川東高校)

○他校の方とコミュニケーションを取ることができて楽しかったです。(釧路湖陵高校)

○去年参加させていただいた時、自分の力の無さを痛感し、心が折れそうになりました。その経験があったので今年に来る前に今年初参加のメンバーとともに練習してきました！何が何だかわからなくてパニック...ってことはなかったものの、他校生との実力の差を実感したように思います。しかし、緊張や不安、焦りなんかもありましたがだんだんディベートが成り立つようになり笑顔が出るような余裕も生まれ、自分たちの成長を感じることもディベートが楽しいと思えるポイントだと思います！！(釧路湖陵高校)

○英語の技術だけでなく他校の生徒の方々とコミュニケーションを取ることができる良い機会にもない、とても実り深い大会となりました。もしまた機会があればより多くの高校生の方々と英語でディベートしあってもっと自分自身の英語やディベートの力を伸ばして行きたいです。(釧路湖陵高校)

○自分たちでも準備のために最近数多くやっていたようですが他校と対戦できる機会があつてよかったです。ありがとうございました。(教員)

○悔しい思いやもどかしい思いを感じつつも生徒たちは一生懸命取り組んでいました。参加した生徒が一様に能力を高めることができる点がとても良いと思います。(教員)

○この講習会は2回目でしたが、今回は他校の生徒と交流させていただき学ぶことが多くありました。回を重ねるごとに生徒が上手くなっていったのが驚きでした。日々の活動に取り入れて行けばさらに生徒のレベルアップにつながると思います。(教員)



2.22 PDA 関西公立高校即興型英語ディベート交流大会 2019

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2019年8月24日（土）13:00-17:00

会場：大阪府立北野高等学校

参加者：生徒46名、教員19名、その他見学者

ジャッジ：PDA認定教育ジャッジ、大阪大学

助成：駐大阪・神戸アメリカ総領事館、公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

3回目となるPDA関西公立高校即興型英語ディベート交流大会が北野高校にて行われました。初めに、北野高校の萩原校長先生より、「英語での表現のみならず、論理的に説明する力が抜群につく活動。頑張ってください。」とのメッセージが送られました。次に、駐大阪・神戸アメリカ総領事館広報担当領事エドワーズ様より、アメリカ留学に関するショートビデオとともに参加高校生のみなさんにエールが送られました。そして、PDA代表理事・大阪府立大学工学研究科 准教授の中川先生より、参加校の紹介や交流大会の説明、POIの練習などが行われました。



北野高校 萩原校長先生



アメリカ総領事館 エドワーズ様

1ラウンド目の対戦テーブルに移動すると、まずは自己紹介が行われました。ソフトボール部に所属しています。等、所属クラブについて紹介したり、ディベート経験について話したり、と和気あいあいとした雰囲気が始まりました。1ラウンド目の論題は「Stores should be obliged to charge for plastic bags. (お店のレジ袋の有料化を義務づけるべきである。)」でした。ゴミ袋を大量に食べてしまったイルカの話など、ニュースになっていることをうまくスピーチしました。ディベート後は、PDA認定教育ジャッジからのフィードバックを聞き、今後に向けての改善など真剣に聞きました。



1 ラウンド目 神戸 vs 奈良



ディベート後の握手 北野 vs 彦根東

2 ラウンド目の論題は「We should accept more foreign workers. (外国人労働者を増やすべきである。)」でした。1 ラウンド目に引き続き、白熱した議論がなされました。



2 ラウンド目 膳所 vs 北野



2 ラウンド目 奈良 vs 堀川

エキシビジョンディベートでは、生徒 6 名が選出されました。論題は、「The retirement system for teachers should be abolished. (教員の定年制を廃止すべきである。)」でした。ジャッジには校長先生方も加わりました。接戦の 5 対 4 票で肯定側の勝ちとなりました。



エキシビジョンの様子

表彰が終わり、各校長先生方からご講評をいただきました。

大阪府立北野高校 萩原校長先生「今日半日で、皆さんの力は飛躍的に伸びました。鍛えた力をいいように使ってほしい。」

滋賀県立膳所高校 小島校長先生「即興なので、日頃からの学習が英語の力以上に求められます。これからの社会は課題を見つけられる力が必要。普段から疑問をもって生活すること大事です。」

滋賀県立彦根東高校 猪田校長先生「本当に素晴らしい取組みだと思いました。英語に加えて、知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力に向かう力が大事で、このような取り組みを通じて、良い意味での批判的思考力をつけないといけません。」

奈良県立奈良高校 中野校長先生「楽しんでいくという姿に感銘を受けました。まずは自分の意見を言う前に、相手の考えを受け止めること、を身につけるともっと相互理解のできる素晴らしい人間になるので期待しています。」

兵庫県立神戸高校 世良田校長先生「改めて高校生の可能性を感じることができました。」

香川県立高松高校 出射校長先生「四国でもやっていきたいと思います。本当によい交流でした。即興のチームでもできるエキシビションにおいて、定年制廃止の賛成側が勝って感銘を受けました。」

最後に全員で集合写真を撮り、関西公立高校即興型英語ディベート交流大会の幕が閉じました。



エキシビションでのジャッジ（校長先生方）



北野高校 萩原校長先生



膳所高校小島校長先生



彦根東高校 猪田校長先生



奈良高校 中野校長先生



神戸高校 世良田校長先生



香川高校 出射校長先生

生徒の声（アンケートより抜粋）

- 視野を広げられ、普通ではできない体験をできた。楽しかった上、いろいろ学べました。(北野)
- 体力をフルで使いきって、本当に全力でやれてよかったです。(北野)
- 自分の立論はできるようになってきたのですが、相手の意見を聞きながら、その反論を構築するのが大変でした。次はこの反省を生かして頑張りたいです。(北野)
- 去年参加したときよりも上手くなってた状態で、よりディベートを楽しめました。ジャッジの人が褒めてくれた時はとても嬉しく、注意された時はもっと改善して上達したいと感じた。(北野)
- 去年も参加していて、成長を感じられた。(奈良)
- 私たちはまだ経験が少なく、このように他校との対戦なんて自信がないが、憧れの先輩のようにスピーチしたいと思うので努力しようという気持ちが高まった。(奈良)
- 先輩方へのアドバイスが、そのまま自分の身にも染みていくようで、とても良い学習と経験になりました。(奈良)
- 自分の言いたいことが言えないので悔しかった。(奈良)
- 他校の方の説得力のある演説や鋭い反論に圧倒され、もっと頑張ろうと思った。(堀川)
- 対戦相手がハイレベルで、ずっと追い詰められているような状況で打開策を考えるのが難しかったが、楽しかった。(堀川)
- やはり各府県を代表する高校だけあって皆さんのディベート力が高く、見ていて楽しかった。また、ディベート以外の事でも話が弾んで有意義な時間になった。(堀川)
- ディベートが終わるたびに「あー楽しかった!」って気がついたら言っていました。まだまだ未熟で計画性がなくてまとまりがないチームでしたが良い仲間を持ってました。楽しすぎました!(膳所)
- POIもできたし、自分でも満足いくようなスピーチができて楽しかった。(膳所)
うまく POI ができなかつたので、もっと練習がしたい。語彙とスピーキングの特訓が必要だと感じた。(膳所)
- 学校の授業でディベートを習っているので、今日学んだことを授業で生かしていこうと思います。(彦根東)
- 即興形は普段していないため、準備型とはまた違う良い力が付けられたと思います。とても楽しかったから、また全国大会にも出場してみたいです。(彦根東)
- 意見を交わして論理的に勝ち負けを競う得るのは良かったと思う。学校の授業にはぜひ導入するべきだと思う。(彦根東)
- 英語を話せたら楽しいだろうなとしみじみ感じました。ディベートを通じて英語を話せるようになりたいです。(神戸)

- 最初は食べ物が喉を通らないほど緊張していたのですが、2回目からはなんとなく落ち着いてきて用意していなかったこともその場で話せるようになったのでとても楽しかったです。やる気が出ました。(神戸)
- とても楽しかったです。他校の生徒と交流できたし良い経験になりました。同時に、自分の力不足もひしひしと感じたので今日の経験をこれからの糧とし、スキルアップにつなげたいです。(神戸)

エキシビジョンディベータ賞

- PM [redacted] さん (堀川高校)
 LO [redacted] さん (北野高校)
 MG [redacted] さん (奈良高校)
 MO [redacted] さん (奈良高校)
 LOR [redacted] さん (北野高校)
 PMR [redacted] さん (膳所高校)



ベストチーム賞

- 1位 北野B
 2位 北野A
 3位 奈良A
 4位 堀川
 5位 奈良B



ベストディベーター賞

- (神戸高校)
- (堀川高校)
- (彦根東高校)
- (奈良高校)
- (奈良高校)
- (奈良高校)
- (膳所高校)
- (北野高校)
- (北野高校)



POI 賞

- (彦根東高校)
- (堀川高校)
- (奈良高校)
- (奈良高校)
- (彦根東高校)
- (膳所高校)
- (膳所高校)
- (北野高校)
- (北野高校)
- (北野高校)





2.24 PDA 神奈川県公立高校即興型英語ディベート 体験会 (柏陽高校・横浜翠嵐高校)

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2019年9月7日(土) 09:30-12:00

会場：神奈川県立柏陽高等学校

参加者：生徒20名、教員4名

参加校：柏陽高校、横浜翠嵐高校

ジャッジ：各校教員、東京大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

まず、柏陽高校の校長の井坂先生より、挨拶の言葉をいただきました。その後 PDA スタッフより、PDA の団体説明と、代表理事中川先生（大阪府立大学・准教授）の紹介を、またなぜ今即興の英語で議論する力を鍛えることが重要かといったイントロダクションがありました。即興型英語ディベートの魅力、効用についての話に続いて、ルール説明がありました。

ルール説明後は、大学生によるモデルディベートを見ていただき、生徒さんたちを感じをつかんでいただきました。その後、早速ディベート実践です。ほとんどの参加者が自身の学校で一度は練習をしたことがあるという事で、いきなりの実践でも戸惑うことなく行えました。1ラウンド実践後、ジャッジから勝敗とその理由、そして個人コメントのフィードバックがあり、生徒たちは真剣に聞いていました。

続く2ラウンド目では、各テーブルジャッジからのアドバイスを参考に、論題に取り組むことができました。ほとんどの生徒が、論題が難しいと言いつつも、頭を使う楽しさや他校と交流する楽しさを感じているようでした。この授業で自身の英語力の伸びを感じている生徒も多くいるようでした。会が終了した後でも、一部の生徒が残って積極的にアドバイスを受けていたのがとても印象的でした。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・理由を深く考えるのが楽しかった。
- ・他校との交流にもなって楽しかった。
- ・英語力とプレゼンの力の両方を高めたい。
- ・自分が思いつかない内容で反論をされ、なるほどと思うことも多く、面白かったです。
- ・とても難しかったけれど、先生方や大学生の方に的確な適切なアドバイスをいただけたのはうれしかったし、自分のためになったと思う。
- ・ディベートの内容が難しく、もっとうまくやりたいと思いました。
- ・他校の人と触れ合え、刺激になった。
- ・交流することで自分の意見が深まり、力をつけることができたと思う。
- ・





2.25 PDA 相模原高校・平塚江南高校・希望ヶ丘高校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2019年9月21日（土）9:30-12:00

会場：神奈川県立相模原高校

参加者：生徒 18名、教員 3名

ジャッジ：PDA スタッフ、教員

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

まず、相模原高校の校長の平田先生より、挨拶の言葉をいただきました。その後 PDA スタッフより、つづいて PDA スタッフよりルール等の説明がありました。今回参加者の大半は女子で、真剣な面持ちで説明を聞く生徒たちでしたが、POIの説明と練習になると緊張感がほぐれ、あちこちで笑い声が起こり、そこから少しリラックスできたようでした。

ルール説明後は、大学生によるモデルディベートを見ていただき、生徒さんたちに流れを掴んでもらいました。その後、早速ディベート実践です。

1ラウンド実践後、ジャッジから勝敗とその理由、そして個人コメントのフィードバックがありました。ジャッジのフィードバックまでの間には、生徒同士でディベートについての意見交換をしていました。

続く2ラウンド目では、各テーブルジャッジからのアドバイスを参考に、論題に取りかかることができました。今回が初めての実践という生徒さんもいましたが、初めてとは思えないくらいしっかり話していました。実践後、ジャッジからのフィードバックがありました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・新鮮で楽しかったです。
- ・他校の生徒から刺激もらった。
- ・いろいろな視点で見られて面白かった。
- ・（英語を）たくさん話せるようになりたい。
- ・意見交換ができ、視野を広げることができた。
- ・楽しかったです！
- ・もっともっと練習したいです。





2.26 PDA 横浜平沼高校・湘南高校・横浜緑ヶ丘高校・鎌倉高校・茅ヶ崎北 稜高校 即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2019年10月5日（土）9:30-12:30

会場：神奈川県立相模原高校

参加者：生徒 24名、教員 5名

ジャッジ：PDA スタッフ、教員

成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

まず、横浜平沼高校の校長の鑪先生より、「今日の参加者のほとんどの人が初めての体験とのこと。ディベートのやり方を学んでいただき、17校が参加する交流大会では相手の発言内容をきちんと聞き、頭を使って論理的に返せるようになってください」との挨拶の言葉をいただきました。

その後 PDA の団体説明と、代表理事中川先生（大阪府立大学・准教授）の紹介を、またなぜ今即興の英語で議論する力を鍛えることが重要かといったイントロダクションに続き、即興型英語ディベートの魅力、効用についての話がありました。

今回はほとんどの生徒が把握しているとのこととルール説明は簡単にし、大学生によるモデルディベートの内容を、生徒さんたちにフローシートを利用して流れを掴んでもらいました。その後、早速ディベート実践です。

1ラウンド実践後、ジャッジから勝敗とその理由、そして個人コメントのフィードバックがありました。ジャッジのフィードバックまでの間には、生徒同士でディベートについての意見交換をしていました。

続く2ラウンド目では、各テーブルジャッジからのアドバイスを参考に、論題に取りかかることができました。ジャッジからのフィードバック後、ジャッジへ積極的に質問をする生徒さんがいました。

今回の練習会は、持ち時間一杯いっぱいまで使う生徒さんが多く、一生懸命さと積極性が非常に感じられました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・楽しかったです。お互いを認め合う雰囲気が良かったです。
- ・多くの人の話を聞いて技を盗んで、大きな学びになったと思う。
- ・少し難しい場面もありましたが、それがまた刺激になりました。
- ・即興型ディベートは難しかったけど、普段練習できないようなものを練習できて良かったです。
- ・モチベーションをあげることができた。
- ・自分の考えが広がっていった。
- ・自分の課題点を見つかり、これからの英語の学習に活かせると思います。
- ・とても難しかったが、すごく頭を使ったことが楽しかった。
- ・難しかったけど議論することの楽しさやおもしろさが分かった。





2.27 PDA 千葉県立船橋高校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2019年10月5日(土) 14:00-16:30

会場：千葉県立船橋高校

参加者：生徒 6名、教員 1名

ジャッジ：PDA スタッフ、名古屋大学院

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

初めに英語科藤枝先生挨拶の言葉をいただきました。

その後 PDA スタッフより即興型英語ディベートの説明を行いました。今回は昨年の体験者もいたためルールの説明は簡略にしました。まずモデルディベートを見て流れを把握した後、フローシートの重要性およびその書き方の指導を受けました。また POI を積極的にしていくようにとの説明がありました。

その後早速ディベート実践です。

1ラウンド実践後、ジャッジが勝敗とその理由、そして個人コメントのフィードバックを丁寧に行いました。ジャッジのフィードバック中には、一人一人熱心にメモを取りながら次回に向けて反省を活かそうとしていました。

1ラウンド目からはほとんどすべての生徒が論理的にディベートを展開しており、次ラウンドが楽しみです。

続く2ラウンド目では、1ラウンドでのジャッジからのアドバイスをスピーチに活かしていました。相手への反論も全てのスピーチでできており、今回が初めての実践という生徒さんも経験のある生徒さんもしっかり話していました。

実践後、ジャッジからのフィードバックがある前の時間帯にも、お互いのチーム同士が「この部分は、私はこういった理解だったけどそれで合ってた？」などと、振り返りの話し合いが活発化しており、学ぼうとする意欲がとても伝わってきました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・初めて英語でディベートをし、とても緊張したが、先生方が丁寧に教えて下さり、緊張から楽しさ変わった。
- ・実践的な練習をプロの方に指導していただくことで、より自分の意見の良い所、改善点を知れてよかった。
- ・自分が何をすべきなのかわかったことと、自分の力の伸びたところがわかってうれしかったです。
- ・一人一人に丁寧にコメントをして下さり、自分の良い所、悪い所を具体的に知ることができました。今回学んだことを後の練習に活かしていきたいです。
- ・ディベートの基礎的なことが知れて良かったです。
- ・普段の練習よりもずっと中身の濃い練習ができました
- ・たくさんを知ることができて、おもしろかったです。



2.28 PDA四国高校生即興型英語ディベート交流大会 2019

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2019年10月13日（日）9:45-16:00

会場：香川県立高松高等学校

参加校：3校（香川県立高松高等学校、愛媛県立松山東高等学校、徳島市立高等学校）

参加者：生徒17名、教員10名

スタッフ：PDAスタッフ、PDA教育認定ジャッジ、九州大学

主催：一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI財団

台風19号の影響で荷物の不在等ありましたが当日は快晴の中、無事3校の生徒たちが集い開催の運びとなりました。開会式では、会場校である高松高校の出射校長先生より、「他校の生徒と交流する機会はなかなかないと思うので、ぜひ積極的に仲良くなりながらディベートを楽しんで欲しい」とエールが述べられました。

次に、PDAディベート推進委員長である大賀より、参加学校紹介、ルールの復習、POIの確認を行いました。その後、メモをとりながらモデルディベートを見学し、ディベートの雰囲気をも再確認後、他校の生徒とチームを組んで行うミックスディベートの対戦表が発表されました。



出射校長先生開会の挨拶



ルール説明を聞く生徒

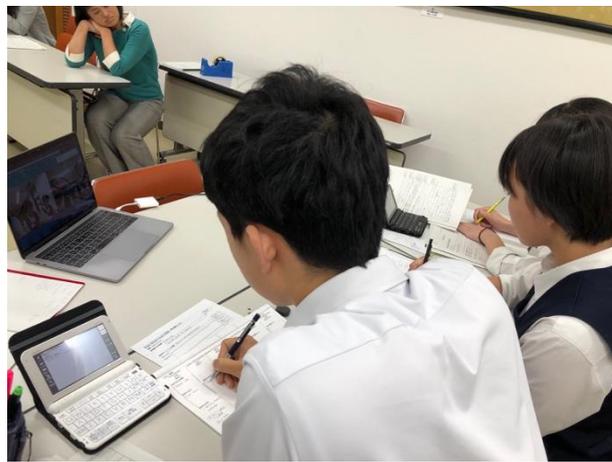


モデルスピーチのフロー取り

ミックスディベートのお題は「**Single-sex schools are better than co-educational schools. (共学より男子校または女子校のほうがよい。)**」でした。初めて一緒にチームを組むメンバーでのディベートにはじめは緊張した雰囲気もありましたが、共学と男子校・女子校それぞれのメリットやデメリットをアイデア交換する中で少しずつ緊張も解れていきました。ディベートでは、自分たちの学校の様子を例に出すなど活発な議論が行われました。



チームメイトとの準備時間



PCからの遠隔スピーチを聞く様子



POIも活発です



PC越しでも握手は欠かさない

次はいよいよ表彰の対象となるラウンドの始まりです。第1ラウンドのお題は「**Fast food should be banned. (ファストフードを禁止するべきである。)**」でした。普段ファストフードを食べることも多い生徒たちにとって身近な論題だったため、例をたくさん用いられた説得力の高いスピーチが多く見受けられました。試合前にテーブルジャッジよりPOIを遠慮なくするように促したところ、1つのスピーチに1つ以上のPOIを打つチームも見受けられ、非常に活発で白熱したディベートとなりました。



各チームの準備時間



相手の目をしっかり見てPOI

お昼休憩を挟み、続く第2ラウンドのお題は、「***We should prohibit the elderly from driving cars.***（高齢者の自動運転を禁止するべきである。）」でした。日本では日々議論されているテーマであり、そのため多くの生徒が一度は考えたことのあるテーマでした。論題を見た生徒は、今まで考えてきたことをジャッジにわかりやすく伝えるためにはどうしたらよいか、相手の反論に備えるにはどのように立論をすればよいかなどについて準備時間にチームメイトと相談し、肯定する理由/否定する理由を説得的に述べるだけでなく、相手のチームのメリットがいかに小さいかなどという視点から立論を行っていた生徒も見受けられました。



接続確認をします



遠隔のディベート相手に手を振って挨拶

次に、ジャッジから「もう一度ディベートを見たい！」と推薦された生徒によるエキシビジョンディベートです。お題は「***Term-exam should be abolished.***（期末テストを廃止するべきである。）」でした。今大会で初めて会う他校の生徒と一緒にチームを組むということもあって、ラウンド前にはにこやかな挨拶が両チーム内で交わされました。期末テストが当たり前にある生徒にとって、それを廃止する理由を考える賛成側は苦戦していた模様ですが、チームで協力して両チームとも活発にスピーチの準備を行っていました。POIも飛び交う大変活発なラウンドとなりました。



POI 立ちます



POI 聞きます



スピーチ頑張ります



エキシビジョンでは遠隔で選ばれた生徒も一緒に

エキシビジョンディベートが終わると、チェアを務めた先生より勝敗の発表があり、会場から健闘をたたえ、両チームへ大きな拍手が送られました。聴衆の多数決では賛成側が勝ったということになりましたが、チェアジャッジの先生は否定側を勝ちにしており、大変接戦ないい試合であったことが伺えます。

閉会式では表彰式の後、高松高校の出射校長先生より「4ラウンド即興で英語スピーチをするのは大変だったと思われるが、これからも頑張って英語ディベートのみならず様々なことにチャレンジして欲しい」と労いのお言葉をいただき、PDA 四国交流大会 2019 の幕が閉じました。



出射校長閉会の挨拶



生徒さんの集合写真

【表彰】

〈エキシビションディベータ賞〉

PM 青野さん（徳島市立）

MG 須藤さん（高松）

PMR 安藤さん（高松）

LO 越智さん（松山東）

MO 宮下さん（高松）

LOR 富永さん（高松）



〈チーム賞〉

1位：高松A、2位：高松B、3位：松山東B



第一位：高松A



第二位：高松 B

〈ベストディベーター賞〉

- 青野 大樹 (徳島市立)
- 稲山 翔太 (徳島市立)
- 越智 悠愛 (松山東)
- 渡辺 有紗 (松山東)
- 宮下 祐実 (高松)
- 小岡 夏海 (高松)
- 長尾 百恵 (高松)
- 安藤 遥 (高松)



第三位：松山東 B(PC 越しに表彰)



〈POI 賞〉

- 稲山 翔太 (徳島市立)
- 菅野 愛 (松山東)
- 小岡 夏海 (高松)
- 田島 みのり (高松)



参加者の声（アンケートより抜粋）

生徒の声

- いろいろな知識や考え方を身につけることができた良い機会だと思いました。個々で得たものは、学校や、将来の仕事で、すごく大切なものになると思いました。自分に足りないものを再確認することができ、これからの成長に役立てていきたいです。【徳島市立】
- 貴重な体験ができた。英語をうまくつかえなかったのもっと勉強したい。【徳島市立】
- 日頃から準備をしてきている人たちには勝てないと感じた。けれど、初めダメダメだった自分が少しずつではあるけど、上達していくのを感じられて楽しかった。けど、周りの人たちにまだまだ負けていたのは少し悔しかった。【徳島市立】
- こういう経験をしたのは初めてだったので、凄く良い経験になりました。次回こういう機会があれば又参加させていただきたいです。【高松】
- 1ヶ月間練習してきた。7月の体験会では全然話せなかったが、今は多く話すことができるようになってきたと思う。【高松】
- とても良い経験になり、楽しかったです。また絶対参加します。【高松】
- 同じ意見でも人によって表現がちがっていて、面白いと思いました。素敵な表現をいっぱい学べて楽しかったです。もし来年機会があったら次はもっとスマートに伝えられるようにがんばりたいです。【高松】
- 自分の力を試すことができた【高松】
- とても楽しかったです。本日のために、グループ全員で毎日放課後に集まって練習してきたので、その成果が出せ、かつ色々な高校の生徒のよいディベートを吸収することができたので、とても楽しかったです。ぜひ、全国大会に同じメンバーで参加したいです!!!【高松】
- 前は、本当に1分も話せなかったけれど、今日はたくさん話せて良かったです。もっと説得力をつけたいです。【高松】
- 軽い気持ちで始めたディベートでしたが、考えていたよりずっと奥が深いし、即興という迫られた状況の中で話す経験は自信になりました。英語の力1つだけじゃないから面白い！序行でやらないのは勿体ないなと思います。ありがとうございました。【高松】
- ディベートへの興味がすごく高まりました。グローバルな世の中になっていく社会で、ディベートのような自分の意見に合理性や説得力をもたせて上手く伝えることで相手を納得させる能力の重要性と難しさを学ぶことができました。【高松】
- 自分の行ったディベートに対して、評価をもらえるのは貴重な体験だと思った。自分のいいたいことをそのまま相手に英語で伝える難しさを感じた。語彙力がもっとほしい。「POI」使いたかった。【高松】

教員の声

- 英語を話して伝える楽しさ、興味深いトピックについて仲間と考えアイデアを出し合う楽しさ。まさに高校教育が求める思考力と判断力と表現力を鍛えるモノであった。すばらしい!!!【徳島市立】
- 即興型英語ディベートは、事前に時間をかけて準備する必要がなく、授業にも取り入れやすいと感じました。ある程度の英語力が前提にはなりますが。。何より生徒たちが、一生懸命考え、伝えようとしている姿がすばらしかったです。ありがとうございました。【県教委】
- 遠隔で参加した生徒たちは、他の参加者に圧倒されたり、感心したり、大きな刺激を受けたようでした。また、ジャッジからのコメントが本当に大きな学びになったと思います。本日は本当にお世話になりました。【松山東】

保護者の声

- 高校生たちがそれぞれの立場にたって英語で主張を練り広げていくところが素晴らしいと思いました。ジャッジの方々がとてもいねいにアドバイスして下さっていたところもすばらしくまたとないいい機会に参加させていただいたことを感謝しています。【保護者】
- ディスカッション、フィードバックの形成が非常によくできていて、議論が深く、学習をファシリテートする様な設計になっていることに感心しました。【保護者】



2.29 PDA群馬高校生即興型英語ディベート交流大会 2019

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2019年10月19日(土) 9:45-16:00

会場：群馬県立前橋高等学校

参加校：3校(群馬県立前橋高等学校、群馬県立前橋女子高等学校、群馬県立高崎女子高等学校)

参加者：生徒26名、教員5名

スタッフ：PDAスタッフ、PDA教育認定ジャッジ・神奈川県立相模原高等学校教諭、東京農工大学、九州大学

主催：一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI財団

開会式では、会場校である前橋高校の大栗校長先生より、「群馬で初めての即興型英語ディベート大会だと思います。これまで培ってきた経験などを発揮できるよう頑張ってください。」とエールが述べられました。次に、参加校である前橋女子高校の戸塚校長先生より、「ディベートではメモをした紙を見てスピーチをすることがありますが、今日は即興型ですので、自分の言葉でスピーチできるように頑張ってください。」と激励のお言葉を英語でいただきました。次に、PDAより、参加学校紹介、ルールの復習、POIの確認を行いました。その後、メモをとりながらモデルディベートを見学し、ディベートの雰囲気を確認したあと、他校の生徒とチームを組んで行うミックスディベートの対戦表が発表されました。



大栗校長先生のご挨拶



戸塚校長先生のご挨拶



←
ルール説明
→
モデルディベートをメモ
を取りながら聞いています





2.30 PDA 川和高校・多摩高校・大和高校・光陵高校・柏陽高校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2019年10月19日（土）9:30-12:30

会場：神奈川県立川和高校

参加者：生徒 33名、教員 6名

ジャッジ：PDA スタッフ、教員

成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

まず、川和高校の校長の高尾先生より、挨拶の言葉をいただきました。その後 PDA スタッフより、PDA の団体説明と、代表理事中川先生（大阪府立大学・准教授）の紹介を、またなぜ今即興の英語で議論する力を鍛えることが重要かといったイントロダクションがありました。即興型英語ディベートの魅力、効用についての話が続いて、ルール説明がありました。

ルール説明後は、大学生によるモデルディベートを見ていただき、生徒さんたちに流れを掴んでもらいました。その後、早速ディベート実践です。

1ラウンド実践後、ジャッジから勝敗とその理由、そして個人コメントのフィードバックがありました。ジャッジのフィードバックまでの間には、生徒同士でディベートについての意見交換をしていました。

続く2ラウンド目では、各テーブルジャッジからのアドバイスを参考に、論題に取りかかることができました。今回が初めての実践という生徒さんもいましたが、初めてとは思えないくらいしっかり話していました。実践後、ジャッジからのフィードバックがありました。練習会を終えた後に、ジャッジからさらにアドバイスを得たい生徒や今回一緒になった学校同士で練習試合を開く計画をしている生徒など、さらにディベートを向上させようとする動きが見られました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・ 様々な議論に対して短い時間で反論するのが楽しかった。
- ・ レベルの高い他校の人たちとディベートをしたことがとても刺激的でした。
- ・ もっとディベートがやりたいです。
- ・ 先生のアドバイスをもらえてよかった。
- ・ もっと上手になりたい。
- ・ 楽しかったです。またこういう機会があったら参加したいです。
- ・ 練習会や学校での練習会に参加しているうちに、少しずつ話せるようになっていると感じて、楽しむことができた。
- ・ さらにディベートに対する意欲がわきました。



ミックスディベートのお題は「**Single-sex schools are better than co-educational schools. (共学より男子校または女子校のほうがよい。)**」でした。今日が即興型の英語ディベートは初めてだという生徒も多い中、ミックスディベートでは、初めて顔を合わせた他校の生徒とチームを組み、ディベートを行います。今回の参加校は全て男子校・女子校ということもあり、共学での学校生活を想像しながらディベートを行いました。自らが体験したことのないことについても想像力を持つと試みる点もディベートの魅力のひとつです。ディベートが始まると男女間のコミュニケーションや相互理解など様々な観点からディベートが行われました。



チームメイトとの準備時間



POI（質疑応答）にチャレンジ



ディベート後は握手で健闘をたたえ合います



認定教育ジャッジの先生によるフィードバック

次はいよいよ表彰の対象となるラウンドの始まりです。第1ラウンドのお題は「**Japan should have nuclear weapon. (日本は核兵器を保有すべきである。)**」でした。唯一の被爆国である日本の責任や、国際関係上の抑止力など、幅広い視点でディベートが展開されました。ディベートが終わるとお互いにもっとどのようなことを言いたかったか、伝えたかったかなどの意見交換が行われるテーブルもありました。ディベートが終わると、ジャッジの先生より、効果的なPOIの仕方や、反論の仕方、論題を見てどのように話すべきことを考えぬくのかというコツについて指導がありました。



チームメイトとアイデアを出します



活発な POI の応酬が繰り広げられています



オンラインで遠方のジャッジからコメント



フィードバックのメモを取ります

お昼休憩では、他校の生徒と交流をしながら昼食をとりました。ミックスディベートの話や、第1ラウンドの論題について意見交換をしたり、普段の学校生活の話をしたり、交流の時間となりました。



みんなでお話ししながら昼食をとりました

昼食を終えると、続く第2ラウンドのお題は、「**Term-exam should be abolished. (定期テストを廃止するべきである。)**」でした。定期テストという身近なテーマに、生徒たちは論題を見た瞬間にあっと声をあげました。ディベートが始まると、定期テストがあるほうが学力定着にはいいのか、あまり変わらないのか、といった論点だけでなく、生徒がプログラミングなど学校の授業とは別に学びたいことの勉強する時間の確保など、様々な意見が飛び交いました。



堂々とスピーチ



コメントを真剣に聞いています

次に、ジャッジから「もう一度ディベートを見たい!」と推薦された生徒によるエキシビジョンディベートです。お題は「**The retirement system for teachers should be abolished. (教員の定年制を廃止すべきである。)**」でした。今大会で初めて会う他校の生徒と一緒にチームを組み、準備時間にはしっかりと意見交換をしました。現在の日本が直面している教員不足の問題や教育の質、今後の教育のあり方など、熱いディベートが繰り広げられました。POIも交わされ、積極的に意見を発信しました。オーディエンスの生徒はフローシートにディベートのメモを取りながら、ジャッジの練習を行いました。



聴衆の前でマイクを持ってスピーチ



勝敗を考えながらメモを取ります

エキシビジョンディベートが終わると、チェアを務めた先生より講評がありました。勝敗は、生徒たちの投票でOpposition（否定側）の勝ちとなりました。会場から健闘をたたえ、両チームへ大きな拍手が送られました。

閉会式では表彰式の後、エキシビジョンディベートでディベートを行った生徒よりコメントをいただき、PDA 群馬交流大会 2019 の幕が閉じました。

【表彰】

〈エキシビジョンディベータ賞〉

- PM 清水さん (高崎女子)
- LO 滝沢さん (前橋女子)
- MG 佐藤さん (前橋)
- MO 中村さん (前橋)
- LOR 柳さん (前橋女子)
- PMR 新保さん (前橋)



〈チーム賞〉

- 1位：前橋 A
- 2位：前橋 B
- 3位：前橋女子 A



〈ベストディベータ賞〉

中村さん（前橋 A）、曾根さん（前橋 A）、佐藤さん（前橋 B）、諸田さん（前橋 C）、
吉田さん（前橋女子 A）、今泉さん（前橋女子 A）、徳永さん（前橋女子 B）、
大塚さん（前橋女子 C）



〈POI 賞〉

定方さん（前橋 A）、佐藤さん（前橋 B）、吉田さん（前橋女子 A）、
猪野さん（前橋女子 A）、柳さん（前橋女子 A）、滝沢さん（前橋女子 C）、
小林さん（高崎女子 B）



参加者の声（アンケートより抜粋）

生徒の声

- 楽しかったけれど、自分の思うようにできなかったのもっと力がついたらさらに楽しくなると思った。【前橋女子】
- 女子に比べて男子の方が積極的に POI 出したりジャッジの人にたくさん質問していて、批判的に物事を考えたり好奇心をもったりしないと、色々なことを吸収できないなあと思いました。【前橋女子】
- エビデンスを用意する必要がないので、例示をして相手を納得させられれば良いので楽しかったし、即興で考えて英語で言うのは楽しかった。【前橋女子】
- 即興形をやるのは初めてで、慣れずに大変だったけど、すごく勉強になった。【前橋女子】
- 英語力も、知識力もなかったから、全然上手に話せなくて、とても悔しかった。もっと練習したり、いろいろな知識を増やして、もっと堂々と上手に話せるようになりたいと思った。【前橋女子】
- 即興形は自分の能力を高めるためにすごくいいと思ったので、また練習会を開いてほしいと思いました。【前橋女子】
- 即興型英語ディベートを実際にやってみたのは初めてだったが、限られた時間で自分の頭を使って、論理的に思考し相手に使い伝えると言う経験は、大学受験にも生きてくる必要なものになったと思う。【前橋女子】
- 最初は慣れず大変だったが、2回目、3回目は即興ならではの楽しさを知ることができた。【前橋女子】
- 学校の垣根を越えてさまざまな生徒と英語を通じて交流することができた。【前橋女子】
- 普段のディベートとは違い、決められたモノを読むのではなく、自分で考えて言えた【高崎女子】
- 相手の意見がうまく聞き取ることができなかったので、もっと単語を勉強すべきだなと思いました。【高崎女子】
- このディベートはいつものとちがって、社会に出て最も行う形式なのではないかなと思ったので、今後もやりたいなと思いました。【高崎女子】
- 英語力だけでなく、さまざまな知識が必要とされることがよくわかった。これからより広くアンテナを張ってさまざまなことを吸収していきたいと思った。【高崎女子】
- 上手く言葉にすることができなかったので表現力をもっと向上させたい。【高崎女子】
- 仲間と一緒に論題について話し合っただけで考え深められた。【前橋】
- 多くの考えを、他校の生徒や先生から学ぶことができたので、とても有意義だった。【前橋】
- 今回やってみて、ただ英語だけ上手ければ良いのではないんだなと感じました。またやる機会があるかどうかは分からないけれど、機会があればやってみたくと思いました。また普段から社会的な目を持って色々な知識を吸収していきたいです。【前橋】

○ 身近な論題から社会的な論題と幅広く、いろいろな考え方を身につけることができよかった。

【前橋】

○ ジャッジの皆さんが僕達にアドバイスをいただいたのでとても良い経験になった。【前橋】

教員の声

○ フローの書き方、実際のモデルディベート、4ラウンドの試合など、あらゆることを学べて勉強になりました。このような実践的な練習を積み重ねるだけで生徒が徐々に話せるようになるのが、よくわかりました。学校全体で取り組んでみたいです。初心者の生徒たちが楽しく話しているのを見て感激しました。続けていきます。【前橋女子】

○ 言いたいことを英語で言えないのがとても悔しそうでした。他の高校生が自信を持って話す姿に影響を受けて、今後の学習に励んでもらえることを期待しています。こんなに丁寧なジャッジコメントを一人一人にいただいた研修会は今まで無かったので、生徒も勉強になりました。【高崎女子】

○ 改めて即興ディベートの意義を確認し、生徒とも共有することができ、授業の中でもより積極的に採り入れたいと思う。【前橋】



2.31 PDA岩手高校生即興型英語ディベート交流大会 2019

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2019年10月20日(日) 9:45-16:00

会場：岩手県立盛岡第一高等学校

参加校：3校(岩手県立盛岡第一高等学校、岩手県立盛岡第三高等学校、岩手県立一関第一高等学校)

参加者：生徒31名、教員11名

スタッフ：PDAスタッフ、青森県立青森高等学校教諭(PDA認定教育ジャッジ)、青森県立五戸高等学校教諭(PDA認定教育ジャッジ)、九州大学

主催：一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI財団

開会式では、会場校である盛岡第一高校の水澤先生より、「即興型のディベートをするのは今回が初めてだという人もいます。緊張することがあるかもしれませんが、頑張ってください。」とエールが述べられました。次に、PDAディベート推進委員より、参加学校紹介、ルールの復習、POIの確認を行いました。その後、メモをとりながらモデルディベートを見学し、ディベートの雰囲気を再確認しました。



水澤先生のご挨拶



POI(質疑応答)の練習



ルール説明



モデルディベートを見学

ミックスディベートのお題は「*It is better for university admission test takers to have a boyfriend/girlfriend.* (大学入試の受験生には彼氏/彼女がいた方がいい。)」でした。ミックスディベートでは、今日初めて顔を合わせた他校の生徒と一緒にチームを組み、ディベートを行います。即興型をやったことがある生徒と一度もやったことがないという生徒がいる中、お互いにルールやアイデアを共有しながらディベートが行われました。はじめは緊張した雰囲気でしたが、ディベートが始まると、彼氏・彼女の存在が勉強の邪魔になるのか、むしろよく働くのかなどについて、時には笑いがおこりながら楽しくディベートを行いました。



準備時間にアイデアを共有します



堂々とスピーチをします



POI も活発に交わされました



ディベートが終わるとお互い握手します

次はいよいよ表彰の対象となるラウンドの始まりです。第1ラウンドのお題は「*Japan should have nuclear weapon.* (日本は核兵器を保有すべきである。)」でした。昨今の日本とアメリカの関係や核の危険性などについて多くの分析が飛び交いました。また、日本が核を持つと攻撃される危険性を説明するためにイラクとアメリカの例を出すなど、説得的なスピーチもたくさん見られました。ディベートが終わるとジャッジの先生からのコメントを、メモを取りながら聞き、次のディベートに活かそうとする姿勢が見られました。



聴衆にうったえかけるようにスピーチ



相手の話をよく聞いてすかさず POI



認定教育ジャッジよりアドバイスをもらいます



わからなかった点は質問して解消します

第1ラウンドの後は昼食時間です。別のチームと、第1ラウンドでどのような議論になったか、ジャッジの先生からどのようなコメントをもらったか、次のラウンドに向けての作戦などを共有しながらお昼ご飯を食べました。またミックスディベートの感想や、他の高校の様子なども話題に上がりました。



昼食時間の様子

昼食を終えると、続く第2ラウンドのお題は、「**Term-exam should be abolished. (定期テストを廃止するべきである。)**」でした。小テストなどで十分なのかどうかや、自分の取り組みたい勉強や活動に専念することの重要性など、身近な例を出しながら説明を行いました。現状で定期テストはそもそもなんのために存在しているのかなど、そもそも論なども分析しながら定期テストの意義について議論を行いました。



戦略的に POI を行っています



ジャッジの目をみてスピーチします

次に、ジャッジから「もう一度ディベートを見たい！」と推薦された生徒によるエキシビジョンディベートです。お題は「**Casinos in Japan will give us more benefits than harm. (カジノは日本に害よりも利益をもたらす。)**」でした。POI も活発に飛び交い、とても白熱したラウンドとなりました。経済的な利益や国際化、治安の問題や中毒性などについて意見が交わされました。「それってつまりこういうこと？」という相手の弱点をついた POI なども見られ、POI が勝敗を分けたラウンドとなりました。



POI 合戦が続きます



相手のスピーチをよく聞いて POI!

エキシビジョンディベートが終わると、エキシビジョンディベートが終わると、チェアを務めた青森県立青森高等学校の當麻先生(PDA 認定教育ジャッジ)より各ポイントについて POI がどのように影響したのかなどジャッジの解説が行われました。勝敗は、生徒たちの投票で Opposition (否定側) の勝ちとなりました。会場から健闘をたたえ、両チームへ大きな拍手が送られました。閉会式では表彰式の後、當麻先生と生徒よりコメントをいただき、PDA 岩手交流大会 2019 の幕が閉じました。

【表彰】

〈エキシビジョンディベータ賞〉

PM ——さん (一関第一)
LO ——さん (盛岡第一)
MG ——さん (盛岡第一)
MO ——さん (一関第一)
LOR ——さん (一関第一)
PMR ——さん (一関第一)



〈チーム賞〉

1位：一関第一 B
2位：盛岡第一 B
3位：一関第一 A



〈ベストディベータ賞〉

——さん（一関第一）、——さん（一関第一）、——さん（一関第一）、——さん（一関第一）、——さん（盛岡第一）、——さん（盛岡第一）、——さん（盛岡第三）



〈POI 賞〉

——さん（一関第一）、——さん（一関第一）、——さん（一関第一）、——さん（一関第一）、——さん（盛岡第三）



参加者の声（アンケートより抜粋）

生徒の声

- ミックスディベートが交流大会を通して、即興型英語ディベートの楽しさを感じることができました。【盛岡第一】
- エキシビションのレベルが高く、とても充実した一日になったと思います。【盛岡第一】
- まず社会問題を常に多角的に見ないと語り合えないので、普段から BBC のニュースや NHK の英語ラジオを聞いて単語と共にプロセスを学びたいと思った。【盛岡第一】
- 他校の方々と試合をしてみて、とても刺激的だったし 15 分の準備時間で論を組み立てるのが難しかったです。【盛岡第一】
- エキシビションマッチの白熱した試合を見て、とてもおもしろかったし、自分もああいう風にディベートができるようにもっと練習したいなと思った。モチベーションが高まったと思う。【盛岡第一】
- もっと深い、活発的な議論をできるように、これからも学校でやっていきたいと思いました。自分がやっていない時も、ディベートを見るのが楽しかったです。【盛岡第一】
- 学校の垣根を越えてさまざまな生徒と英語を通じて交流することができた。準備型よりもスピーディーで頭の回転が求められると思った。英語力を高めてから再チャレンジしたい。【盛岡第一】
- アカデミックディベートを中心に行っていたが、パーラは即興性が試されるため、POI が飛び交っているのがおもしろいと思った。より英語力が試されるので、今後も続けていきたい。来年もおねがいます！！【盛岡第一】
- 自分の意見や論を通せる。即興で考えるのが楽しかった。【盛岡第三】
- 今まででは準備型のディベートしかやったことがなく、とても不安だった。英語力を上げなくてはいけないと思える良い機会になった。また他の学校とも交流できたので、様々な考え方にも触れあえたので良かった。【盛岡第三】
- 短い時間で論を組み立てるのがとても難しかった。アカデミックディベートよりも時間配分に気を遣わなければならないことが大変だった。【盛岡第三】
- データがないのにすごく論理的で説得力のある話ができるのだと驚きました。すごく楽しかったです。ぜひまた挑戦したいです。【盛岡第三】
- 難しかったがたのしかったです。世界に出るために必要な力が養えると思いました。是非授業でもやりたいです。【盛岡第三】
- エキシビションのレベルディベーターの人達のディベートを聞いて学べるのが沢山あって楽しかった。【盛岡第三】
- 今日初めて即興型ディベートをしてみて、準備型よりも難しい印象でしたが、準備型よりも楽しく、白熱したディベートをできてとても良かったし、楽しかった。【盛岡第三】

- 自分のディベートに対するモチベーションや考え方が変わった。これほどレベルの高いディベートを見ることが出来たのも、仲間のディベート力の高さを肌で感じられた。良かった。また自分の英語力やコミュニケーション力のレベルの低さが目立ってしまった部分もあるので、もっと努力したいなと思った。【一関第一】
- 最後のモデルディベートが楽しかったです。見ていて、POI のやり取りが具体的で聞いていて納得することばかりでした。【一関第一】
- 学校の授業では得られない経験ができた。また、他の学校とレベルの高いディベートができ、楽しかったです。【一関第一】
- ミックスやいろんな試合をすることで、ふだん全く交流しなかった他校の仲間と関われる機会を突くっていただき本当によい機会となりました！【一関第一】
- モーション自体も楽しかった。交流自体も学べるものがあった。【一関第一】
- レベルが非常に高く、奥深い議論が出来た。頭がとても回転する感じがしてとても楽しかった。【一関第一】
- 今回の大会は得られるものが大きかった。今後のディベートに活かせる知識が得られたし、友達ともたくさん話せた。【一関第一】
- 様々な人とその場で議論をするのが楽しかった。とても楽しい一日でした。【一関第一】

教員の声

- 生徒が輝いていました。苦労はするけど、やりきった時の達成感が伝わってきました。ディベートを好きになった生徒が増えたはず！【盛岡第一】
- 全くの初心者である本校の生徒も回を重ねるごとに少しずつ上達しているのが見てとれ、もっとやらせてみたいと思いました。【盛岡第三】
- 論題が毎回かわるので飽きが来ず楽しい。【一関第一】
- 即興型は生徒の英語力のみならず、その他の知識、教養も身につきます。【盛岡北】
- 身近な話題で、生徒の等身大の英語で表現できるところに加え、ジャッジの criteria が明確でリフレクションが分かりやすいです。全ての生徒がコメントしてもらえて encouraging でした。部活や授業に取り入れてみたいと思います。【福岡】
- 皆の気持ち、やる気がとても伝わってきました。自分もやりたくなってしまった。【宮古】
- Interesting topics. Enjoyed seeing students become more confident in speaking(morning to afternoon). 【ALT】
- Very informative and helpful for students as well as teachers. 【ALT】





2.32 PDA 東京都立日比谷高校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2019年10月21日（月）15:40-18:00

会場：東京都立日比谷高校

参加者：生徒 42名、教員 6名

ジャッジ：PDA スタッフ、早稲田大学、立教大学、一橋大学、東京農工大

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

日比谷高校での即興型英語ディベート体験会も6年目に入りました。例年意欲的な希望者が多く今回も始まる前から会場の会議室は熱気がありました。

まずは英語科の笹生先生より「即興型英語ディベートを体験し良い学びを得てください」とのご挨拶をいただきました。

その後 PDA スタッフより即興型英語ディベートの説明を行いました。今回は昨年の体験者と初体験の1年生がいたため、ルール説明は要点を中心にし、モデルディベートを見て流れを把握した後、フローシートの重要性およびその書き方を学びました。

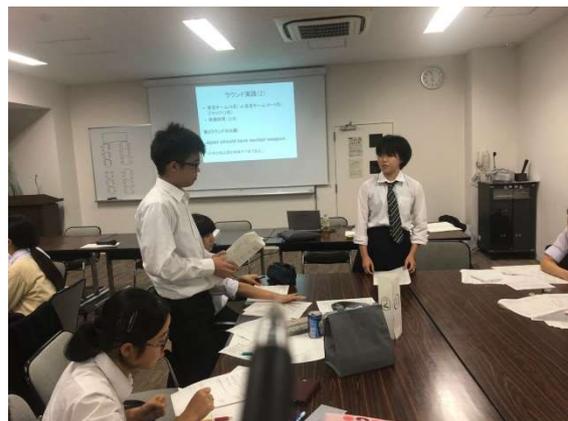
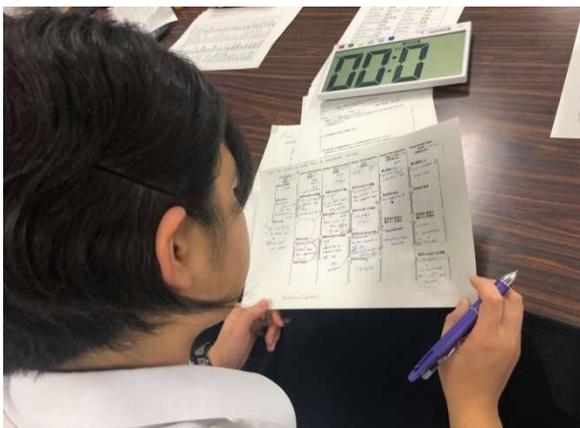
その後早速ディベート実践です。

英語を話すことに比較的慣れている生徒も少なくない中で、1ラウンド目の実践をしましたが、スピーチの組み立てに苦戦している生徒も多く、スピーチ中に「無理！」と日本語で発してしまう事もありました。なんとかスピーチを終えた後はジャッジのリフレクションを真剣に聞いていました。

続く2ラウンド目では、1ラウンド目のジャッジからのアドバイスをスピーチに活かし、前のラウンドに比べほとんどの生徒の構成力が向上しました。

今回は1ラウンド目から生徒の皆さんにもジャッジ体験をしてもらいました。ジャッジの際は不安な面持ちではありましたが真剣にスピーチを聞いている姿が印象的でした。

実践後、今回は特にジャッジ経験をした生徒から「ジャッジをすることでスピーチに必要な要素を見いだすことが出来て勉強になった」といった意見や、「とにかくやってみてよかった」などの前向きな感想が多く聞かれました。



参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・最初はめんどくさいと思っていたけど実際にやってみると楽しくて驚いた。「即興型」だったので学べるが多かった。
- ・自分の英語力のなさを痛感したので、受験勉強が一段落したら参加したいと思う。
- ・1回目は時間の半分ほどで準備していた内容を話し終えてしまって、英語で話す難しさを痛感した。2回目では1回目と比べものにならないくらいグループ内で強い論が構築できてとても楽しかった。
- ・ディベートと言う形で、いつも学習している英語を実践的に使う機会を得られてよかった。また、論の組み立て方についてジャッジの方からたくさんアドバイスをいただき、大変参考になった。
- ・最初はとても緊張したが、ジャッジや先生からのコメント等がとてもためになり、1ラウンドから2ラウンドで良い改善できたのを感じた。授業でのディベートでも活かしたいし、来年もこのような機会があればぜひ参加して、さらに力を伸ばしたい。
- ・ディベート自体はやったことはあったが、即興型は初めてで新鮮な感じがしたし、その難しさもよくわかったのでよかった。
- ・授業内でもディベートをしてはいるけど、授業内のものよりもテーマの内容的にも、主張の内容的にも密度が濃く、とても楽しかったです。
- ・「不安、緊張」と書きましたが、大変貴重な体験をしているというドキドキ感にも溢れていました。自分の考えをまとめ、即興で相手の反応に応える難しさには心折られそうですが、先生が指摘してくださった点を改善し、より自分の心の中のを英語という言葉でうまく表せるようになりたいです。





2.33 PDA 東京都立八王子東高校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2019年10月24日(木) 15:30-18:00

会場：東京都立八王子東高等学校

参加者：生徒14名、教員2名

ジャッジ：PDAスタッフ、一橋大学、東京農工大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

初めに、八王子東高校の宮本久也校長先生より、「ディベートは脳に汗をかく競技です。絶対みなさんのためになります。頑張ってください。」と激励のお言葉をいただきました。

次に、PDAスタッフより、ルール説明や、POI (point of information: ディベート中に質疑応答をリクエストするルール) の練習が行われました。その後、モデルディベートを視聴しながらフローシートにメモをとる練習を行い、ディベートの雰囲気をつかみました。

ルール説明が終わると、いよいよ第1ラウンドの始まりです。15分の準備時間では、配布されたブレストシートを活用し、論題に関連する言葉を書き出し、味方チームと共有しました。実際のディベートが始まると、POIが行われるなど活発に意見を伝え合いました。ディベート後は、ジャッジからのフィードバックを真剣に記録する様子が見られました。



ブレストシートを活用して準備



POI で具体例を聞いています

続く第2ラウンドでは第1ラウンドで受けた各テーブルジャッジからのアドバイスを参考に、「着目している事象が良い・悪いと言える理由」を意識した準備を行ったり、1ラウンド目よりも積極的にPOIを行ったりしました。

最後に2ラウンドを実践した生徒より「チームメイトと意見を出し合って議論を深めるのが楽しかった」と感想があり、八王子東高校でのディベート体験会の幕が閉じました。

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・自分のグループとは反対の意見がどんなものか、また相手が納得できる理由を考えるのがおもしろかった。
- ・自分の英語力の未熟さを痛感しました。英語の勉強のモチベーションとなりました。
- ・これから仕事をしていく中で役立ちそうなことが多くてよかったです。
- ・最初から考えていたことじゃないと、うまく話せなかったのも、もっと使える表現を増やしたいと思った。あと、聞きとれないと反論もできないから、リスニングをもっとがんばりたい。
- ・普段経験しないような場で話をすることができて、良い経験をすることができました。自分自身まったく話せませんでしたが、ジャッジの方が良いアドバイスをくれたおかげで今後がんばろうと思えました。
- ・今日初めて英語ディベートを行いました。1回目は全くうまくできませんでしたが、2回目は反省をいかすことができて、堂々と話すことができました。とても楽しかったです。
- ・今までディベートしたことなかったのも、始まる前は緊張したけれど楽しかった。思ったことを英語にして話すことが苦手で自由に話せなくてもどかしかったのもっと練習したい。英語力よりも発想力や意見を構成する力が大切だと思った。





2.34 PDA 厚木高校・横須賀高校・小田原高校・相模原高校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2019年10月26日（木）9:30-12:00

会場：神奈川県立厚木高校

参加者：生徒22名、教員8名

ジャッジ：PDAスタッフ、教員6名

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

初めに、厚木高校の上前校長先生より、「みなさんの持っている力を100パーセントしっかり出してがんばってください」と激励のお言葉をいただきました。

PDAスタッフより、即興型英語ディベートの紹介活動、ディベートをすることで得られる効果、ルール説明がなされました。その後、モデルディベートを視聴しながらフローシートにメモをとる練習を行い、ディベートの雰囲気をつかみました。

全体の解説が終わると、第一ラウンドの論題が発表されます。あっという間に15分の準備時間が過ぎ、ブレストシートを活用し、味方チームと共有したポイントをもとにスピーチシートを作成します。未完成のままディベートのスピーチを始めるテーブルもあり、話さざるを得ない環境の中でなんとか工夫をして自分たちの論を展開する様子が伝わりました。



続く第2ラウンドでは第1ラウンドで受けた各テーブルジャッジからのアドバイスを参考にし、どのテーブルも相手側の論理と自分たちの論理を比較したスピーチを展開し、また1ラウンド目よりもしっかりとした構成のスピーチができました。ディベート後は、ジャッジからのフィードバックを真剣に記録する様子が見られました。

9月7日にスタートした、神奈川県学力向上進学重点校エントリー校17校参加のディベート体験会は本日5会場目をもって幕が閉じました。各会場で体験し学んだことをぜひ11月2日（土）の交流大会の場でも発揮してもらえることを期待しています。

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・ジャッジさんのアドバイスがすごく具体的で参考になった。ディベートを初めてまだ日が浅いが、続けていきたいと思った。
- ・今日の悔しさをいかしてあと少し大会まで練習したい。
- ・ディベートでは上手に行うことができなかつたり文章もあせって組み立てられなかったけど他の人のディベートを聞いているのはすごく楽しかったです。他校の人とも話せたり共有できたこともよかったです。
- ・ジャッジの方の指摘が的確でとてもためになりました。また、その的確なご指導から自分の弱点を見つけられました。
- ・他の高校と交流することで、様々な新しいことを知れただけでなく、貴重な試合経験を得ることができ、これからのディベートに役立つ、とても有意義な時間になりました。
- ・改善点が見つかったり、考えを深めることが出来たのが面白かったです。去年も交流会に参加していた身としては、自身の成長を感じられたのも1つの要因です。
- ・他校と交流して自分の力不足を実感すると同時にディベートの楽しさを再認識しました。
- ・レベルが高くて参考になることばかりであった！！
- ・英語力が上がった気がする。
- ・もっとやりたくなりました。





2.35 PDA 千葉県立千葉高校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2019年10月28日(月) 15:40-18:10

会場：千葉県立千葉高等学校

参加者：生徒13名、教員5名

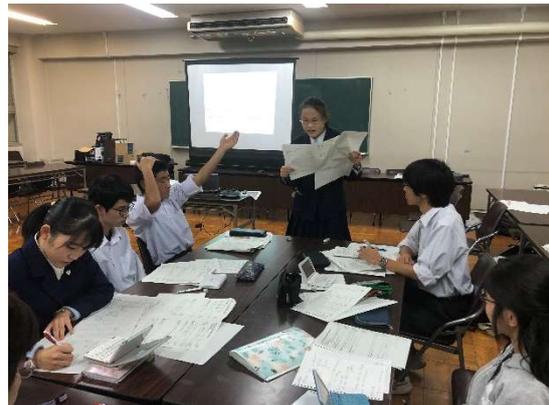
ジャッジ：PDAスタッフ、一橋大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

昨年即興型英語ディベートを体験した生徒が中心となり、ディベート同好会が発足しました。今年の参加者はその同好会メンバーと、ディベートに興味を持つ初参加の生徒で、首都圏交流大会に向けたセミナーが行われました。

まずPDAスタッフによるルール、スピーチ方法の講義後、動画による大学生のトップディベーターによるモデルディベートを見学しました。その後すぐに、生徒たちの実践となりました。

2年生テーブルと1年生テーブルに分かれて、それぞれディベートが始まりました。2年生テーブルは初めからPOIが飛び交う白熱したディベートが展開されました。1年生テーブルは短い準備時間の中で、多くがスピーチ内容が未完成な状態での発表でしたがそれでも、『何をしたらよいか分からない』という表情は見られません。自分たちの出したポイントについて一生懸命主張していました。



続く第2ラウンドでは、両テーブルの生徒たちもさらに要領をつかんできて、先ほどのラウンド後にジャッジスタッフから受けたアドバイスを早速各々が意識しているようでした。1ラウンドから2ラウンドにかけて多くの生徒に成長の跡がみられました。校長先生が最後まで生徒の様子を見守る中、ジャッジの勝敗およびコメント後はテーブルで両サイド共に笑顔の絶えない雰囲気でした。

参加者の声（アンケートより抜粋）

・最初のディベートのビデオでそのレベルの高さに驚き、まず改めてしゃべれるようになりたいと思った。自分のしゃべれなさを実感しつつ、ディベートで有効な話をたくさん聞いた。2ラウンドあったことも、言われたことをすぐに実践できる形式でありがたかった。

・即興ディベートをやるのは初めてだったが、色々と考えさせられることや、なるほどと思うことが多く、非常に勉強になった。時間がない中での準備は大変だったが、POIなどに答えられた時に良かったなと思った。

・1回目から2回目で自分が少し成長できたなと感じられた。

・日本語だとできることが英語だと難しいから単語力を身につけたいです。

・アドバイスをいただいて、自分が言いたかったことを言葉にしてもらって、どうしてこの言葉が自分で出せなかったのかがとてもくやしかったです。これからたくさん練習を重ねていきたいと思います。

・非常に楽しめました。また、自信もつき、これからより精力的にディベートを行っていこうと思いました。

・色々アドバイスがもらえたので、今後そこを改善していきたいです。また、POIをどんどんして良いことがわかった。もっとしていきたいです。



2.36 令和元年度PDA神奈川県高等学校即興型英語ディベート交流大会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2019年11月2日（土）12:00-17:00

会場：神奈川県立横浜平沼高等学校

参加校：17校（横浜平沼、横浜翠嵐、横浜緑ヶ丘、光陵、大和、川和、柏陽、多摩、横須賀、鎌倉、湘南、小田原、茅ヶ崎北陵、相模原、厚木、希望ヶ丘、平塚江南）

参加者：生徒96名、教員71名

スタッフ：PDAスタッフ、一橋大学、九州大学、聖光学院教諭・PDA認定教育ジャッジ

主催：神奈川県教育委員会、一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

主管：学力向上進学重点校エントリー校連絡協議会 グローバル教育研究ワーキンググループ
4技能指導法研究グループ

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI財団

開会式では、神奈川県教育委員会高校教育企画室グローバル人材育成グループの田村指導主事より、「意見を明確に伝えること、アイコンタクトやスマイル、ジャッジの先生にリスペクトを示すことが大事です。これらを目指してください。」と英語でメッセージが送られました。学力向上進学重点校エントリー校グローバルワーキンググループ代表であり、会場校である横浜平沼高校の校長である鑑先生からは、「チャレンジ精神が重要です。間違いを恐れず、大会を楽しんでください。」と英語でエールが送られました。



田村指導主事のご挨拶



鑑校長先生のご挨拶

次に、PDA代表理事である中川智皓（大阪府立大学工学研究科准教授）より、「吉田松陰の言葉に『学びの賞味期限』という言葉があります。学んだという気持ちをすぐ行動に移すことで本の学びになります。今日もし学んだという気持ちが生まれたら、ぜひ学校に帰って実行に移してみてください。」と挨拶がありました。そのあと、17校の学校紹介があり、各校生徒が起立・一礼をしました。そして、昨年の神奈川県高等学校即興型英語ディベート交流大会の様子を共有し、昨年の交流大会でトップ3だった横須賀高等学校、横浜翠嵐高等学校、横浜平沼高等学校よりトロフィーの返還が行われました。

最後に、ルールの復習、POIの確認を行い、早速1ラウンド目の対戦表が発表されました。



昨年度1位の横須賀高校のトロフィー返還



POI(質疑応答)の練習

第1ラウンドのお題は「*Casinos in Japan will give us benefits than harm.* (カジノは日本に害よりも利益をもたらす。)」でした。ラスベガスの例などを提示しながら、中毒の問題やマネーロンダリングの問題、カジノにより街が活性化する、など様々な観点から議論が行われました。本日最初のラウンドでしたが、果敢にPOIをする生徒も見られました。



ジャッジの目を見てスピーチ



各テーブルにジャッジの先生がつきます

続く第2ラウンドのお題は、「*The English private-sector test should be introduced into the national university entrance examinations.* (大学入試への英語民間試験の導入を行うべきである。)」でした。大会前日に英語の民間試験が延期になったことが決定した、とてもホットなトピックに、論題を見た瞬間、会場はとても沸きました。生徒だけでなく、ジャッジの先生や見学の先生も、準備時間に意見交換をする様子が見られました。

ディベートが始まると、4技能の重要性についてや、地方の生徒と都市部の生徒の不平等、金銭的な不平等など、大学受験を控えた生徒には身近な論題に様々な意見が飛び交いました。第1ラウンドよりもPOI(ディベート中に質疑応答をリクエストすることができるルール)が活発に飛び交い、わからなかったところを確認したり、相手の痛いところを突いた質問の応酬が繰り返されたりしました。



POI で相手に質問します

次に、教員エキシビジョンディベートでは、生徒たちが実際にディベートを行った、第1ラウンドの論題「*The retirement system for teachers should be abolished. (教員の定年制を廃止すべきである。)*」でディベートを行いました。教員を能力で評価するとなった際、能力は適正に測ることができるのか、年齢による差別は許されるのか、それとも投票権と同様に年齢で線を引きことが許されるのか、働いた後の楽しみや、定年の時期がわかっていたほうがより効果的に他の教員の育成ができるなどの議論がとても深い分析から展開されました。教員自身が教員の定年制について議論するという状況に、とても盛り上がったディベートとなりました。



選ばれた教員によるエキシビジョンディベート

生徒のエキシビジョンディベートの論題は「*Japan should have nuclear weapons. (日本は核兵器を保有すべきである。)*」でした。抑止力として働くのか、自国の安全は大丈夫か、など他の

国のケースなども用いながら説明がなされました。お互いに POI を活発に行い、その返しに会場が沸くこともありました。ディベートが終わるとお互いの健闘をたたえ、熱い握手が交わされました。また、今回のエキシビジョンディベートは今大会に来られた校長先生もメインジャッジと一緒にジャッジを行い、生徒のスピーチの観戦を行いました。



堂々と POI をしています



校長先生も一緒にジャッジを行いました

閉会式では、表彰が行われたあと、学力向上進学重点校エントリー校グローバルワーキンググループ代表・柏陽高等学校校長である井坂先生より「今回の論題でも登場した、英語の民間試験ですが、見送りが決定しましたね。しかし、京都大学の総長の先生や他の学校の校長先生と話す機会があった際、話題に上がったのはグローバル教育がマストであるということでした。これからもグローバル教育は重要だと思います。最後に頑張った自分自身に拍手して自分を労ってください。」とご講評と労いのお言葉をいただきました。



柏陽高校校長 井坂先生よりご講評

【表彰】

〈エキシビジョンディベータ賞〉

PM ____さん（柏陽）

LO ____さん（相模原）

MG ____さん（大和）

MO ____さん（柏陽）

PMR ____さん（鎌倉）

LOR ____さん（横浜翠嵐）



厚木校長 上前先生 柏陽校長 井坂先生と

〈教員エキシビジョンディベータ賞〉

PM ____先生（多摩）

LO ____先生（平塚江南）

MG ____先生（相模原）

MO ____先生（柏陽）

PMR ____先生（横須賀）

LOR ____先生（相模原）



横浜平沼校長 鐘先生 横浜翠嵐校長 篠塚先生と

〈チーム賞〉

1位：相模原、2位：柏陽、3位：小田原、4位：横浜翠嵐、5位：大和



1位 相模原高校

茅ヶ崎北陵校長 市川先生 平塚江南校長 土佐先生と



2位 柏陽高校

湘南校長 稲垣先生と



3位 小田原高校

小田原校長 林先生 鎌倉校長 重田先生と



4位 横浜翠嵐高校

横須賀校長 海浦先生と



5位 大和高校

大和校長 竹中先生 横浜緑ヶ丘校長 秋山先生と

〈ベストディベーター賞〉

_____ (平塚江南)、 _____ (相模原)、 _____ (相模原)、
_____ (横須賀)、 _____ (横浜平沼)、 _____ (横浜緑ヶ丘)、
_____ (光陵)、 _____ (横浜翠嵐)、 _____ (横浜翠嵐)、
_____ (厚木)、 _____ (厚木)、 _____ (川和)、
_____ (大和)、 _____ (柏陽)、 _____ (柏陽)、
_____ (希望ヶ丘)、 _____ (鎌倉)、 _____ (小田原)、 _____ (小田原)



大和校長 竹中先生と

〈POI 賞〉

_____ (大和)、 _____ (鎌倉)、 _____ (相模原)、 _____ (横須賀)
_____ (光陵)、 _____ (横浜翠嵐)、 _____ (厚木)、
_____ (川和)、 _____ (柏陽)、 _____ (平塚江南)



光陵校長 小島先生と

参加者の声（アンケートより抜粋）

生徒の声

- 世界がどの方向に向かっているように考える機会になった。英語力の上昇につながった。【横浜翠嵐 1年】
- たくさん間違えた。でも、それに影響されずに喋れてとても嬉しい。また、いろいろな人と話せるのは良い経験だった。【横浜翠嵐 1年】
- 少し緊張しましたが、とても楽しませていただきました。他校の方と交流することで、沢山の収穫を得ることができました。何よりも、英語力がとても上がったのを実感しました。【横浜平沼 1年】
- まわりの高校のレベルが高くて流石だなと思った。POIの量の多さに驚いた。【横浜平沼 1年】
- トピックになっていることが社会的に今話題になっているから、今回のイベントにとどまらず考え方を広げられると思う。英語力も考え方も向上できたのでよかった。【横浜緑ヶ丘 1年】
- 反論の仕方やフレーズの使い方などたくさん学ぶことができました。昨年の反省を踏まえて練習してきたことを発揮できて楽しかったしやりがいを感じました。【横浜緑ヶ丘 2年】
- 英語の流暢さに関係なく、論点をつければ勝てることを知れた。【光陵 2年】
- エキシビジョンのディベートがとても参考になった。【光陵 2年】
- 1つめの題が「カジノ」についてで、カジノについて基本知識が少なく、肯定側の立場として立論するのが難しかった。是非又参加したいです！【川和 1年】
- 自分の英語力を鍛えるために今回参加させていただきましたが、英語ではもちろん、それ以外のことでも自らの成長が感じられたのでとても良い経験になったと思います。【川和 1年】
- 色々な人のスピーチを聞いて、皆それぞれ話し方やスピーチ構造を工夫していることが伝わってきて、学ぶことが多かったし、楽しかった。【柏陽 1年】
- 大会でいつものようにスピーチすることの難しさを知ることができた。【柏陽 1年】
- 英語の外部試験の導入などタイムリーなモーションもあって面白かった。色々な学校の優秀なディベーターのスピーチも見れてとてもためになったし、そういう人達ともディベートしてみたいと思った。【横須賀 1年】
- 様々な意見が飛び交っていて、それらを catch して自分の思想に組み込み事ができるのが興味深い、たのしい。【横須賀 2年】
- 最後のエキシビジョンに選ばれなかったのは残念だが、POI 賞なども頂けて非常に嬉しかった。他校からの刺激を沢山受け、更なる実力向上に向け、今後も頑張っていきたい。【鎌倉 2年】
- 楽しい！もっともっとがんばりたい！ 【鎌倉 2年】
- モーションに合わせた定義、立論や反論の仕方について色々勉強になりました。【湘南 2年】
- エキシビジョンでやってた人とか、上手な人がとてもかっこよかったので、もっと頑張ろうという気持ちになった。【湘南 2年】
- 他の高校の理論立てやジャッジの人たちのアドバイスを今後の英語の授業等にかかしていき

と思います。またエキシビジョンマッチの聞き取りが難しかったので、リスニングを強化していきたいと感じました。【小田原 2年】

- すごく情熱的に話す人がいて感動したし、かっこいいなと思ったし、見ていて楽しかった。【小田原 2年】
- 同世代の子が活躍しているところを見て、自分ももっと頑張らないとと感じ、とても刺激的な時間となって良かったです。【平塚江南 2年】
- 相手の話を聞いてから自分の話すことを考えることが、今まで準備したことを話すのがほとんどだったので新鮮でした。【平塚江南 2年】
- 2回戦のみの出場で緊張して声も手振りも小さくなってしまいました。しかし練習でできなかったところが成功して言いたいことを伝えられたのと、練習会でほめられたところを伸ばせたのが嬉しかったです。以前 swing で組んだり対戦したりした他校の生徒と励まし合うこともできました。自分の実力不足を改めて痛感したので、今日からもっと勉強を頑張ります。本当に楽しかったです。【茅ヶ崎北稜 2年】
- 今までは時間制限がある中で作文を作るのはあせってしまい苦手だったのですが、ディベートに参加することで克服でき、自分の意見を伝える楽しさを実感できました～【茅ヶ崎北稜 2年】
- 表現の仕方など、情報量以外での勝負が面白かった。単語や慣用表現などをもっと勉強していきたいと思った。教員と生徒のエキシビジョンマッチがすごく楽しかった。【相模原 1年】
- とても良い環境でディベートさせていただき、とてもありがたいです。【相模原 1年】
- 自分がまだまだできていない所が多く見られたし、何より聞き取れない事が多くて少し悔しかった。【希望ヶ丘 1年】
- 練習の時よりも、良く話すことが出来たと思う。【希望ヶ丘 2年】
- 他校のレベルに驚くと同時に、自分もこうなりたいなあと思った。【厚木 1年】
- ちゃんとした場で、緊張感がある現場だったから、いつもより集中できていつもより調子が良かったです。【厚木 2年】
- こんなにもたくさんの英語に囲まれる機会はただ学校に通っているだけではできない経験であり、とても楽しい経験になりました。POI 賞もとることができ、本当に、素晴らしいチャンスになりました。【大和 2年】
- 他校のディベートチームとのディスカッションは練習会、交流会などでやってきたけど、ここまで中身の白熱したものができたのは初めてです。【大和 1年】
- この大会に来ることが出来て良かったです。自分は見学としてこの大会に参加したのですが、学校では絶対見られない、感じられないものが本大会にありました。各学校のトップに近い人達の発表は、綺麗な発音、スピード、そして、POI の数など、色々な部分で刺激を受けました。【多摩 1年】
- 表現力が高かったり、考え方が広視野だったり、流れがとても上手だった人に出会えたり、色々な人から吸収できることがあって刺激でとても楽しかったです。【多摩 2年】

教員の声

- 興味深いモーションを作ってくださいありがとうございます。【光陵】
- 生徒が他校の人とディベートをし、考えを深めるとともに英語学習への意欲が高まっているようで大変有意義でした。【小田原】
- 生徒の貴重な交流の場になりました。今後も自分にできることを探し、実践していきたいです。【柏陽】
- 生徒のみなさんが一生懸命自信を持って、自分の意見を言おうとしている姿が素晴らしかったです。【横浜翠嵐】
- 4ラウンド脳みそをフルに使って疲れしました。【川和】
- 昨年度も参加しましたが格段にレベルが上がっていました!! 【相模原】
- 生徒にとって非常に良い機会になりました。このような機会を作っていただき誠にありがとうございます。ぜひたくさん先生の先生方のこの姿を見ていただき神奈川の英語教育の未来について大人が一生懸命考えるきっかけにしていきたいです。【鎌倉】
- 相手を説得するときの観点や論理性を高める訓練になると感じた。【横須賀】
- 知的な戦いを見ることができて刺激をいただきました。ホットな話題が取り上げられたことで、生徒たちは日々のニュースに敏感になろうとする意識をもったと思います。【横須賀】
- 練習会に比べて一人ひとりの成長を感じた。もし続けたらと思うとワクワクします。【平塚江南】
- 生徒たちそれぞれの成果を試す場、学力向上進学重点校エントリー校の生徒の交流の場として、見応えがあった。ジャッジの好評を真剣に聞いて、次に繋げようとする生徒の真摯な態度に感動した。知識を深めることを日々の営みとしてディベートの力を向上させていってほしい。【湘南】
- 生徒たちの顔が生き生きとしていました。他校の生徒さんとレベルの高いディベートをすることができ、とても良かったと思いました。【横浜緑ヶ丘】
- まさに communicative な活動を目の当たりにしました。こんな世界があるとは恥ずかしながら知りませんでした。日頃の英語学習の良いきっかけ(動機付け)になるものと考えます。【相模原】

保護者の声

- 神奈川県の高校がディベートに熱心に取り組んでいることがよく分かりました。来年も参加でき、さらに積極的に取り組めることを願います。
- みんな楽しそうに生き生きしていた。他校とのつながりができてよい。授業では学べないので貴重
- 英語の内容は理解できなくても雰囲気は活気あって良かった。
- ディベート大会をはじめてみました。神奈川県の子供たちの力を見ることができた。自分の学校以外の生徒たちと子供が、出会えて良かったと思いました。英語による表現が人によってさまざままで、会場を渡り歩きましたが、とても良かったです。子どもたちにますます頑張ってもらいたいですね。(モチベーションがあがりそうですね)
- 高校生がのびのびとよく考える姿がすばらしかったです。



2.37 PDA 東京都立西高校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2019年11月5日(火) 15:30-18:00

会場：東京都立西高等学校

参加者：生徒12名、教員3名

ジャッジ：PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ、立教大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

初めに、ルール説明、POI (point of information: ディベート中に質疑応答をリクエストするルール) の練習、モデルディベートの視聴を行いました。モデルディベートの視聴では、フローシートにスピーチのメモをとる練習も行いました。

ルール説明が終わると、いよいよ第1ラウンドの始まりです。論題が発表されると、プレシート (アイデア出しシート) にキーワードを書き出す様子が見られました。実際のディベートでも相手の話をよく聞いてレスポンスをする様子が見られました。

第1ラウンドの終わりに、ジャッジから、POIをする重要性や、第1ラウンドの中でどのようなPOIができたかなどについて説明がありました。

続く第2ラウンドでは第1ラウンドで受けたジャッジからのアドバイスを参考に、相手の意見が詳しく理解できなかったときや、より詳細を知りたいとき、矛盾を感じたときなどに積極的にPOIをする様子が見られました。ディベートが終わると、お互いに握手をし、ジャッジから論題に関する解説や、フィードバックが行われました。第1ラウンドも熱戦でしたが、さらに白熱した議論となり、第1ラウンドからとても成長した姿が見られたディベートとなりました。



POI の練習を行いました



積極的に POI をしています

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・少ない時間の中で自分の考えをまとめて発言することの大変さもあったが、上手にまとめられたときは嬉しく、やりがいを感じられた。
- ・英語の能力を伸ばすだけでなく、身のまわりで起こっている、時事問題に目を向けて、知識量を増やしたいと思った。
- ・自分の英語力がもっとあればより上手に話せたのに、と悔しい気持ちがあり、それがまた自分の努力のモチベーションになった。
- ・論理的に伝えるのに、どのように考え、また相手の意見にどう反論すればいいのかを考えることができた。
- ・頭をとにかく使って楽しかったです。ディベートをきちんと行うのは初めてだったので丁寧に指導していただきながらできるのがとてもよかったです。ディベートに興味を湧いたのでこれから取り組んでみたいと思いました。
- ・本当に難しかったです。英語力も思考力・表現力も身につくと思えて、日常的にどんどんやっていきたいと思いました。





2.38 PDA 新潟県立新潟高等学校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2019年11月7日(木) 13:00-15:30

会場：新潟県立新潟高等学校

参加者：生徒55名、教員2名

ジャッジ：PDAスタッフ、九州大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

初めに、PDAスタッフより、ルール説明、POI (point of information: ディベート中に質疑応答をリクエストするルール) の練習が行われました。その後、モデルディベートの視聴を行いました。モデルディベートの視聴では、フローシートにスピーチのメモをとる練習も行いました。

ルール説明が終わると、いよいよ第1ラウンドの始まりです。第1ラウンドの論題は、*“Single sex schools are better than co-educational schools. (共学より、男子校または女子校の方がよい。)”* でした。論題が発表されると、ブレストシート (アイデア出しシート) をうまく活用しながら、関連するキーワードを図にしながら書き出したり、チームメイトと見せ合いながら意見交換をしたりする様子が見られました。今回は第1ラウンド、第2ラウンドともに PDA スタッフの務めるメインジャッジの他に、生徒がサブジャッジを体験しました。サブジャッジをすることになった生徒は、肯定チームと否定チーム両方の意見をお互いに考えました。実際のディベートが始まると、勉強に集中できる環境はどちらかや、相互理解を深める機会の重要性など様々な視点から議論が行われました。ラウンドが終了すると、生徒ジャッジも勝敗を述べ、メインジャッジからフィードバックが行われました。



POI の練習を行いました



チームメイトと作戦を練ります



生徒ジャッジも論題について考えます



聴衆を見て堂々とスピーチします

第1ラウンドが終わると、第2ラウンドの開始です。第1ラウンドでジャッジをした生徒はディベーターへ、第1ラウンドでディベーターをした生徒はジャッジとなりました。第2ラウンドの論題は、“*Japan should have nuclear weapons. (日本は核兵器を持つべきである。)*”でした。第1ラウンドよりも少し難易度の上がった論題でしたが、国際関係や日本の現状など様々な視点から深い分析が行われました。実際のディベートでは第1ラウンドでジャッジから受けたアドバイスを活かしながら、具体的な説明を行おうと、理由づけだけでなく、例を説明する生徒も多く見られました。中には、普段自分がチェックしている海外のニュースの事例をスピーチの中で披露する素晴らしいスピーチも見られました。

ディベート後のベストディベーターに選出された生徒からの感想では、「海外の人と話すときは常に即興。この即興型ディベートでその場での対応力を磨く必要性を感じた」「普段から国内外のニュースに注意を払うことが重要」など、英語学習や社会情勢の理解に対するモチベーションの上昇を感じるコメントが多数ありました。



ジャッジの正面に立ち、スピーチします



生徒ジャッジによるコメント



生徒ジャッジより勝敗の理由が説明されます ベストディベーターの生徒による感想

参加者の声（アンケートより抜粋）

・相手の意見を聞いてすぐに自分の意見の発し方の組み立てを考えるのが新鮮で楽しかった。

・普段の授業のときよりもその都度頭を使って対応しなきゃいけないというプレッシャーが大きかったが、自分から話していこうという力をつけていかなきゃいけないとわかった。

・短時間で考えて英語で話すのは大変だったけど、相手に伝わっているのが分かったととても楽しかった。

・即興でものを考えることはあまりないので、言語問わず、日々の生活にとりいれるべきだと思った。反論が考えつかないような鋭い意見もあり、思考力が必要な上、考えを刺激された。新たな視点を得られた。

・すぐに意見を話すのが難しかったが、達成感があった。

・自分のディベートのどこが良かったのか、どこが良くなかったのかを客観的な視点から知ることができ、自分自身を成長させる良い機会になったと思う。

・僕は頭ですぐ考えて英語に変えて話すということは本当にできなくて、すぐにつかえてしまったが、こういう機会があることで、即興で考えることができるようになるんだなと思った。

即興は初めてでした。すぐに自分の考えを決めて英語で言えるようになりたいです。

・アメリカに行った後またやってみて伸びしろを見てみたい。

・英語を話せるかどうかよりも、英語で話すことがあるかどうかの方が重要であると改めて感じた。私は普段英語を勉強しないで本ばかり読んでいるから親に怒られるが、そうやって得た知識は今日のディベートでも活かしたから悪いことでは無かったのだと思う。英語で話せるというのはこれからあたりまえになっていくとおもうから、これからも改善点を見つけていきたい。



2.39 PDA 埼玉県立浦和高校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2019年11月8日(金) 16:15-17:45

会場：埼玉県立浦和高等学校

参加者：生徒27名、教員5名

ジャッジ：PDAスタッフ、PDA認定教育ジャッジ、名古屋工業大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

昨年この体験会に参加した生徒と、今回が即興型の英語ディベートは初めてだという生徒がいるなか、体験会がスタートしました。初めに、ルール説明、POI (point of information: ディベート中に質疑応答をリクエストするルール) の練習、モデルディベートの視聴を行いました。POI の練習では昨年この体験会に参加した生徒が見本のポーズを披露してくれました。モデルディベートの視聴後は内容解説や POI の重要性についての解説が行われました。

ルール説明が終わると、いよいよラウンドの始まりです。論題が発表されると、チームメイトと準備がしやすいように席を移動し、準備時間から熱気が感じられました。ディベートが始まると、相手の話をしっかりと聞いて反論や再構築をその場で考えてスピーチしている様子が見られました。また、相手の痛いところをつく POI も繰り広げられました。

ディベートが終わると、各テーブルについているジャッジから、勝敗、その理由、個人コメント、ベストディベーター・ベスト POI 賞の発表が行われました。ジャッジからのコメントを聞き、真剣にメモをとる様子や、ジャッジに積極的に質問する様子なども見られました。浦和高校の小河先生より、「首都圏交流大会やアメリカ研修に向けて今回のように英語を使う練習をしていきましょう」と激励のお言葉をいただき、浦和高校での体験会が終了しました。



POI の練習を行いました



チームメイトと作戦を練ります

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・お互いに熱く議論し合うことができた。特に議題に対しての知識が深まり、様々な意見を知り、持つことができたことが有意義でした。
- ・準備型よりもチームメンバーと協力してチーム戦感が強くて楽しかった。また終わった後に「ああ～あそここう言えばよかった～」などの悔しさも味わえることで次へのワクワク感が大きかった。
- ・相手にPOIをされたときは、いきなりだったので少し慌ててしまった。ある程度準備してから話すことはそこまで難しくないが、突然の質問に答えるにはかなり高度な英語力が求められていると思った。
- ・英語での即興ディベートは初めてだった。相手の肯定意見に対してすぐに反論を考え、英語にするということはとても難しかったため、これからの学習を通してスムーズにできるようにしたい。友達と話し合っって話す内容を決めたことが楽しかった。
- ・今日は、即興ディベートの難しさとおもしろさをよく理解できました。実際にやってみて、論理を組み立てることの奥深さや思ったことを英語で表現していくことの難しさを知ることができました。とてもおもしろかったし、自分の実力を向上するきっかけになりました。





2.40 PDA 埼玉県立浦和第一女子高校即興型英語ディベート 体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2019年11月11日(金) 15:50-18:20

会場：埼玉県立浦和第一女子高等学校

参加者：生徒27名、教員5名

ジャッジ：PDAスタッフ、一橋大学、名古屋工業大学

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

化学階段教室にて体験会がスタートしました。今年は昨年からのリピーター率も高めで、1年生から3年生の生徒(3年生の中には今回の参加で3年目の生徒さんもいらっしゃいました)への説明でルール等も分かっている方もいましたが、1年生はほとんどが初挑戦なため、ルール説明、POI (point of information: ディベート中に質疑応答をリクエストするルール)の練習、モデルディベートの視聴を完結に行いました。

第一ラウンドの論題 *Single sex schools are better than co-educational schools. (共学より、男子校または女子校の方がよい。)*が発表されます。スピーチシートも未完成のまま、話さざるを得ない環境の中で、「異性を気にせず自由な発言ができ活発化する」や「我が校卒業生の結婚率の低さ」など例を挙げて自校の女子高であることのメリットデメリットを一生懸命論じていました。

続く第2ラウンドでは第1ラウンドで受けた各テーブルジャッジからのアドバイスを参考にし、全てのテーブルで1ラウンド目より伸びを実感したようでした。

本日で首都圏公立高等学校即興型英語ディベート交流大会体験会日程は全て終了しました。体験会で得たスキルをもとに17日の日比谷高校での交流大会でお会いしましょう。



モデルディベートを見ながら流れを掴みます



POI(質疑応答)に応えます

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・1回目は否定で参加し、聞き取れないこともあったが、2回目にジャッジで参加したのは聞き取れて、短時間での成長を感じられました。
- ・よく英検対策として for/against composition を書いていたので役立ったし、すぐ考えが浮かんできた。もっと“即興的”であるようにしたい。文をガチガチにつくって発表しすぎた。
- ・実際に英語ディベートを行ってみて、英語が出てこないもどかしさを感じました。今回の気持ちを忘れずに、英語を話すことを恐れずに、自分から英語を話してゆきたいです。
- ・今回のディベート授業を通して英語で話すことが楽しいと感じられました。英語の能力はまだまだですが、力になると実感できたので、今後も行いたいと思いました。
- ・言わなければいけない状況にあったので、とりあえずあってるかどうかわからなくても言うことが大切だと思った。1年生のときよりは沈黙がへったので良かった。
- ・とても楽しかったです。1年に1回ではなくてもっとやって欲しいです。
- ・来年もやりたくなりました。もっと上手になって帰ってきます！



2.41 PDA山口県高等学校即興型英語ディベート交流大会 2019

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2019年11月16日(土) 13:00-17:00

会場：山口県立山口高等学校

参加校：7校(山口高校、下関西高校、下関南高校、徳山高校、萩高校、大津緑洋高校、防府高校)

参加者：生徒50名、教員10名

スタッフ：PDAスタッフ、九州大学

主催：一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)、山口県立山口高校

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI財団

開会式では、会場校の山口高校校長 栗林先生より、「この山口県高等学校即興型英語ディベート交流大会も3回目を迎えました。この大会に参加している生徒の皆さんは英語が好きで勉強していることと思います。英語の勉強において、4技能はとても重要です。4技能をバランスよく習得するのにこの即興型英語ディベートはとても有効だと思います。また、勝ち負けが存在するわけですが、ディベートが終わったら他校の生徒としっかり交流を深めて欲しいと思います。」とエールが送られました。

次に、PDA代表理事である中川智皓(大阪府立大学工学研究科准教授)より「部活で取り組まれている人は、その練習成果を大いに発揮してください。そして、今日は授業で即興型英語ディベートを学んだ生徒さんも多くいるとお聞きしています。即興型英語ディベートは、読み書きそろばんと同様に、今後、有すべき基本的な力となると思います。普段からの多方面での勉強の成果を、今日は他校の生徒さんと交わることでさらに深めてもらいたいと思います。」と挨拶があり、PDAスタッフより7校の学校紹介があり、各校生徒が起立・一礼をし、意気込みを述べました。その後、ルールの復習やPOIの確認を再度行いました。そして、早速1ラウンド目の対戦表が発表されました。



山口高校 栗林校長先生



POI(質疑応答)の練習

第1ラウンドのお題は「*Single-sex schools are better than co-educational schools.* (共学より男子校または女子校のほうがよい。)」でした。初めは緊張した雰囲気でしたが、実際にディベートが始まるとチームメイトと作戦を練りながら熱いディベートが繰り広げられました。勉強により集中できるのはどちらの環境なのかという点や、異性間理解がより育まれるのはどちらの環境なのかといった点についてお互いに具体例などを用いながら議論を行いました。第1ラウンドからとても白熱したディベートが繰り広げられました。ディベートが終わると、ジャッジの先生のコメントを真剣に書きとる様子が見られました。



準備時間①



準備時間②

続く第2ラウンドのお題は、「*Japan should have nuclear weapon.* (日本は核兵器を保有すべきである。)」でした。昨今の北朝鮮のミサイル発射や、日本・中国・アメリカの国際関係など、普段見聞きしているニュースなどの知識を織り交ぜながら、現在日本がおかれている状況について説明を行いました。中には、国連や常任理事国などについても触れながら日本が有事の際に国を守ることができる状態にあるのか否かなどについて議論しているチームもあり、非常に内容の濃いディベートとなりました。



Opposition の準備時間



POI で質問をします

そしてジャッジを務めた教員やスタッフがもう一度この人のディベートを見たいとエキシビジョンディベーターに推薦した6名によるエキシビジョンディベートが始まりました。論題は「**Introduction of the private-sector test into the national university entrance examinations should be stopped.** (2020年度からの大学入試への民間試験の導入をやめるべきである。)」でした。「民間試験を導入すると、家庭の裕福さや住んでいる地域によって受験が難しい人が出てくるので不公平だ。全国を受験生が大学入試のために使うものだから平等なチャンスがあるべき。」という Government チームの主張に対し、「現在日本のセンター試験はリーディングが中心だから、外国人と話せるようになるために民間試験を導入すべきだ。」と Opposition は主張しました。お互いに POI を活用しながら相手の話をよく聞いて立論や反論を行いました。甲乙つけがたいディベートでしたが、エキシビジョンディベートを見学した生徒による投票で Government の勝ちとなりました。



聴衆を見て堂々とスピーチ



すかさず POI を行います

勝敗の理由を他の生徒を代表して説明した生徒は、しっかりと各スピーチを聞きながら Government のポイントの方が強い理由を整理し、論理立てて説明することができました。



勝敗の理由を自分の言葉で説明

閉会式では、山口高校教頭 白石先生より、「いつもの授業と違う活動に取り組み、脳をフル回転させ、疲れたという方もいるかもしれませんが、心地よい疲労感ではないでしょうか。このディベートは英語力を上げるのに有効だと思いますが、それだけではなく、相手の出方を読む力や相手の立場を考える力も養うことができると思います。何かをはじめから完璧にできる人なんていません。ぜひ練習を重ねてこれからも頑張ってください。」と労いのお言葉をいただき、第3回山口県高等学校即興型英語ディベート交流大会の幕が閉じました。



山口高校 白石教頭先生



集合写真

【表彰】

〈エキシビジョンディベーター賞〉

PM _____さん (大津緑洋)
 LO _____さん (防府)
 MG _____さん (大津緑洋)
 MO _____さん (徳山)
 LOR _____さん (下関西)
 PMR _____さん (山口)



〈チーム賞〉

1st 防府
 2nd 大津緑洋 A
 3rd 下関西 B
 4th 大津緑洋 B
 5th 徳山 B



〈ベストディベーター賞〉

- _____ (下関西 B)
- _____ (山口 B)
- _____ (下関西 A)
- _____ (山口 D)
- _____ (大津緑洋 B)
- _____ (大津緑洋 A)
- _____ (徳山 B)
- _____ (防府)
- _____ (萩)
- _____ (大津緑洋 B)
- _____ (大津緑洋 A)
- _____ (山口 C)
- _____ (徳山 A)
- _____ (山口 A)



〈POI賞〉

- _____ (山口 A)
- _____ (山口 C)
- _____ (大津緑洋 B)
- _____ (大津緑洋 A)
- _____ (防府)
- _____ (徳山 B)
- _____ (大津緑洋 B)
- _____ (下関西 A)
- _____ (山口 C)
- _____ (下関西 B)
- _____ (山口 D)



参加者の声（アンケートより抜粋）

生徒の声

- 他校の人と実際にディベートを行ったことがなかったので良い経験となった。もう一度やってみたい。【下関南】
- 初めて英語のディベート大会に参加したけど、良い経験ができてよかったです。自分でその場で考えて英語を発することは難しかったです。もっと英語力をつけて次参加できるようにしたいです。【下関南】
- 非常に短い時間で質の高い内容だった。しかし、時間が短いのが残念だった。もっと楽しみたかったし、交流の時間も欲しかったので、次回は午前中から行ってほしい。【大津緑洋】
- とても interesting でした。【大津緑洋】
- 相手の言っていることが全然わからなくてあせることもあったけど、ベストを尽くせてよかったと思います。ディベートをすればそのことについて深く考えることができると改めて感じたので、これからもディベートに関わっていきたいです。【徳山】
- 今回の経験はとて素晴らしいものになった。普段ふれあうことのない他校の人たちと交流でき、さらに、さまざまな考え方にふれることが出来て、とてもよかった。嫌々やったディベートだったが、やってよかったと本当に思った。【徳山】
- 今までなんとなく行っていたけれど、一生懸命したら、日本語でやるディベートくらい充実したものになるとわかり、面白かった。次の大会までに自分がどこを改善すれば良いかかわったのでこれからの活動に活かしていこうと思う。【下関西】
- エキシビジョンディベートに参加された人たちがすごかったです。私の学校の先輩も選ばれて緊張すると言いながらも焦らずわかりやすいテンポ、文法でディベートしていて憧れ度合いが上がりました。私も来年は参加して見たいです！【下関西】
- 他校の生徒が目の前で活発に意見を言い合っていて同じ高校生でこんなに話せるんだと思い刺激を受けた。【萩】
- 今回初めて英語ディベート大会に参加したことで、自分にとって新たな視点でのものの考え方、そして英語で表現することの難しさと楽しさを知ることが出来ました。最初はうまくできるかわからず、緊張していましたが、今は心から参加してよかったと思っています。今回の英語ディベートで得たことを、その他の議論、そして今後の人生で活かしていきたいと思っています。【萩】
- とても楽しかった。エキシビジョンでは自分が話したいようなお手本のディベートが見ることができたのでよかったです。【防府】
- 来年もぜひ開催してください。【防府】
- 短い時間の中で自分の主張を考えて準備するのは大変だなと思いました。だけど、このような経験を通して、もっと上手にディベートをする方法を学んでいきたいと思いました。【山口】
- 英語で自分の考えを述べるのがこんなに難しいんだと改めて感じる事ができました。わからない単語も出てきてとても悔しい気持ちでいっぱいでした。もっと英語を勉強しようと思いま

した。【山口】

- 他校の自分と同じ学年や年下の学年の人たちが、自分と比べものにならないくらいにスピーキングの能力があったり意見をはきはきと述べたりしている姿を見てとても刺激を受けました。

【山口】

教員の声

- 果敢にディベートに臨む高校生の姿にたくましさを感じました。本校の生徒たちもこれをきっかけに研鑽を積んでいけたらと思います。【下関南】
- 題材の選定がよく、生徒たちの成長が見られた。他校との交流ができた。【徳山】
- 今年度はより多くの学校が参加されていて、他校の生徒と対戦することや、多くの生徒と対戦することや、多くの生徒が英語で話しているのを見ることを通じ、多くの刺激を得ることができたと思います。この交流大会に参加することが部活動のモチベーションになっています。ひとつの目標にしています。ぜひ来年度も実施してください。【下関西】
- 生徒が楽しそうにしていた姿が見られた。他校の生徒と英語を通して交流ができて、生徒にとって少し自信になったのではないかと思います。【萩】

2.42 PDA 首都圏公立高等学校即興型英語ディベート交流大会 2019

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2019年11月16日(土) 12:00-17:30

会場：東京都立日比谷高等学校

参加校：9校(日比谷高校、都立西高校、三田高校、八王子東高校、浦和高校、浦和第一女子高校、千葉高校、湘南高校、柏陽高校、)

参加者：生徒56名、教員31名

スタッフ：PDAスタッフ、九州大学、九州大学OB、一橋大学、相模原高校・PDA認定教育ジャッジ

主催：一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

協力：東京都立日比谷高等学校

開会式では、会場校の日比谷高校校長 武内先生より、「志を同じにした生徒の集まりですので、大いに楽しんでください。」とエールが送られました。次に、PDA 代表理事である中川智皓(大阪府立大学工学研究科准教授)より挨拶・参加した9校の学校紹介・ルールの復習・POIの確認を行いました。開会式中には、昨年入賞し、トロフィーを獲得した東京都立三田高校、神奈川県立柏陽高校、神奈川県立湘南高校による、トロフィー返還式が行われました。生徒たちは、今大会でこのトロフィーを手にするぞとやる気に満ちた目をしていました。



日比谷高校 武内校長のご挨拶



昨年度の第一位 三田高校



昨年度の第二位 湘南高校



昨年度の第三位 柏陽高校

第1ラウンドのお題は「**Term-exam should be abolished.**(定期テストは廃止すべきである。)」でした。昨年も参加したという生徒と今年が初めての参加だという生徒がおり、張り詰めた空気が漂う中、第1ラウンドが始まりました。緊張していた様子の生徒でしたが、ディベートが始まると白熱したラウンドを繰り広げました。自分のしたい勉強ができないという意見や、短期間で集中して勉強することが大事だという意見などが出ました。ディベートが終わると相手チームと握手をし、ジャッジの先生によるフィードバックの時間です。ディベートをした生徒たちだけでなく、そのラウンドを見学した生徒もジャッジのコメントを真剣に聞き、メモを取っていました。



都立日比谷 vs 都立西



県立浦和 vs 県立千葉

続く第2ラウンドのお題は、「**We should legalize euthanasia in Japan.**(日本で安楽死を合法化すべきである。)」でした。第1ラウンドで「効果的なPOIの行い方」「相手のポイントを予測してから自分たちの立論を考える」などジャッジの先生から受けたアドバイスを準備時間から活かそうとする様子が見られました。実際にディベートが始まると、第1ラウンドよりも活発にPOIも行われ、病気を抱えた当事者の視点や、家族の視点など、様々な視点から議論が展開されました。



柏陽 vs 三田



湘南 vs 八王子東

続く第3ラウンドのお題は、「**Japan should introduce the conscription system. (日本は徴兵制を導入すべきである。)**」でした。女性の出産やキャリアの問題、日本の安全など幅広い観点からディベートが行われました。また、ラウンドが終わると、日比谷高校の武内校長からの差し入れのお菓子を手に取りながら他校との交流が行われました。



積極的に POI を行います



お菓子を手に交流を深めます

そしてジャッジを務めた教員やスタッフがもう一度この人のディベートを見たいとエキシビションディベーターに推薦した6名によるエキシビションディベートが始まりました。論題は「**Living in an apartment is better than living in a house. (一戸建てよりもマンションに住むほうが良い。)**」でした。セキュリティ面でどちらが良いかなどについて立論や反論、時には POI をしながら議論を行いました。結果は見学しながらジャッジをしていた生徒と校長先生の投票により **Opposition** の勝ちとなりました。エキシビションディベートの準備時間に PDA スタッフにより行われたジャッジレクチャーを参考に勝敗を考える機会となりました。



ジャッジレクチャー



校長先生もジャッジを行います



堂々とスピーチを行います

閉会式では、八王子東高校宮本校長先生より、「この即興型英語ディベートは単に英語力が伸びるというだけではなくて、色々な力が組み合わさって伸びていきます。今回のテーマも身近なテーマから社会に関心がないと考えつかないようなテーマまでありました。これは学校の中で学んでいることだけでは不十分で、社会に関心を持つことが重要だということなんです。また、15分という限られた時間の中で準備してディベートをするのは難しいことですが、この力は今後必要とされる力です。このような経験をできたということは皆さんにとってとても良いことだったと思います。他校の生徒とのネットワークを大事にしながらこれからも頑張ってください。」と労いのお言葉をいただき、第6回首都圏公立高等学校即興型英語ディベート交流大会の幕が閉じました。



八王子東高校 宮本校長先生



集合写真

【表彰】

〈エキシビジョンディベータ賞〉

- PM _____さん (柏陽)
LO _____さん (日比谷)
MG _____さん (県立浦和)
MO _____さん (都立西)
LOR _____さん (三田)
PMR _____さん (湘南)



エキシビジョンディベーター

〈チーム賞〉

- 1st 柏陽
2nd 県立浦和
3rd 日比谷
4th 浦和一女
5th 湘南



柏陽高校 井坂校長 (柏陽) と



県立浦和高校 武内校長 (日比谷) と



日比谷高校 稲垣校長 (湘南) と



浦和一女高校 萩原校長 (都立西)



湘南高校 宮本校長 (八王子東) と

〈ベストディベーター賞〉

- _____ (柏陽)
- _____ (湘南)
- _____ (日比谷)
- _____ (千葉)
- _____ (都立西)
- _____ (都立西)
- _____ (都立西)
- _____ (日比谷)
- _____ (日比谷)
- _____ (柏陽)
- _____ (県立浦和)
- _____ (県立浦和)
- _____ (浦和一女)
- _____ (浦和一女)
- _____ (三田)



ベストディベーター賞 佐藤校長（千葉）と

〈POI 賞〉

- _____ (県立浦和)
- _____ (湘南)
- _____ (柏陽)
- _____ (千葉)
- _____ (都立西)
- _____ (日比谷)
- _____ (柏陽)
- _____ (柏陽)
- _____ (日比谷)
- _____ (浦和一女)



ベスト POI 賞 三保校長（三田）と

参加者の声（アンケートより抜粋）

生徒の声

- ・普段より英語のレベルが高く、内容も深い議論だった。他校の意見が面白かった。（日比谷）
- ・普段の授業で感じることのできない即興型ディベートの楽しさや、英語で社会問題を議論する楽しさを知ることができました。（日比谷）
- ・またやりたいです。次はもっとうまくできるように授業でちょっと練習したい。（日比谷）
- ・いろいろな考えの人が交流できたし、いろいろな英語が上手な人のスピーチを聞いた（三田）
- ・ジャッジの方の細かい指摘やアドバイスで何度も簡単させられることがあり、今後の練習におけるモチベーションにつながりました。（三田）
- ・回数を重ねるうちに英語をスムーズに言えるようになってきた（八王子東）
- ・本日、2回目のディベートで大変緊張しましたが何とかやり切ることができてよかったです。ただまだまだ自分の力は未熟で、他の学校さんの足元にも及ばないと感じました。今日から改善し、またの機会にリベンジしたいと思います。（八王子東）
- ・意見の交換できることが良かった。普段こんなに思考力を使うことがない。（湘南）
- ・またやりたいです。（湘南）
- ・今回は自分の英語力の確認とレベルアップをすることができました。英語のリスニング力やスピーキング力の向上だけでなく、アーギュメントに対する目の向け方や相手の考えていることがどうなっているのか思考する部分を大きく向上させることができました。（県立浦和）
- ・楽しかったのに加えて、勉強にもなりました。（県立浦和）
- ・学校の中だけだと知ることができなかつた、自分の主張の弱い点や質問されやすい点などを学ぶことができました。（県立千葉）
- ・他校のディベートの様式などを学ぶことができ、刺激を受けることができた。また、他校の方と交流し、友達になることができた。（県立千葉）
- ・他校と交流できたことも嬉しかったし主張がうまく通じた時は、嬉しかった。（都立西）
- ・自分の主張を発信する事はこれからもっともっと大切になってくるので、もっと練習していきたいと思いました。（都立西）
- ・今回初めてディベートの大会に出てみて、他校のレベルに驚き、もっとうまくしゃべって良いディベートをしたいと思った。（浦和一女）
- ・たくさん経験を積んでまた来年挑戦したいです。（浦和一女）
とても視野が広がりました。今回は初めてのディベートで反省点の方が多く、本当に勉強になりました。英語力のみならず、社会情勢に対する知識、論説の仕方も身に付きました。（浦和一女）
- ・楽しかったです。（柏陽）
- ・私は3ラウンド中1ラウンドのみの参加だったけれど自分の弱点を改めて痛感できる貴重な機会になった。（柏陽）

教員の声

- ・ラウンド2、3のお題が重かったですが、皆頑張っていました。日ごろから、視野を広げておく必要があると感じました。（教員）
- ・生徒及びジャッジの方々の活動時間に見て、自分を省みることができた。（教員）
- ・他校の生徒の取り組みが見られたこと、ジャッジの勉強になったことが有益でした。本校の生徒も多くのことを吸収したようでした。（教員）



2.43 文部科学省後援 第5回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会 報告書

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：2019年12月21日(土)、22日(日)

(1日目) 予選4試合、(2日目) 準々決勝、準決勝、決勝、キーノートレクチャー

会場：東京大学 本郷キャンパス 工学部2号館

主催：一般社団法人 パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

共催：東京大学生産技術研究所、公立大学法人 大阪府立大学、

JST 未来社会創造事業「持続可能な社会の実現」領域

『「知」の循環と拡張を加速する対話空間のメカニズムデザイン』プロジェクト

後援：文部科学省、朝日新聞社、朝日中高生新聞、一般社団法人 日本英語交流連盟、

一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟、全国高等学校長協会

協賛：東京大学生産技術研究所次世代育成オフィス (ONG)

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

参加校：

(北海道) 北海道札幌南高等学校、(青森県) 青森県立青森高等学校、八戸聖ウルスラ学院高等学校、(岩手県) 岩手県立盛岡第一高等学校、岩手県立一関第一高等学校、(秋田県) 秋田県立角館高等学校、(山形県) 山形県立山形東高等学校、(茨城県) 茨城県清真学園高等学校・中学校 (栃木県) 栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立佐野高等学校、栃木県立宇都宮東高等学校、(群馬県) 群馬県立前橋高等学校、(埼玉県) 埼玉県立浦和高等学校、埼玉県立浦和第一女子高等学校、さいたま市立浦和高等学校、(千葉県) 千葉県立千葉高等学校、翔凜高等学校、(東京都) 筑波大学附属駒場中・高等学校、富士見中学高等学校、豊島岡女子学園中学高等学校、東京都立日比谷高等学校、東京都立小石川中等教育学校、東京都立両国高等学校・東京都立両国高等学校附属中学校、渋谷教育学園渋谷中学高等学校、(神奈川県) 神奈川県立湘南高等学校、神奈川県立横浜翠嵐高等学校、神奈川県立柏陽高等学校、神奈川県立相模原高等学校、浅野学園中学高等学校、栄興学園中学高等学校、聖光学院中学校高等学校、洗足学園中学高等学校、湘南白百合学園中学・高等学校、(富山県) 富山国際大学付属高等学校、(福井県) 福井県立藤島高等学校、(長野県) 長野県長野高等学校、長野県松本県ヶ丘高等学校、長野県松本深志高等学校、(岐阜県) 岐阜県立岐阜高等学校、(愛知県) 愛知県立岡崎高等学校、(三重県) 三重県立四日市高等学校、(滋賀県) 滋賀県立彦根東高等学校、立命館守山中学校高等学校、(京都府) 京都府立鳥羽高等学校、京都府立嵯峨野高等学校、(大阪府) 大阪教育大学附属高等学校平野校舎、大阪府立北野高等学校、大阪府立豊中高等学校、(兵庫県) 神戸大学附属中等教育学校、雲雀丘学園中高等学校、(奈良県) 奈良県立奈良高等学校、(鳥取県) 鳥取県立倉吉東高等学校、(岡山県) 岡山県立岡山大安寺中東教



育学校、(山口県)山口県立宇部高等学校、山口県立山口高等学校、(徳島県)徳島県立城之内高等学校、(香川県)香川県立高松高等学校、(福岡県)福岡県立城南高等学校、(熊本県)鎮西学園真和高等学校、熊本県立八代高等学校、熊本県立第一高等学校、(鹿児島県)鹿児島県立鹿児島中央高等学校、鹿児島県立大島高等学校、神奈川県立多摩高等学校 (swing) 65校

開催趣旨：

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)では、グローバルに活躍する人財育成の一手法として、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの複数の力を効果的に訓練可能な即興型英語ディベートを推進しています。

本大会では、即興型英語ディベートの普段の練習の成果を試し、全国の高校生と議論を交わすことで、さらなる成長・学習意欲を促すことを目的とします。授業での取り組み成果を発揮できるよう、形式は授業導入可能なフォーマットです。(参照：文部科学省助成事業 <http://englishdebate.org/debate/>)

論題(論題は、毎回ディベート開始15分前にはじめて発表されます)：

予選1：Club activities should have three-day holidays.

(部活動は週休3日とすべきである。)

予選2：Children should be prohibited from posting videos on video hosting websites.

(子どもが動画投稿サイトに投稿することを禁止すべきである。)

予選3：The postponement of introducing private English tests into national university entrance examinations has brought more benefits than harm.

(共通テストの英語民間試験導入の見送りは、害よりも利益をもたらした。)

予選4：Social media (e.g. twitter) causes only division of society.

(ツイッターなどのソーシャルメディア(SNS)は社会の分断を助長するだけである。)

準々決勝：Disaster forecasts should be issued from a single source.

(災害の情報は単一の情報ソースから周知されるべきである。)

準決勝：Japan should pay the full costs of US military bases in Japan.

(日本は米軍の駐留費を全額負担すべきである。)

決勝：Parents should be banned from corporal punishment of children for discipline.

- Hit children in the face or on the bottom
- Force children to sit straight for a long time
- Not to give food

(親がしつけに際して、体罰を加えることを禁止するべきである。)

※ここで、体罰は以下を含む。

・頬や尻を叩く・長時間正座させる・ご飯を与えない)

キーノートレクチャー講師:

- ウォール・ストリート・ジャーナル 日本版編集長 西山 誠慈 氏
- 東京大学生産技術研究所 教授 芳村 圭 氏
- ヤフー株式会社 コーポレートエバンジェリスト
Yahoo!アカデミア 学長、株式会社ウェイウェイ 代表取締役 伊藤 羊一 氏

1 日目

開会式では、65校の高校が紹介されました。全国から二日間で北は北海道から南は鹿児島まで全国から高校生・教員・見学者が集まりました。今年は例年よりも見学者の数が多く中継会場にもたくさん集まり、熱気に包まれた中スタートしました。大会でのルール諸注意、PDA 認定教育ジャッジの紹介、ジャッジ手順の確認が行われました。また、代表理事よりディベートの勝敗に盲目になること（重箱の隅をつつく議論や勝つためだけの姑息な POI（質疑応答）、早口の自己満足など）を超えて、本質的に議論すべき内容を、紳士淑女の態度で正々堂々と深めることが、本大会の趣旨であることが述べられました。



開会式の様子（左：PDA 代表理事・中川智皓による挨拶・説明）

開会式が終わるとすぐに予選です。64 チームが一斉にディベートを行います。1 日目は予選が 4 試合行われ、その結果を受けて翌日の準々決勝に進出するチームが決まります。予選 1 の論題は「部活動は週休 3 日とすべきである。」です。現状で部活の週休が少ないことにより教員・生徒に生じている害や、週休三日であると部活の質が著しく低くなることから生じる生徒の精神面での害などが挙げられました。



予選1 日比谷 vs 札幌南



予選1 宇都宮 vs 鳥羽



予選1 北野 vs 翠嵐



予選1 四日市 vs 青森

予選2の論題は「子どもが動画投稿サイトに投稿することを禁止するべきである。」です。両チームとも子供や動画サイトの性質、近年の実際具体例をふまえてどのようなリスクがあるのか、それが禁止すべきものであるのかということについて深く議論を交わしていました。2試合目ということもあり、一試合目の反省を生かして議論に臨んでいました。



予選2 岡崎 VS 県立浦和



予選2 柏陽 VS 山口

レクチャーでは、早稲田大学国際教養学部准教授の石川先生によるゲーム理論を用いたディベートの考察がなされました。新しいディベートの見方に生徒たちも熱心にメモを取りました。

予選 3 の論題は「共通テストの英語民間試験導入の見送りは、害よりも利益をもたらした。」です。ちょうど、民間試験導入の見送りに深く関係する生徒たちが多かったため、自分たちの周りの状況を詳細に描写することで説得力を持たせていました。



早稲田大学准教授 石川先生



予選 3 鹿児島中央 VS 山形東

予選 4 の論題は「ツイッターなどのソーシャルメディア(SNS)は社会の分断を助長するだけである。」です。匿名性や多くの人にすぐに広がるという SNS の特性によって社会の分断が起こる説明が肯定側からなされ、一方で否定側は SNS で社会の分断以外にも、遠隔地でも世界中の人とつながれまた好きなものや共通の目的のもとに団結できる、これは社会の分断に反するものであると主張しました。第 4 ラウンドは試合後のジャッジからの勝敗の発表はありません。翌日の決勝トーナメント進出校の発表まで、緊張はつづきそうです。(翌日、各校へジャッジからのコメントシートが配布されます)



岡崎 VS 宇部



最後まで真剣です

第 4 ラウンドが終わると外はすっかり暗くなり、熱中していた時間の長さに驚かされました。生徒たちも明日の発表への不安もありつつ、4 試合全力で成し遂げた達成感を感じさせるいい顔を見せ、一日目が終了しました。

翌日の注意事項などの後、e-learning (ディベートのルールなどに関する事前学習) を受けた参加者の中から抽選でクリスマスプレゼントが渡されました。また、参加者が会場を出る直前にサンタが登場！4 ラウンド頑張った生徒・教員・ジャッジ・見学者の皆さんへささやかなプレゼントが手渡されました。Merry Christmas! See you next day!

2日目

決勝トーナメントに進むチームの発表（Break Announcement）です。緊張した面持ちの生徒が続々と集まってきます。まずは、ジャッジブレイクの発表です。教員や社会人、大学生によるジャッジは、勝敗を決め、ディベーターである生徒にその理由と個人コメントを、教育的配慮をしつつ論理的に述べます。ジャッジのコメントに対して、どの程度生徒が納得できたか、またどの程度次への学習意欲を高めることができたかという観点で、生徒はジャッジを評価します。平均点が高かった21名の先生方が発表されました。おめでとうございます。次に、準々決勝に出場するチーム1位から8位までが発表されました。喜びの音が響き渡りました。

予選結果

- 予選1位 渋谷教育学園渋谷中学高等学校
- 予選2位 埼玉県立浦和高等学校
- 予選3位 大阪府立北野高等学校
- 予選4位 筑波大学附属駒場中・高等学校
- 予選5位 浅野高等学校
- 予選6位 聖光学院中学校高等学校
- 予選7位 さいたま市立浦和高等学校
- 予選8位 栄光学園中学高等学校

準々決勝の論題は「災害の予報は単一の情報ソースから周知されるべきである。」です。出場者が準備をしている間、ウォール・ストリート・ジャーナル 日本版編集長の西山誠慈氏 から前日の第4試合に関するレクチャー（SNSが社会の分断を引き起こす大きな原因になると同時に利益ももたらす）がありました。



万歳で喜ぶ生徒たち



西山 誠慈氏による予選4ラウンド目のテーマについてレクチャー

準々決勝は 4 つの会場で行われました。近年、災害が多くなっている世の中でその情報源が一つになるとどのような利益や負担があるか、情報の正確性や個人が自分にとって必要な情報を得る重要性について言及しました。



緊迫した準々決勝の様子

準々決勝終了後は、お昼休みです。午後からのキーノートレクチャー、準決勝・決勝に向けて頭も身体も休める生徒や、準々決勝の論題について友達と議論している生徒がいたりそれぞれの方法で束の間の休息を過ごしました。他校の生徒と論題について交流を深めている様子も見られました。

昼食後、準決勝進出チームが発表されました。準決勝の論題は「日本は米軍の駐留費を全額負担すべきである。」です。15分の準備時間の間、東京大学生産技術研究所 教授 芳村圭氏による準々決勝の論題に関するレクチャーがありました。東北大震災などの実際の具体例を交えながらの説明で、生徒たちも真剣に聴講していました。



芳村 圭 氏によるキーノートスピーチ



白熱する準決勝

PDA では、ディベートの強いチーム作りをした学校だけではなく、一般生徒向けに、学校全体で即興型英語ディベートの授業導入された学校を称えます。授業導入賞は、提出された書類やカリキュラムから選ばれました。

<授業導入優秀賞>

- ・福岡県立城南高等学校
- ・神奈川県立柏陽高等学校

<授業導入賞>

- ・岩手県立盛岡第一高等学校
- ・秋田県立角館高等学校
- ・栃木県立宇都宮高等学校
- ・栃木県立宇都宮東高等学校
- ・埼玉県立浦和高等学校
- ・東京都立日比谷高等学校
- ・東京都立両国高等学校
- ・筑波大学附属駒場高等学校
- ・神奈川県立相模原高等学校
- ・神奈川県立多摩高等学校
- ・聖光学院高等学校
- ・長野県長野高等学校
- ・長野県松本県ヶ丘高等学校
- ・滋賀県立彦根東高等学校
- ・京都府立嵯峨野高等学校
- ・大阪府立北野高等学校
- ・神戸大学附属中等教育学校
- ・鳥取県立倉吉東高等学校
- ・山口県立山口高等学校
- ・徳島県立城ノ内高等学校
- ・熊本県立八代高等学校
- ・熊本県立第一高等学校
- ・鹿児島県立大島高等学校

<その他個人賞> (多数、個人名は略)

- ・ジャッジ賞、ベストディベーター賞、POI 賞

以上の結果を受け、第5回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会への出場権は、以下の5校に進呈されました。

<1位~3位> 渋谷教育学園渋谷高校、さいたま市立浦和高等学校、浅野高校

<授業導入優秀賞> 福岡県立城南高校、神奈川県立柏陽高校



優勝：渋谷教育学園渋谷中学高等学校



準優勝：さいたま市立浦和高等学校



3位：浅野高等学校



4位：聖光学院高等学校



ベストディベータ賞



ベストPOI賞

アンケートの声（抜粋）

【生徒の声】

- ・難しい論題もなかにはあったが、近年の社会背景なども考えた上で本質的なことを議論させようとしているのが伝わった。（両国）
- ・試合の実践はもちろん、観戦からも沢山のことを学ぶことが出来ました。（竹園）
- ・自分のスピーチの実力を試すことができ、ジャッジによってはとても分かりやすく改善点を教えてくださったため、技術の向上にもつながったから。（日比谷）
- ・日本語でさえできないようなハイレベルのディベートが見られて大変貴重な体験でした。（千葉）
- ・論理的な思考能力が身についた、さまざまな社会問題について異なる視点で考えることができるようになった。（北野）
- ・他校のディベートを見ることができ、刺激を受けられた。的確なフィードバックだったため、自分の弱点を理解できた。（湘南白百合）
- ・ぎゅっと身の詰まった大会をありがとうございます！これからも頑張ろうと思いました。（宇都宮東）
- ・今回 2 回目の参加となりますが、何より自分自身が成長してることを実感できた。しかし、他校のスピーチとかレビューしたときに、まだまだ爪の甘さや分析不足が目立つので改善していきたい。（奈良）
- ・全国大会はあまり経験がなかったので、このような素晴らしい大会に選手として参加できたことを誇りに思います。楽しくディベートができました。ありがとうございました。（佐野）
- ・英語についての学習意欲がさらに湧き、これからも英語ディベートの学習を深めていきたいと思うような大会でした。非常に良い経験ができました。（城南）
- ・初めての即興ディベートの大会だったので、難しかったです。得ることが多く楽しめました。（真和）
- ・ディベート以外でも生活に応用出来そうなことが分かり素晴らしい時間が過ごせた。（宇都宮）
- ・専門ジャッジの的確なアドバイスをきくことができとてもよかった。これから参考にしていきたい。（松本深志）
- ・最初は緊張していましたが、スタッフの方々の暖かい対応やディベートをすることの楽しさにより、すぐに本大会に慣れました！夏の PDA 大阪合宿よりも自分たち、また周りの成長も感じたので、また機会があれば更に成長した姿をお見せしたいです。ありがとうございました。（佐野）
- ・全体を通して、様々な意見や知識を得る事ができました。そしてさらにまだ自分が知らない事や改善できる部分がたくさんある事をすごく感じたのでもっと日頃から意欲的に行

動していきたいと思いました。今回の大会は自分にとって良い機会だと思ったので今後活かしていきたいと思います。(鳥羽)

- ・日本のあらゆるところの人と友達になれてよかったです。(清真)
- ・今回、この大会に参加させて頂けて、貴重な経験が得られたと思います。特に、他地方の高校との交流及び試合は大変有意義でした。来年も自身が参加することは叶いませんが、後輩たちに思いを託したいと思います。(嵯峨野)
- ・全然考えてもみなかったので、ニュースを通して自分の意見をノートにまとめたい。(雲雀丘)
- ・キーノートレクチャーがすごく面白かった。貴重なお話を聞く機会になるので今後も続けて欲しいと思う。(柏陽)

【教員の声】

- ・勝ち負けで終わらないように教育的な配慮がされており素晴らしかったです。
- ・POI ルールの変更や早口減点ルールなど変えることを恐れることなく、教育ディベートに軸足を置いた取り組みであることにぶれずに大会を運営されていることは素晴らしいと思います。
- ・この大会が目標です。今後ともよろしく願いいたします。
- ・対戦相手に恵まれ、また素晴らしい高校生ディベーターと交流でき、生徒はかなり刺激をいただいたようです。今回の他校の様子を拝見し、授業をどのように改善すべきかのヒントを得ることができました。また、私のディベート力の向上の必要性を痛感することができ、生徒にとっても私にとっても、また学校にとっても素晴らしく貴重な二日間でした。
- ・全国の高校生と先生方との交流ができて素晴らしい機会です。いつもありがとうございます。
- ・教員の指導法の共有になった。
- ・即興で意見をまとめ、相手の意見も理解して反論することで英語力、論理的思考力が飛躍的に向上する機会になった。
- ・運営のスムーズさ、レベルの高さ、スタッフの方々の適切な指示、充実させたレクチャー
- ・最高峰の大会を最高峰の大学で

以上

文部科学省後援 第5回 PDA高校生即興型英語ディベート全国大会

予選順位

Place	Name	Win	Sum	Place	Name	Win	Sum
1st	渋渋	4	192	33th	松本深志	2	140
2nd	県立浦和	4	165	34th	富山国際	2	140
3rd	北野	4	161	35th	大教大	2	139
4th	筑駒	4	156	36th	山形東	2	139
5th	浅野	3	176	37th	浦和一女	2	139
6th	聖光	3	170	38th	湘南白百合	2	138
7th	市立浦和	3	169	39th	豊中	2	136
8th	栄光	3	169	40th	嵯峨野	2	135
9th	岐阜	3	164	41th	鳥羽	2	133
10th	豊島岡	3	162	42th	富士見	2	132
11th	日比谷	3	161	43th	翔凜	2	130
12th	柏陽	3	156	44th	八戸ウルスラ	2	117
13th	洗足	3	153	45th	佐野	1	155
14th	宇都宮	3	151	46th	湘南	1	150
15th	四日市	3	150	47th	両国	1	145
16th	相模原	3	149	48th	鹿児島中央	1	145
17th	札幌南	3	148	49th	倉吉東	1	141
18th	竹園	3	148	50th	翠嵐	1	141
19th	高松	3	141	51th	岡山大安寺	1	140
20th	宇都宮東	3	127	52th	立命館守山	1	139
21th	藤島	2	163	53th	城南	1	138
22th	岡崎	2	157	54th	大島	1	136
23th	長野	2	156	55th	熊本第一	1	136
24th	八代	2	154	56th	山口	1	133
25th	神大中	2	148	57th	彦根東	1	130
26th	青森	2	146	58th	角館	1	129
27th	奈良	2	145	59th	千葉	1	127
28th	前橋	2	144	60th	宇部	1	123
29th	盛岡第一	2	143	61th	城ノ内	0	143
30th	県ヶ丘	2	142	62th	一関第一	0	139
31th	小石川	2	141	63th	雲雀丘	0	121
32th	清真	2	141	64th	真和	0	117

文部科学省後援 第5回 PDA高校生即興型英語ディベート全国大会 対戦表

R1

番号	Gov	Opp
1	岐阜	湘南
2	宇都宮東	富山国際
3	大教大	長野
4	角館	彦根東
5	八代	湘南白百合
6	嵯峨野	聖光
7	八戸ウルスラ	大島
8	浦和一女	奈良
9	山形東	松本深志
10	富士見	千葉
11	城之内	栄光
12	前橋	岡崎
13	城南	相模原
14	清真	洗足
15	豊中	柏陽
16	県立浦和	宇部
17	浅野	倉吉東
18	小石川	熊本第一
19	佐野	雲雀丘
20	神大中	豊島岡
21	鹿児島中央	渋渋
22	宇都宮	鳥羽
23	日比谷	札幌南
24	一関第一	県ヶ丘
25	藤島	両国
26	北野	翠嵐
27	竹園	立命館守山
28	翔凛	岡山大安寺
29	四日市	青森
30	高松	筑駒
31	市立浦和	真和
32	山口	盛岡第一

R2

番号	Gov	Opp
1	富士見	宇都宮
2	日比谷	市立浦和
3	県ヶ丘	山形東
4	相模原	藤島
5	北野	浦和一女
6	八代	佐野
7	小石川	翔凛
8	岡崎	県立浦和
9	盛岡第一	筑駒
10	八戸ウルスラ	神大中
11	長野	豊中
12	聖光	浅野
13	富山国際	四日市
14	渋渋	洗足
15	彦根東	栄光
16	岐阜	竹園
17	豊島岡	大島
18	奈良	角館
19	倉吉東	立命館守山
20	札幌南	千葉
21	翠嵐	清真
22	宇部	松本深志
23	岡山大安寺	城之内
24	柏陽	山口
25	熊本第一	前橋
26	雲雀丘	両国
27	真和	鹿児島中央
28	嵯峨野	城南
29	青森	湘南白百合
30	宇都宮東	一関第一
31	湘南	高松
32	鳥羽	大教大

R3

番号	Gov	Opp
1	八代	北野
2	市立浦和	小石川
3	栄光	宇都宮
4	藤島	岐阜
5	聖光	四日市
6	渋渋	長野
7	筑駒	県ヶ丘
8	県立浦和	神大中
9	岡崎	日比谷
10	鹿児島中央	山形東
11	両国	柏陽
12	青森	岡山大安寺
13	立命館守山	豊島岡
14	彦根東	相模原
15	富山国際	札幌南
16	高松	富士見
17	竹園	盛岡第一
18	清真	嵯峨野
19	洗足	翔凛
20	奈良	宇都宮東
21	浅野	浦和一女
22	豊中	八戸ウルスラ
23	松本深志	佐野
24	鳥羽	前橋
25	湘南白百合	真和
26	倉吉東	城南
27	大教大	雲雀丘
28	城之内	山口
29	宇部	一関第一
30	角館	熊本第一
31	大島	翠嵐
32	千葉	湘南

R4

番号	Gov	Opp
1	筑駒	市立浦和
2	栄光	渋渋
3	聖光	北野
4	岐阜	県立浦和
5	四日市	鳥羽
6	宇都宮	小石川
7	札幌南	清真
8	柏陽	青森
9	神大中	宇都宮東
10	県ヶ丘	日比谷
11	長野	竹園
12	洗足	豊中
13	豊島岡	八代
14	藤島	高松
15	松本深志	相模原
16	山形東	浅野
17	山口	盛岡第一
18	彦根東	大教大
19	熊本第一	富山国際
20	鹿児島中央	八戸ウルスラ
21	大島	富士見
22	立命館守山	翔凛
23	岡山大安寺	嵯峨野
24	湘南	前橋
25	佐野	浦和一女
26	岡崎	宇部
27	両国	湘南白百合
28	城南	奈良
29	真和	角館
30	一関第一	翠嵐
31	雲雀丘	倉吉東
32	千葉	城之内



2.43-1 第5回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会(5周年記念事業)全国高等学校校長 情報交換会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2019年12月21日(土) 19:00-21:00

会場：東京大学工学部2号館 松本楼 列品館

ご来賓：全国高等学校校長会 顧問(東京都立八王子東高等学校 校長) 宮本 久也様

株式会社 INCJ 代表取締役会長(元日産自動車取締役、中教審委員) 志賀 俊之様

文部科学省 初等中等教育局 情報教育・外国語教育課 外国語教育推進室長 小野 賢志様

公益財団法人 KDDI 財団 助成・企画管理部長 福間 洋介様

第29代東京大学総長 濱田 純一様

東京大学生産技術研究所 所長 岸 利治様

東京大学生産技術研究所 教授 中野 公彦様

参加者：八戸聖ウルスラ学院中学・高等学校	校長 里村 智彦様
神奈川県立柏陽高等学校	校長 井坂 秀一様
神奈川県立湘南高等学校	校長 稲垣 一郎様
神奈川県立横浜平沼高等学校	校長 鐘 英治様
神奈川県立横浜翠嵐高等学校	校長 篠塚 弘康様
山手学院高等学校	校長 時乗 洋昭様
洗足学園中学高等学校	校長 宮阪 元子様
渋谷教育学園渋谷中学高等学校	副校長 高際 伊都子様
武蔵高等学校中学校	校長 杉山 剛士様
富士見中学高等学校	校長 佐藤 真樹様
群馬県太田市立太田高等学校	校長 竹内 敏彦様
岐阜県立岐阜高等学校	校長 折戸 敏仁様
静岡県立静岡高等学校	校長 志村 剛和様
三重県立四日市高等学校	校長 松岡 泰之様
大阪府立北野高等学校	校長 萩原 英治様
大阪府立豊中高等学校	校長 平野 裕一様
熊本県立第二高等学校	校長 山本 朝昭様 (遠隔)
全国普通科高等学校長会 事務局	笹 のぶえ様
公益財団法人 KDDI 財団	吉田 真奈美様
早稲田大学国際教養学部 准教授	石川 竜一郎様

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(PDA) 顧問 鈴木 茂男

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(PDA) 代表理事 中川 智皓

同上 ディベート推進委員長 大賀 隆次

同上 ディベート推進委員 佐々木 優子

同上 ディベート推進委員 中塚 加奈

消費者庁総務課 伊藤 久仁良

スタッフ：PDA スタッフ

主催：一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

今年度、文部科学省後援 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会にて、校長情報交換会も併設して開催いたしました。まずはじめに、ご来賓の全国高等学校校長会 宮本 久也様よりごあいさつをいただきました。また、株式会社 INCJ 代表取締役会長 志賀 俊之様、文部科学省 初等

中等教育局 小野 賢志様、第29代東京大学総長 濱田 純一様、東京大学生産技術研究所 所長 岸 利治様より即興型英語ディベートをはじめとするメッセージをいただきました。東北、首都圏、東海、関西、九州から校長先生方にお集まりいただきました、さまざまな活動がある中で、一全国大会に多地域より校長先生方がお集まりになられることは、異例であり、本活動(即興型英語ディベート)が、単なる課外活動ではなく、次期学習指導要領に沿った公教育に導入できる重要な取り組みであるということが分かります。そのような意見交換会を通して、ムーブメントを起し、学校の先生方の理解・巻き込みの後方支援をいただければと考えております。

即興型英語ディベートの取り組み事例をシェアしていくことをはじめ、今後、公教育に即興型英語ディベートを導入していくための意見交換を行うことができました。





2.44 文部科学省・外務省後援

第5回 PDA 高校生パーラメンタリーディベート

世界交流大会 2020 報告書

一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：

2020年1月17日（金）、18日（土）、19日（日）

会場：

ホテル日航関西空港 関西空港会議場

〒549-0001 大阪府泉佐野市泉州空港北1番地

TEL: (81) 72-455-1111

主催：	一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)
共催：	JST 未来社会創造事業「持続可能な社会の実現」領域「知」の循環と拡張を加速する対話空間のメカニズムデザイン」プロジェクト
助成：	公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団
後援：	文部科学省、外務省、朝日新聞社、朝日中高生新聞、一般社団法人日本英語交流連盟、大阪府立大学

参加校とディベートチーム：14 チーム（日本 5 チーム、海外 9 チーム）

日本 渋谷教育学園渋谷高等学校

日本 さいたま市立浦和高等学校

日本 浅野高等学校

日本 神奈川県立柏陽高等学校

日本 福岡県立城南高等学校

韓国 Busanjangnan High School

フィリピン Timber City Academy

カンボジア 2

マレーシア 2

南アフリカ、ルーマニア (Swing 1)

トルコ、アルゼンチン (Swing 2)

アメリカ、ドイツ (Swing 3)

南アフリカ 2 (欠場)

フィリピン 1 (欠場)



大会趣旨

昨今、グローバル化の加速により、多様な文化や考え方を理解し、グローバル社会で貢献できる人財の育成が求められています。本大会では、パラメンタリーディベートを通して、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、コミュニケーション力など複数の力を発揮し、様々な国の人と同じ土俵で議論し、成長する機会を提供します。キーノートスピーチなど最新の講演も織り交ぜ、グローバルに活躍できる人財育成とすることを目的とします。ディベートという手法を通して効果的な国際交流を図るプログラムであります。また、スケジュールも国際会議、国際学会に似たものとし、高校生にとって、将来的にこのような世界の舞台に参加するイメージや各々の目標を持ってもらえれば幸甚です。なお、本大会では、文部科学省助成調査研究の結果を踏まえ、通常の授業でできる即興型英語ディベートのフォーマットを用います。そうすることにより、クラブの生徒に加え、一般の生徒も参加しやすい形態となっています。

論題（論題は、毎回ディベート開始 15 分前にはじめて発表されます）

予選 1 : Parental leave should be made mandatory for both parents.

両親の育児休暇取得を義務付けるべきである。

予選 2 : A maximum number of terms for parliament members should be established.

国会議員は当選回数を制限されるべきである。

予選 3 : In primary and secondary school years, students should be grouped by competency and intelligence instead of age.

小中高校において、生徒は年齢ではなく学力で分けられるべきである。

準々決勝 : The Olympic Games should be abolished.

オリンピックを廃止するべきである。

準決勝 : The United States should remove all sanctions against Iran.

アメリカ合衆国は、イランに対する制裁を全て解除すべきである。

決勝 : Government should obligate companies to allow their employees to telework.

政府は従業員がテレワークすることを認めるよう企業に義務づけるべきである。

キーノートスピーチ講師

公益財団法人 KDDI 財団 理事長 工学博士
鈴木正敏（すずき まさとし）氏



1日目（開会式、Mix Debates、カルチャーナイト）

海外10ヶ国から9チーム、日本からは5校が参加しました。第5回PDA高校生パーラメンタリーディベート世界交流大会がいよいよ始まり、開会式ではPDA代表理事の中川智皓から挨拶と各国のチーム紹介、チーフジャッジの綾部からルールの確認がありました。



1日目は Mix Debate です。各国からランダムに選ばれたグループ内で、初対面となるチームメイトと協力してディベートを行います。論題は「School uniforms should be abolished. 制服を廃止すべきである。」と「Child fashion models should be banned. 子どものファッションモデルを禁止すべきである。」の2つでした。普段一緒にディベートをしている友人とは離れ、初めて出会う異なるバックグラウンドを持つ人とのディベートは刺激的なものとなったようです。制服についての考えや、子どもが働くこと、親による子どもの選択に対する介入についての考え方は国によって異なり、準備時間やディベートを通して相互理解の進んだ時間となりました。





カルチャーナイト（文化紹介交流）では、各々が各国の伝統衣装を身にまといました。また、文化パフォーマンスが行われ、民族伝統ダンスや、国歌、食の魅力や、美しい景色、文化などをお互いに知る機会となりました。





文部科学省・外務省後援
第5回 PDA高校生バーナメンタリーディベート世界交流大会
 日程: 2020年1月17日(土)~19日(日) 会場: 水戸市健康文化センター 新設交流ホール
 主催: 一般社団法人バーナメンタリーディベート世界交流大会(PDA)
 協賛: 文部科学省、外務省、独立行政法人日本学生支援機構、一般社団法人日本国際交流協会、大崎国立大学
 協賛: 文部科学省、外務省、独立行政法人日本学生支援機構、一般社団法人日本国際交流協会、大崎国立大学

2日目（予選、レクリエーション、準々決勝、バンケット）

2日目、いよいよ予選が始まりました。初対面のチームメイトと楽しくディベートを行った1日目とは異なり、緊張感の漂う中、予選が開始されました。ディベート中は、POI (Point of Information) が活発に交わされ、白熱した議論が繰り広げられました。ディベートが終わりジャッジの先生からのフィードバックに移ると、次のラウンドに活かそうと真剣にアドバイスを聞く姿が見られました。



予選後はレクリエーションの時間です。参加者はプレゼントを持参し、ミニゲームを通してプレゼント交換を行いました。ディベートでのコミュニケーションとは異なり、日常生活などについて話しました。プレゼント開封の瞬間は特に盛り上がりを見せました。



休憩をはさみ、緊張のブレイクアナウンスメント（予選の結果発表）が行われ（結果は下記に示した通りです）、準々決勝が行われました。続いて、夜にはバンケットが行われ、昨日と同様に出身地紹介が行われました。国に関係無く会話や食事を楽しみ、バンケット後にも仲良く写真を撮る姿が見られました。





予選結果

- 1位 マレーシア 1
- 2位 フィリピン
- 3位 カンボジア 1
- 4位 マレーシア 2
- 5位 浅野高校
- 6位 渋谷教育学園渋谷高校
- 7位 神奈川県立柏陽高校
- 8位 カンボジア 2

3日目（準決勝、決勝、キーノートスピーチ、閉会式）

3日目は準決勝からです。前日の準々決勝を勝ち抜いたチームが熱い議論を繰り広げました。準決勝に進出できなかったチームも、メモを取りながら準決勝を見学し、試合後に意見交換をする様子も見られました。



決勝の前に、キーノートスピーカー、鈴木 正敏氏（公益財団法人 KDDI 財団 理事長 工学博士）のご登壇があり、通信の技術発展、未来の方向性についてお話いただきました。普段の授業ではなかなか知ることのできない最新の情報に参加者は真剣に聞き入っていました。



キーノートスピーチの後はいよいよ決勝（フィリピン 対 マレーシア 1）です。ジャッジにキーノートスピーカーの鈴木氏を迎えての審査となりました。張り詰めた緊張感の中、3日間一緒にディベートを行い、勝ち上がったチームのスピーチを真剣な眼差しで見つめていました。そして優勝者はマレーシア 1 でした。



閉会式では表彰式と PDA 代表理事中川から「今後、遠くに離れていてもディベートができる環境が整う未来が来ると思います。これからもぜひ英語でのコミュニケーションを取り続けてください。」と総括がありました。



会場となったホテル日航関西空港も、世界交流大会にふさわしい素晴らしい環境を提供してくださいました。大盛況のうちに世界交流大会は幕を閉じました。大会に参加された世界の高校生、引率の先生、キーノートスピーカーの皆様、この世界交流大会を助成、後援、応援くださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。



第5回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会結果

チーム賞

優勝： マレーシア 1

準優勝： フィリピン

準決勝出場チーム： 浅野高校、渋谷教育学園渋谷高等学校

準々決勝出場チーム： カンボジア 1、カンボジア 2、神奈川県立柏陽高等学校、マレーシア 2

個人賞

ベストスピーカー賞

第1位 _____ (Malaysia 1)

第2位 _____ (Cambodia 1)

第3位 _____ (Malaysia 1)

第4位 _____ (Asano)

第4位 _____ (Shibushibu)

第4位 _____ (Philippines)

第7位 _____ (Malaysia 2)

第8位 _____ (Philippines)

第8位 _____ (Cambodia 1)

第8位 _____ (Cambodia 1)

POI 賞

第1位 _____ (Asano)

第2位 _____ (Germany)

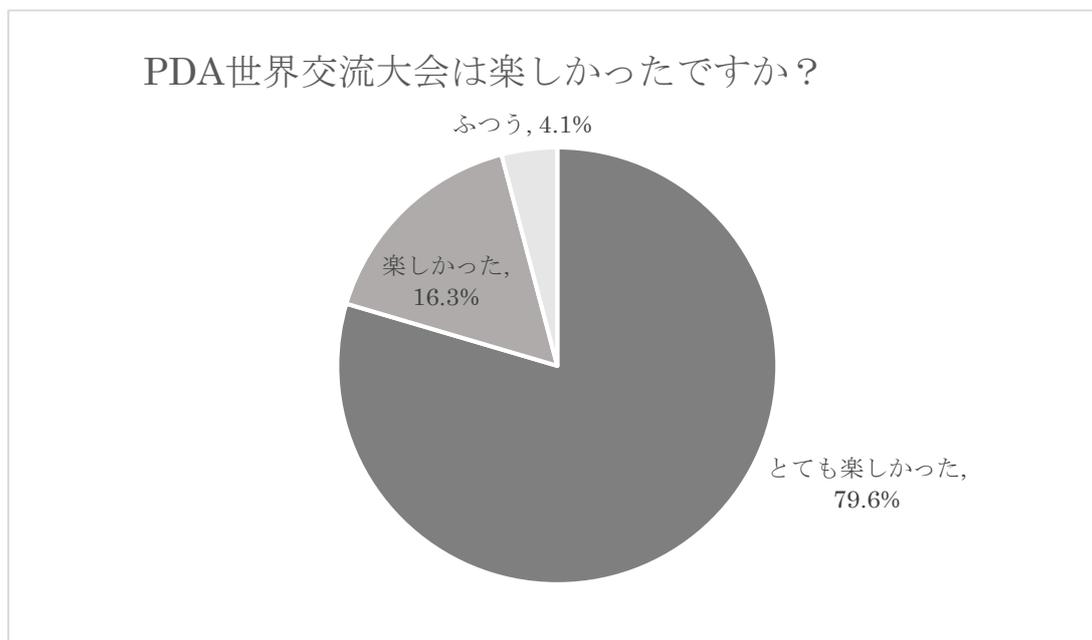
第2位 _____ (Turkey)

文化賞

フィリピン

カンボジア

第5回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会 アンケート結果と感想



アンケート結果

世界交流大会の感想（抜粋）

（生徒）

- 特に外国人の価値観やスタイルが違っていたので、本当に楽しかったです。日本ではこれを体験できないので、この大会に参加できてとてもうれしいです。（日本）
- このような素晴らしい競争に参加できたとは信じられません。素晴らしい機会を与えてくれてありがとうございます。（日本）
- とても良い大会でした。もう一度この大会に参加できることを願っています。（韓国）
- とても楽しかった！大学生になってからもまた参加したいです！（フィリピン）
- 世界中のディベーター達に必ず体験してほしいイベントです。（フィリピン）
- 最高のトーナメントでした。いつもとは違うディベートスタイルを経験できただけでなく、様々な国の文化を知るいい機会になりました。（マレーシア）
- PDAWCのステージにカンボジア代表として参加でき、光栄です。まだ経験の浅い私たちにとってこの交流会の環境はとても親しみやすく、素晴らしい経験になりました。（カンボジア） 本当に楽しかったし、ディベートについてもっと学ぶことができました。（カンボジア）
- いいトーナメントでした。（トルコ）

- 私はディベートについて多くのことを楽しむことができました。皆さんのおもてなしにみんなに感謝します！（ドイツ）
- 最初は、これを大きな大会だとは思っていませんでしたし、激しい大会になるとは信じていませんでした。しかし、最初のディベートの後、私はこれがどれほどすごいのかを知り、緊張しましたが、2日目までにはそれに慣れることができ、チームメイトを少しでも助けることができましたと思います。（US）
- 新しい人との交流が楽しかった！（ルーマニア）
- それは信じられないほどの経験であり、世界についてのディベートスキルと知識を向上させることができました。（南アフリカ）

（教員）

- 来年もまた参加したいです。（日本）
- 来年も PDAWC に参加したいと思います。来年を楽しみにしています。（日本）
- とてもいい大会でした。（日本）
- 生徒たちと再びここに来ることは、2年間の私の最大の夢の1つです。私の夢を実現させてくれてありがとうございます。（日本）
- 歴代最高でした。（日本）
- この大会には本当に感銘を受けました。（フィリピン）
- 楽しかったです。（カンボジア）
- いい大会でしたが、もっとラウンドがあればもっと良かったと思いました。（カンボジア）
- すばらしい大会でした。（マレーシア）



2.45 岡山朝日高等学校即興型英語ディベート体験会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

日時：2020年2月1日（土）13：30～16：00

場所：岡山県立岡山朝日高等学校

参加者：生徒20名、教員5名

スタッフ：PDAスタッフ、九州大学、PDA認定教育ジャッジ

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

3月に予定されているイギリス研修に参加する選抜生、ならびに先生方からの自由参加の声かけに応えた、1年生16名他の計20名が参加しました。会に先だち、校長の竹田義宣先生より「即興型英語ディベートは今日が初めて、という人がほとんどで、ドキドキしていると思います。今日は、物理の平松先生も一緒に体験会に参加してくれます。共に楽しく学びましょう」と、生徒たちの緊張をほぐすエールをいただきました。平松先生は、3月のイギリス研修に同行予定で、普段の授業でも、英語で物理の説明をされることがあるそうです。

即興型英語ディベートのルール説明が始まり、論題発表後15分間でスピーチ準備をすることを知ると、そんな短時間で準備できるかな、と思わず顔を見合わせる準備型英語ディベート経験者の姿もありました。生徒も先生方も、1つ1つうなずきながらルールを確認し、熱心にメモをとる姿が印象的でした。

第一ラウンドの論題が発表され、いよいよ実践スタートです。同じチームには、今回初めて話す相手もいたようですが、限られた時間の中でチームメイトと意思疎通をしようとする生徒ばかりでした。緊張の中でも堂々としたスピーチで、最後まで自分の役割を話し切ることが皆できていました。ラウンド後は、自分へのジャッジコメントだけでなく、相手チームやチームメイトへのアドバイスにも聞き入り、積極的にメモを取る自学の姿がみられました。第二ラウンドでは、チームメイトとも打ち解けた様子で、活発にコミュニケーションをとり、自分たちのポイントや理由、具体例を集中してまとめ上げていました。

また、この15分間の準備時間を用いて、実際の英語授業に「即興型英語ディベート」をどのように取り入れたら、より効果的であるか、について先生方も活発に意見交換をされていました。

参加者の声（アンケートより抜粋）

- 同じチームになった人は、今まで話をしたことがない人だった。しかし、ディベートを通して、新しく友達ができ嬉しかった。同じ論題について一緒に考えを深めることは、心を繋ぐことができるよい機会でもあった。
- 第一ラウンドでは全く説得力のあるスピーチができなかったが、そこでもらったアドバイスを生かして、第二ラウンドでは比較も入れて、より論理的に話せた。自分を成長させることができたと感じ、とても楽しめた。
- 英語でのディベートは瞬発力と論理的思考力が特に必要で、とても疲れたけど達成感もあり楽しかった。
- とても難しかったが、貴重な経験になった。これからも英語で発信する練習をしたい。
- 一回目は思ったようにできなくて悔しかった。またこういう体験があれば参加したい。
- 自分の意見を自由に英語で言う機会が持てて楽しめた。受け身になることもなく、主体的に活動に参加でき、緊張したけど楽しめたので本当に参加して良かった。
- 想像力や論理的な構成が鍛えられたと思う。また、説得力のある話し方のポイントが分かって、今後使っていきたいと思った。
- コミュニケーション力、ディスカッション力、プレゼン力、協力する力、思考力、様々な能力を育てられるので、今後も活用したい。
- 初めてだったけれど、とても楽しめた。英語力不足を痛感したり、ディベートにはコミュニケーション能力がとても重要なことも実感できた。
- 授業でスピーチはしたことがあったが、反論をしたり、された反論にまた返したり、というものが、日本語でも難しいのにそれを英語で、3分間で、というのが難しかった。だが、やりがいを感じた。



2.46 令和元年度PDA東京都公立中高一貫校中学校即興型英語ディベート交流大会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2020年2月11日（火）13:30-17:00

会場：都立富士高等学校附属中学校

参加校：10校（白鷗、小石川、九段、両国、富士、三鷹、大泉、立川国際、多摩、武蔵）

参加者：生徒53名、教員25名

スタッフ：PDAスタッフ、東京大学、名古屋大学、一橋大学、立教大学、九州大学卒業生、
大阪府立大学

主催：一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

開会式では、都立富士高等学校附属中学校の野村公郎総括校長より、「重要なことはテーマについてその本質を捉えることです。それを明確にわかりやすく英語で伝えてください。交流大会ですので、いろいろな生徒と交流して楽しんでください。」と応援のメッセージが送られました。次に、PDA 推進委員長である大賀より、参加校の紹介、ルールの復習、POI（質疑応答）の確認などが行われました。



野村公郎総括校長よりご挨拶



POI の練習

第1ラウンドに入る前に他校の生徒とランダムでチームを組むミックスディベートが行われました。ミックスディベートのお題は「*Term-exam should be abolished.*（定期テストは廃止すべきである。）」でした。開会式で、「緊張している人いますか？」と挙手を募るととても多くの手があり、ミックスディベート準備時間中もやや緊張した様子でしたが、ディベートが始まると、積極的にPOIをする様子が見られ、ディベートが終わるとお互いに握手を交わし、部活動の話や普段の英語学習の話、ミックスディベートの話などで盛り上がりました。



他校の生徒と一緒にディベートの準備をします



POI で質問をしています

ミックスディベートが終わるといよいよ第1ラウンドの始まりです。第1ラウンドのお題は、「*Bringing snacks and soft drink to junior high school should be allowed.* (中学校へのお菓子・ジュースの持参を認めるべきである。)」でした。肯定側は、お菓子の交換が友達を作るのに役立つ、リフレッシュできるなどのポイントを説明し、否定側は、健康面の話や、授業に集中できるかどうかなどについて議論しました。ディベートが終わると、ジャッジのコメントを真剣に聞く様子が見られました。



積極的に POI !



ジェスチャーをしながらスピーチ

第1ラウンドが終わるとすぐさま第2ラウンドが始まりました。第2ラウンドのお題は、「*Compulsory education at junior high schools should be abolished.* (中学校の義務教育をなくすべきだ。)」でした。肯定側は、貧困層が学校に通うにあたり必要経費を賄えない環境や、自分のしたい勉強をする環境について、否定側は、社会で生きていくための必要最低限のスキルを身につけることが必要であることについて議論しました。最後のラウンドということもあり、第1ラウンドよりも活発に POI をする様子が見られました。



POI で質問をします



ジャッジのコメントにも真剣

【表彰】

〈エキシビションディベータ賞〉

※エキシビションディベータは実施されませんでした。ジャッジがエキシビションディベータに推薦した生徒を表彰しました。

- (両国 B)
- (小石川 A)
- (立川国際 A)
- (九段 A)
- (武蔵 B)
- (富士 B)

〈チーム賞〉

- 1 位 都立富士高等学校附属中学校 B
- 2 位 都立武蔵高等学校附属中学校 A
- 3 位 都立大泉高等学校附属中学校 A
- 4 位 都立富士高等学校附属中学校 A
- 5 位 都立両国高等学校附属中学校 B



1 位 富士 B



2 位 武蔵 A



3位 大泉 A



4位 富士 A



5位 両国 B

〈ベストディベータ賞〉

- (南多摩 A)、 —— (小石川 A)、 —— (武蔵 A)、 —— (大泉 B)、
- (武蔵 B)、 —— (両国 A)、 —— (富士 A)、 —— (富士 B)
- (立川国際 A)、 —— (白鷗 B)、 —— (大泉 A)、
- (大泉 A)、 —— (富士 A)、 —— (両国 B)



〈POI 賞〉

- (小石川 A)
- (白鷗 B)
- (両国 B)
- (武蔵 B)
- (九段 A)
- (両国 A)
- (両国 A)
- (富士 A)
- (南多摩 B)
- (武蔵 B)
- (大泉 B)
- (南多摩 A)、 —— (大泉 A)、
- (大泉 A)、 —— (九段 A)



参加者の声（アンケートより抜粋）

【生徒】

- ・ジャッジの人の意見を沢山聞けて良かったです。（九段）
- ・すごく楽しかった。論理的に考えるのが面白かった。ただかなり緊張した。（両国）
- ・自分よりももっと意見を、言っている人がいたり、英語がしゃべれる人がいたり、とても刺激になった大会でした。自分の英語力はまだまだだと思うので、これからも勉強に精進していきたいです。（両国）
- ・様々な人と話をできたから。授業にはない緊張感の中意見をやりとりすることができた。もっと英語を勉強しようと思えるきっかけになりました。（武蔵）
- ・お菓子などを用意していただいたり、堅いかんじではなく、楽しい雰囲気がつくられていて、ほどよい緊張感をもちながらも他校の人とも交流することができたから。また機会があれば参加したいです！（武蔵）
- ・他校の人と仲良くなれたのは嬉しかったし、積極的になれた。ただ緊張感がとても大きかった。（武蔵）
- ・すごく楽しかったです！後輩にも是非出てほしいです！（武蔵）
- ・これからもこのディベート大会を続けてほしい。（武蔵）
- ・英語力がなくても、何とかして自分の言いたいことを伝えることがとても楽しかったしやりがいがあった。（南多摩）
- ・全くディベートの経験がなかったのでどうなるか分からなかったけれど、とても楽しかった。（南多摩）
- ・自分の英語力のなさを実感することにもなったので、これからはがんばろうと思えた。（南多摩）
- ・今まで経験したことがなかったものを経験できたとし、英語で会話することがどんなことなのかわかった（南多摩）
- ・ふだんできない体験ができて、楽しかったです。（南多摩）
- ・とても実践的で楽しかった。もっとやって上手になりたい。（南多摩）
- ・相手の英語が聞き取れなかったり、自分の言いたいことが思うように言えないこともありましたが、楽しかったです。（富士）
- ・とても上手なディベートを聴くことができ、自分も英語をもっと勉強したいと思えたから。またいろいろな学校とディベートできて楽しかった。（富士）
- ・様々な学校と交流することができ、多くに新たに学ぶことができた。（小石川）
- ・相手の視点で考えることの重要性や相手が本当に何が言いたいかの重要性が分かった。（小石川）
- ・ここ最近で一番頭を使いました。とても楽しかった。（大泉）
- ・グループの絆が深まった。交流という形もあり、「ディベートする」以上のものを得られた。（大泉）
- ・ノートがすごく埋まるほど学ぶことができた。ディベートの面白さがわかった。色々な話題をもう少しふだんから調べたいと思った。（大泉）

- ・難しかったです。あと言いたいことがたくさんあるのに語彙がないから上手く言えなくてとてもくやしかったです。次回は語彙を増やしたいです。(立川国際)
- ・1回目、2回目、3回目、、、と続けていくうちに、緊張感と達成感が入り交じったり、色々な感情を乗り越え、結果的に楽しみに変わっていた。(立川国際)
- ・英語をあまり話すことがなかったし、英語がとてもにがてだったので、良い経験になったと思う。(立川国際)
- ・他校の皆さんがしっかり話していて自分はこうなりたいという目標ができました。(白鷗)
- ・自分の英語は足りなかったが、それを補ってあまりあるほど、ディベートすることは楽しかったし、英語を使おうとすることは楽しかった。(白鷗)
- ・学校の授業などでもこのようなディベートをして、1つのことについて深められたら良いと思う。(白鷗)
- ・人前で発表することで、いかに自分の英語力に向上の余地があるのか実感できた。(三鷹)
- ・今まで、こんなに英語で考えを一生懸命に伝えようとしたことがなく、初めて、真剣に自分の英語力をふりしぼって伝えられたから。(三鷹)

【教員】

- ・同世代の交流を通じて、互いに学び合っている姿が印象的でした。
- ・普段考えない深さと広々まで考えていく機会がとても貴重だと思います。
- ・

【保護者】

- ・生徒の英語力が着実に定着していることがわかった。講評の内容が具体的で今後の指針となりそうだ。
- ・今日の経験で、英語だけでなく日常で論理的に考えるポイントを教えていただけたと思います。また、他校との交流はよい刺激となりそうです。
- ・このようなものがあると知りませんでした。生徒ががんばる姿を見てまたジャッジのお話が勉強になりました。
- ・即興型英語ディベートをぜひ授業でもやってほしい。
- ・指導者やジャッジの指導力で生徒が一気に成長するのを目にし、気づきがありました。



集合写真

2.47 令和元年度 PDA 熊本県高校生即興型英語ディベート交流大会

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

開催日時：2020年2月15日(土) 9:45-15:30

会場：熊本県立熊本第二高等学校

参加校：5校(熊本県立熊本高等学校、熊本県立熊本第一高等学校、熊本県立玉名高等学校、熊本県立八代高等学校、真和高等学校)

参加者：生徒47名、教員24名

スタッフ：PDAスタッフ

熊本県教育委員会、熊本県高英研

今年が1回目となるPDA熊本高校即興型英語ディベート交流大会。開会式では、会場校の熊本第二高等学校校長・熊本県高英研会長 山本朝昭先生より、「全国的に授業に取り入れる高校は急速に増えています。来年度から小学校の授業における英語の授業も増え、そのような英語学習を経た人たちと将来君たちは一緒に働くことになります。この即興型の英語ディベートは使える英語を楽しみながら身につけることができます。頑張ってください。」とエールが送られました。また、熊本県教育委員会指導主事の荒木先生から交流大会および教員研修の説明および講師紹介がありました。次に、PDA代表理事である中川智皓(大阪府立大学工学研究科准教授)より挨拶・参加した5校の学校紹介・ルールの確認・POIの確認を行いました。



熊本第二高校 山本校長のご挨拶



POIの練習

まずは、他校の生徒とチームを組んでディベートをするミックスディベートです。開会式前に引いたくじでチームが決まりました。論題は、「*Single-sex schools are better than co-educational schools.* (共学より男子校または女子校のほうがよい。)」でした。今日初めて会った生徒と自己紹介をし、ディベートの準備に取り掛かりました。また、今回は、PDA認定教育ジャッジ試験のジャッジ実技試験の練習、試験を兼ねており、熊本圏内13の高校や熊本県教育委員会高校教育課の先生がジャッジを務め、ディベートの司会進行、勝敗の決定、フィードバックを行いました。ミックスディベート、交流大会のラウンド、エキシビジョンディベート全てを県内の教員だけで行うという交流大会はこれまでなく、熊本県内の教員が一致団結して即興型英語ディベートに取り組む様子を垣間見ることができました。



他校の生徒との準備時間①



他校の生徒との準備時間②



堂々とスピーチ



教員によるジャッジ

ミックスディベートが終わるといよいよチーム表彰に関わる学校対抗のラウンドです。第1ラウンドのお題は「*Compensation for victims of bullying should be paid by attackers' parents.* (いじめの被害生徒への賠償金は加害生徒の親が支払うべきである。)」でした。ミックスディベートでルールを再確認した生徒たちは手際よく相手の主張を予想したり、相手が反論してきそうな部分の理由づけをチームメイトと一緒に考えたりしました。



P.O.I. で質疑応答をする様子①



P.O.I. で質疑応答をする様子②

続く第2ラウンドのお題は、「**Japan should have nuclear weapons. (日本は核兵器を保有すべきである。)**」でした。第1ラウンドで「時間が余ったら例を話してみる」「相手のスピーチの中でわからない部分があったらそのまましておくのではなく POI で確認をする」などジャッジの先生から受けたアドバイスを準備時間から活かそうとする様子が見られました。実際にディベートが始まると、第1ラウンドよりも活発に POI も行われ、日本だけでなく、アメリカ、中国、韓国、北朝鮮など国際関係にも着目した深いディベートとなりました。



POI !



教員ジャッジによるコメント

そしてジャッジを務めた教員がもう一度この人のディベートを見たいとエキシビジョンディベーターに推薦した6名によるエキシビジョンディベートが始まりました。論題は「**Casinos in Japan will give us benefits than harm. (カジノは日本に害よりも利益をもたらす。)**」でした。日本にカジノをつくって外国人観光客が増えるのかどうか、ギャンブル中毒になってしまう人は出てこないのかなど、様々な論点について議論が行われました。ディベートが終わると、メインジャッジの熊本第二高校の平井先生から勝敗の発表、勝敗の理由、個人コメント、ベストディベーターの発表、ベスト POI の発表が行われました。また、このエキシビジョンディベートは PDA 認定教育ジャッジのジャッジ実技試験となっており、教員ジャッジは自分がジャッジしている様子をビデオに収めました。



積極的に POI で質問します



聴衆の目を見てスピーチします



教員 21 名によるジャッジ



平井先生によるフィードバック



PDA 認定教育ジャッジ ジャッジ実技試験の様子（各自のジャッジコメントを録画）

最後に、ベストディベーターに選ばれた生徒が「即興ということで頭をフル回転させないといけなかったが、とても学びがあった。」とコメントし、令和元年度PDA熊本県高校生即興型英語ディベート交流大会の幕が閉じました。

【表彰】

〈エキシビションディベータ賞〉

PM ——さん (真和)
 LO ——さん (熊本)
 MG ——さん (熊本第一)
 MO ——さん (熊本)
 LOR ——さん (八代)
 PMR ——さん (熊本)



エキシビションディベーター

〈チーム賞〉

1位 八代高校 A
 2位 熊本高校 E
 3位 熊本高校 F



八代高校 A



熊本高校 E



熊本高校 F

〈ベストディベーター賞〉

- (熊本高校 A)
- (熊本高校 B)
- (熊本高校 E)
- (八代高校 A)
- (第一高校 A)
- (第一高校 B)
- (真和高校 C)
- (熊本高校 F)
- (熊本高校 D)
- (八代高校 A)
- (真和高校 B)
- (熊本高校 C)



ベストディベーター賞

〈POI 賞〉

- (熊本高校 A)
- (熊本高校 C)
- (熊本高校 E)
- (熊本高校 F)
- (第一高校 B)
- (玉名高校 A)
- (第一高校 A)
- (真和高校 C)
- (八代高校 A)
- (真和高校 B)
- (熊本高校 C)
- (熊本高校 C)



ベスト POI 賞

参加者の声（アンケートより抜粋）

【生徒】

- ・即興型英語ディベートがもっと普及して欲しいと思った。（熊本）
- ・知らない人ともディベートを通じて仲良くなれることができ、自分のディベート力も向上し、みんなで切磋琢磨しあえた。ジャッジの方々も皆優しく、かつ的確に指摘や賞賛をしてくださり、楽しかった。（熊本）
- ・エキシビジョンディベートも面白かったが、先生方のディベートも見てみたかったと思いました。（熊本）
- ・とても楽しかった。レベルの高い議論が毎日できてよかった。聞きながら書くのはとても大変だったが、勝てて良かった。（熊本）
- ・毎回、ジャッジをしていただいて、自分の改善点を見つけて次に活かすことができたと思う。他校の生徒さんからも沢山の刺激を得ることができて、とても充実した、1日でした。（熊本）
- ・ミックスディベートに参加して、学校・学年に関係なく交流できて、楽しかったです。（玉名）
- ・初めての経験でした。ただ、試合を通して話を進むことができたので、成長できて良かったです。語彙力が足りないなと思ったので、少しでも身につけてまた挑戦したいなと思った。また、楽しめたのが良かったです。（玉名）
- ・最後のエキシビジョンディベートでは、代表6名のすごさに圧倒されたが、貴重なジャッジという機会に恵まれ、自分なりにフローシートを使ってジャッジができた。（玉名）
- ・自分のワードボキャブラリーの乏しさに少しがっかりしたけれど、逆にもっと頑張ろうと思った。（真和）
- ・年に4回ぐらいあってほしい。（真和）
- ・ジャッジの先生がよかった。たまに腑に落ちないのもあったけど、それも経験だなと思った。良い企画！（真和）
- ・今までPDAの大会がなかったので新鮮で楽しかった。またやってほしい。（真和）
- ・最初はレベルの高さに圧倒されましたが、どんどん英語も聞きとれるようになっていったので良かったです。学校でもこれからディベートをするので、今日学んだことをみんなに伝えられたらなおもいました。（八代）
- ・自分に足りていないことを多くの人に学び、その点についてはよかったが、その分気圧されて絶望を感じた。（八代）
- ・来年もぜひやってください！（八代）
- ・最初、全くできなくて申し訳ない、ふがいないと感じていたけど最後は言えることも多くなって成長も感じられた。1日頑張れたという実感をもてて、これからの自信になるような体験だったと思う。（第一）
- ・学年も違う上、他校との交流戦は主張やスタイルも異なり、とても白熱した試合を楽しめました。又参加したいです。（第一）
- ・本日のこのような交流大会があることで、パラメンタリーディベートのおもしろさがいろいろな人、高校に伝わると思う。またこのような機会があったら参加したい。（第一）

【教員】

- ・生徒たちの積極的な姿勢を見ることができたと同時に、私自身も改めて学ぶことができました。
- ・生徒達はとても良い刺激を受けたようです。ぜひ第2回以降も実施していただければと思います。
- ・コメントを通して社会的な問題について関心を高めることもできる点が、教科横断的の学びにつながっていると思います。
- ・ジャッジを通して、生徒たちの「今」の英語力を知ることができました。
- ・教師がやってみること、実践することが大切だと思いました。
- ・生徒たちが同じ学校のチームでも他学校とのミックスチームでもいきいきと活動していてジャッジとしても楽しかったです。
- ・地域の拠点校となるような学校が参加できるディベート研修会などがあると、さらに熊本県のディベート活動が盛り上がると思います。



集合写真

2.48 PDA 全国中高教員向け即興型英語ディベートワークショップ 2020

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)

開催日時:2020年3月21日(土)10:30-16:00

会場:オンライン

参加者:教員12名(青森南高等学校、関西大倉高等学校、福井県立若狭高等学校、福井県立丹生高等学校、福井県立若狭東高等学校、福井県教育総合研究所、徳島県立城ノ内高等学校、鹿児島県立甲南高等学校)

令和2年3月21日(土)に、全国中高教員向けの即興型英語ディベートワークショップをオンラインで開催しました。新型コロナウイルスの影響で、オンラインビデオ会議システムを利用し各参加者は遠隔より参加しました。実践に移る前に、PDA 代表理事(大阪府立大学 工学研究科 准教授)中川智皓より、挨拶とディベートの概要が説明されました。現場における授業で導入できるよう、即興型英語ディベートは50分で行われます。また、各参加者の自己紹介が行われ、今回の意気込みや現在学校で行っている取り組み、今後の展望などを語っていただきました。

早速、参加者がチーム分けをされ、それぞれがディベートの準備に取り組みました。第1ラウンドのお題は“Closing schools to combat the COVID-19 has brought more benefits than harm.”「新型コロナウイルス対策での全校急行は、害よりも利益をもたらした。」でした。各々が日頃のテレビや新聞で得た知識を用いた議論が行われ、初回からハイレベルなディベートとなりました。

第1ラウンドの後は、同様にオンラインで行われている第3回PDA中学生即興型英語ディベート全国大会の生徒の実践を見学しました。「非常にレベルの高い議論だった」という意見が聞かれました。中学生のディベートを基にしたジャッジコメントの練習の後に、ジャッジレクチャーが行われました。ジャッジの基準、勝敗の決め方からジャッジコメントの仕方に至るまで、ジャッジをする上での基本事項を学びました。



第2ラウンドが始まりました。第2ラウンドのお題は“Recreating the dead in VR does more benefit than good.”「亡くなった人をバーチャルで再現することは、害よりも利益をもたらす。」でした。中学生の全国大会決勝で使われるお題を用いることで、見学の際に理解が深まるのが狙いです。初回と同じチームで肯定・否定を変更した組み合わせで行いました。第1ラウンドで緊張がほぐれたのか、より落ち着いてスピーチをされる参加者が多く見られました。肯定側から遺族の悲しみを癒すという議論が挙げられた一方、否定側からはバーチャルな人物への依存をもたらすという議論が挙がりました。POI を積極的に行う方の姿も見られました。

最後に、中学生全国大会の決勝を見学し、ジャッジ練習をしました。決勝の論題解説（キーノートレクチャー）を聞き、さらに知見を深めました。その後、これらの内容を踏まえたまとめが行われました。自らがディベートを体験したことで得た新しい視点を授業で用いたいという感想や、来年度からの授業にパラメンタリーディベートを導入し活用したいという意見も聞かれました。今後の授業での活用を祈念し、閉会しました。

参加者の声

- 来年度は高校2年生への導入を考えています。その導入がうまくいったら、勤務校が中高一貫校なので、中学生から高校2年生まで一貫して実践したいです。
- 自分でディベートを体験して難しさを実感しました。特に、ジャッジで生徒のスピーチを評価するところが難しいと思いました。
- 知識不足や反論の難しさに気づくことができました。生徒にもディベートを通じて、こうしたことを体験してほしいです。
- 生徒にジャッジを担当してもらった他校の取り組みを聞いて、勤務校でも取り入れたいと思いました。
- このワークショップを通じて、勤務校での授業導入の取り組みを相対化して反省することができました。
- 普段会えない遠方からの先生方と交流できて良かったです。勤務校でディベートを導入したところ、前向きなコメントをもらうことができたので、また機会があれば私達の取り組みを共有したいです。
- オンラインでのワークショップに戸惑いもありましたが、楽しくできました。生徒に客観的なジャッジの立場でディベートを見る機会を与えることが大切だと学びました。
- 一人一人のコメントを大切にすることに感銘を受けました。
- 自分が体験してみて、躓きやすいところが分かりました。

- 即興型ディベートは導入への意欲を掻き立てられるスタイルです。現場での導入に活かしていきたいです。
- 今回学んだジャッジの仕方を活用して、生徒に指導する時に的確なアドバイスをしていきたいです。以上

2.49 第3回PDA中学生即興型英語ディベート全国大会
The 3rd PDA Junior High School Parliamentary Debate National Competition

一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：2020年3月21日(土)

会場：Web会議サービス Zoom を使用し遠隔にて実施

主催：一般社団法人 パーラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

共催：大阪府立大学

後援：朝日新聞社、朝日中高生新聞、一般社団法人 日本英語交流連盟

助成：公益財団法人 日本財団、公益財団法人 KDDI 財団

協賛：ヤマハ株式会社

開催趣旨：

一般社団法人パーラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)では、グローバルに活躍する人財育成の一手法として、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの複数の力を効果的に訓練可能な即興型英語ディベートを推進しています。

本大会では、即興型英語ディベートの普段の練習の成果を試し、全国の高校生と議論を交わすことで、さらなる成長・学習意欲を促すことを目的とします。授業での取り組み成果を発揮できるよう、形式は授業導入可能なフォーマットです。

(参照：文部科学省助成事業 <http://englishdebate.org/debate/>)

参加校：(青森県) 八戸聖ウルスラ学院中学校 ※

(栃木県) 栃木県立宇都宮東高等学校附属中学校

(茨城県) 東洋大学附属牛久中学校

(千葉県) 翔凜中学校 ※

(東京都) 筑波大学付属駒場中学校 ※

(東京都) 渋谷教育学園渋谷中学校 ※

(東京都) 東京都立小石川中等教育学校

(東京都) 千代田区立九段中等教育学校

(東京都) 東京都立両国高校附属中学校 ※

(神奈川県) 栄光学園中学校 ※

(神奈川県) 洗足学園中学高等学校

(愛知県) 東海中学校 ※

(静岡県) 聖光学院中学校 ※
(兵庫県) 神戸大学附属中等教育学校 ※
(福岡県) 福岡雙葉中学校 ※
(熊本県) 熊本県立八代中学校 ※

申込校 16 校、参加校 11 校(※)

タイムスケジュール：

12:00 開会式
12:20 予選 1
13:30 予選 2
14:40 決勝進出チーム発表、決勝準備
15:00 決勝
15:20 レクチャー
15:40 表彰式、アンケート
16:00 終了

ご挨拶：

新型コロナウイルス感染症の影響で、本全国大会は遠隔（オンライン）で実施させていただくこととなりました。大会開催にあたり、迅速な機材提供にご協力いただきました公益財団法人 KDDI 財団、ヤマハ株式会社に心よりお礼申し上げます。

今回の全国大会では状況が刻々と変化する中、教員、生徒の皆様には多くのご心配をおかけしたと思います。学校への登校がままならず、ディベートへの準備が十分ではないと不安な生徒もいると思います。しかし、テクノロジーを最大限活かし、“学びを止めない”ことが重要であると思います。本日は、遠隔での全国大会に緊張している方も、画面を通して積極的に参加し、たくさんの方の学びを学んでいただけましたら幸いです。

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）代表理事
中川智皓（大阪府立大学工学研究科・准教授）

メッセージ：

即興型英語ディベート全国大会のオンライン開催おめでとうございます！

現実世界とサイバー世界とが継ぎ目なく繋がり、空間を超えて世界中の仲間と議論を深め、新しいものを生み出していく、そういった社会がすぐそこまで来ています。これまで直接会わないとできないと思っていたことが、どんどんネットワークを介してできるようになってくるでしょう。

皆さんは、「オンライン即興ディベート」という、とても先端的な取り組みのトップバッターですね。きっと、オンラインではここが良かったな、ここが難しかったな、といった新し

い発見がたくさんあると思います。是非、ワクワクする体験を、仲間たちと一緒に作っていきましょう！

キーノートスピーカー 大阪大学 大学院基礎工学研究科 准教授
岩井 大輔 氏

R1

中学校へのお菓子・ジュースの持参を認めるべきである。

Bringing snacks and soft drink to junior high school should be allowed.

R2

新型コロナウイルス対策での全校休校は、害よりも利益をもたらした。

Closing schools to combat the COVID-19 has brought more benefits than harm.

GF

亡くなった人をバーチャルで再現することは、害よりも利益をもたらす。

Recreating the dead in VR does more benefits than harm.

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、第3回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会は遠隔（オンライン）で実施することとなりました。KDDI 財団様、ヤマハ株式会社様のご協力により、タブレットノートパソコンと Wi-Fi、ヤマハマイクスピーカーを各校へお送りし、自宅待機中の生徒は自宅から参加しました。



開会式がはじまりました。申し込んだ 16 校と実際に参加する 11 校が紹介されました。メインテーブルである Zoom (Web 会議サービス) ミーティングルームへ 40 を超える中学生・教員・保護者・見学者のアカウントが集まりました (1つのアカウントにつき複数名が参加している学校もあります)。大会でのルール諸注意、POI (Point of Information: ディベート中の質疑応答) の練習などを行いました。学校が休校となり、思うように練習ができず緊張していると話す生徒もいましたが、POI の練習で“POI!”と言いながら POI のポーズをすることで緊張がほぐれているようでした。その後、ジャッジへの諸注意や Zoom 上でのプレバレーション (ディベートの準備) の行い方、大会中の連絡手段として利用した LINE のオープンチャットに関する説明が行われました。

Recording 表示設定 スライドショーの終了 オプションを表示

0:04:37 12:16

12:00~12:20 開会式

ルール確認

Government

- Prime Minister (PM) 3分
- Member of the Government (MG) 3分
- Prime Minister Reply (PMR) 2分

Opposition

- Leader of the Opposition (LO) 3分
- Member of the Opposition (MO) 3分
- Leader of the Opposition Reply (LOR) 2分

POI

定義を行い、肯定する理由1を述べる。

前半1.5分
否定する理由1へ反論、肯定する理由1の再構築、肯定する理由2を述べる。

後半1.5分
肯定する理由1へ反論し、否定する理由1を述べる。

前半1.5分
肯定する理由1、2へ反論、否定する理由1の再構築、否定する理由2を述べる。

後半1.5分
否定する理由2へ反論し、Governmentチームが勝っている理由をまとめる。

2分
Oppositionチームが勝っている理由をまとめる。

スライド 12/42

ミュート解除 ビデオの開始 招待 参加者 画面を共有 チャット レコーディング 反応

画面共有でルール確認・POIの練習

Recording ラスク バーの表示 表示設定 スライドショーの終了

0:05:50 12:17

12:00~12:20 開会式

注意事項

- スピーチはパソコン(マイク)に向かって話す。
- プレパレーションは15分。
(ディベートをするテーブルのミーティングに入ると、スタッフがプレパレーション用のブレイクアウトルームを作成します。)
- 各チームで論点を2つ出す。それぞれのサインポストをPMまたLOが述べる。
- スピーチ / POI以外はミュートにする。
- POIは、いつ行ってもよい。(15秒以内。立って行う。)
- ラウンドが終われば、握手を交わす。

スライド 13/42

ミュート解除 ビデオの開始 招待 参加者 画面を共有 チャット レコーディング 反応

ラウンド終了後の握手(エア握手)の練習

開会式が終わるといよいよ予選1です。メインルームで対戦表と論題が発表されると、各チームは自分たちがディベートを行う Zoom のミーティングルームへ移動します。その後、ブレイクアウトルーム (Zoom のミーティング上で別々のセッションに分割する仕組み) が作成され、スタッフが各生徒を Government (肯定側) と Opposition (否定側) に振り分け、各チームがチームメイトと準備を開始しました。予選1の論題は、“**Bringing snacks and soft drink to junior high school should be allowed.** (中学校へのお菓子・ジュースの持参を認めるべきである。)”です。健康が損なわれるか否かについてや、授業に集中できるか否かなど自分たちの身近な例をあげながらディベートが行われました。ディベートが終わるとジャッジからフィードバックが行われました。生徒はジャッジから言われたコメントを聞き、また質問をしながらディベートに対する理解を深めていきました。



筑駒(東京) vs 神大附属(兵庫)

チームメイトが一堂に会したチームと自宅から参加したチームがありました



栄光(神奈川) vs 八代(熊本)

画面の向こう側にいるジャッジに向けてスピーチを行います

予選2の論題は、“**Closing schools to combat the COVID-19 has brought more benefits than harm.** (新型コロナウイルス対策での全校休校は、害よりも利益をもたらした。)”です。コロナ感染の予防になっていると話す Government に対し、Opposition は卒業式が行われなかったことや、自宅待機により保護者が仕事を休まなければならない現状などを説明しました。



聖光(静岡) vs 両国(東京)①



聖光(静岡) vs 両国(東京)②



聖光(静岡) vs 両国(東京)③



聖光(神奈川) vs 澁波(東京)①



聖光(神奈川) vs 澁波(東京)②



自宅からの参加(神大附属)



東海(愛知) vs 神大附属



八代(熊本) vs 八戸ウルスラ(青森)

(写真)

公益財団法人 KDDI 財団様よりタブレットパソコンと Wi-Fi を、ヤマハ株式会社様からスピーカーをお借りし、各校へそれをお送りし、ディベートを行いました。相手のスピーチもはっきりと聞き取ることができ、相手チームやジャッジの顔を見ながらディベートを行い、まるで同じ教室で一緒にディベートしているかのように対戦し、交流を深めることができました。

2 戦目が終了すると、再度メインルームに設定されている Zoom のミーティングルームへ移動しました。休憩時間をはさんでから、決勝戦進出チームの発表がありました。

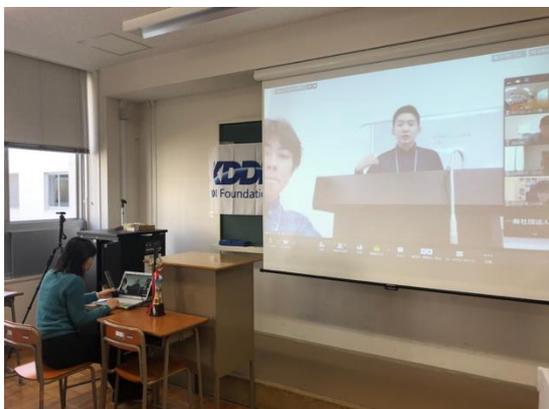


ドキドキしながら決勝戦進出チームの発表を待ちます

決勝戦の論題は、“Recreating the dead in VR does more benefits than harm. (亡くなった人をバーチャルで再現することは、害よりも利益をもたらす。)”です。多くの生徒や教員を前に堂々とスピーチを行いました。両チームとも深い分析を行い、また鋭い反論を行い、決勝戦らしい白熱した議論が繰り広げられました。

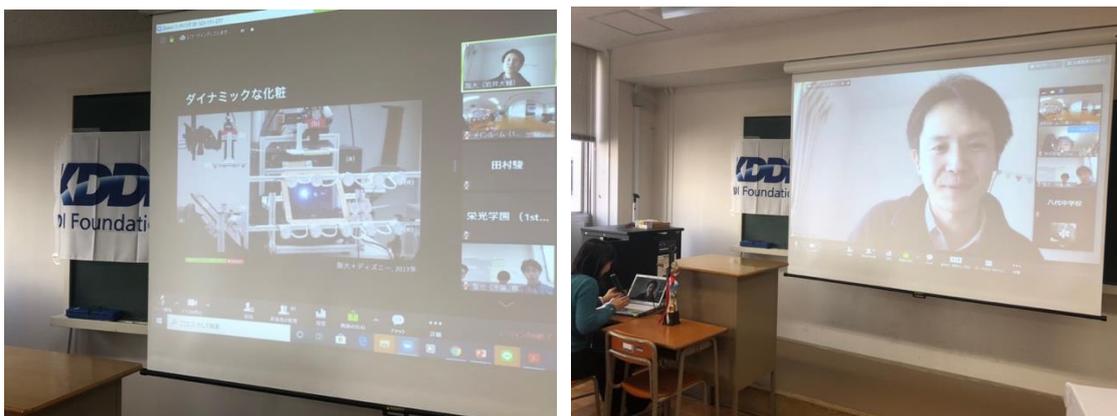


画面に多くの観客が映る中、堂々とスピーチを行います



ディベートが終わるとエア握手を交わします

決勝戦の結果が出るまえに、本大会のキーノートスピーカーである大阪大学大学院基礎工学研究科准教授である岩井大輔氏より、決勝戦の論題であったVRなどの最先端のテクノロジーに関するキーノートレクチャーを行っていただきました。プロジェクションマッピングなどの様々なテクノロジーについて解説をしていただき、質疑応答になると生徒は活発に質問を投げかけていました。



岩井氏によるキーノートレクチャー

キーノートレクチャーが終わると表彰式・閉会式が行われました。各学校へはタブレットパソコン・Wi-Fi・スピーカーに加え、VRゴーグルが送られており、表彰式ではVRゴーグルを用いることで会場にいるかのような臨場感を味わうことができました。閉会式では生徒が「コロナウイルスの影響で学校が休校となり、思うように練習できない中での大会となった。しかし、一番のパフォーマンスを発揮することができた。勉強になった。」とコメントしました。PDA代表理事中川より、「練習できないから大会に出ないと決めてしまっただけは、成長の機会を失ってしまうことになります。今回大会に参加したみなさんはこれからも成長の機会を逃さず、最大限に活かすよう頑張ってください。」とエールが送られ、第3回PDA中学生即興型英語ディベート全国大会の幕を閉じました。



表彰式・閉会式の様子

第3回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会結果

<チーム賞>

決勝戦結果

優勝：栄光学園中学校

準優勝：聖光学院中学校

チーム賞

第1位：聖光学院中学校

第2位：栄光学園中学校

第3位：筑波大学附属駒場中学校

第4位：渋谷教育学園渋谷中学校

第5位：東京都立両国高校附属中学校

<個人賞>

ベストディベーター賞：3名

ベスト POI 賞：9名



参加者と大会本部メンバーの集合写真

アンケート（抜粋）

1. 生徒の感想

- ・他校との交流と共に、多くの学びがあり、とても実りの多い時間をすごさせていただ来ました。ありがとうございました。（神大附属・3年）
- ・ジャッジの先生方に丁寧にアドバイスを頂けたのでとても良かったです。今後に生かしたいと思います！何よりコロナウイルスの影響がある中開催して下さった事に感謝したいです。（神戸大附属・3年）
- ・全国の学校と交流できてよかったです。（東海・3年）
- ・負けてしまったので悔しかった。高校生になるので次の大会までにより良いスピーチができるようになりたいと思った。（聖光・3年）
- ・とても緊張したけど、練習した成果がきちんとあらわれていたし、チームとの絆が深まった！日本全国と同じ年代の英語のレベルを知る事が出来たので良い経験でした！これからも英語を頑張ろうと思えました！（福岡雙葉・2年）
- ・他校と対戦することで、いつもより大きな学びを得ることができました。ジャッジの方々からもフィードバックを細かくもいらえたため、とても勉強になりました。また、他校の方々と交流することもできてとても良かったと思います。（神大附属・2年）
- ・個人的には悔しい結果だったが、貴重な経験になったので、この大会を開催して下さったことに感謝したい。（渋渋・3年）
- ・他校の方やジャッジの方々とスムーズにディベートをし、その後にフィードバックを頂けて、とても意義ある時間を過ごせました。（渋渋・3年）
- ・多くの人と触れ合え、論題も良いものだったため、とても自分のディベートの技術にとっていい経験となった。（筑駒・3年）
- ・やはり、大会という形式でディベートをすることにいみがあるとおもい、良い機会になっていると思います。（栄光・3年）
- ・とてもレベルが高いディベートの中でベストディベーター賞に選ばれたのは自信になりました。また、同年代の人たちがすらすらと自分の意見を言っているのを聞き、自分の英語力をもっとつけなければいけないと思いました。（八代・3年）
- ・英語にもディベートにも自信はなかったが、話し合いが成り立つことが分かったから。また、1人で参加という大変貴重な経験をすることができた。生まれて初めてのPOIで賞を頂いたのも自信に繋がった。（八戸ウルストラ・3年）

2. 教員・見学者の感想

- ・このようなレベルの高い中学生ディベート大会に参加させていただき本当に感謝しております。生徒たちは練習から本番迄一生懸命頑張る姿を見せてくれました。今回の大会は私にも生徒にもより高みを目指す良い機会となりました。ジャッジの方も親切に講評し

て下さり、これからの練習の励みになりました。本当にありがとうございます。

- ・これだけの人数でここまでスムーズにできたこと自体が感動でした！
- ・コロナウイルスの影響で遠隔開催に結びつけるのが大変ご苦労されたと思います。それでも学びを止めない姿勢に感銘を受けました。お疲れ様です。
- ・ヤマハスピーカーの使用は音も良く、選手は立ってスピーチできるのが良いと思いました。
- ・コロナ騒動であらゆる活動ができない中、貴重な機会をくださり、生徒たちにとって素晴らしい経験をさせていただきました。
- ・地方にいるが、他校ともっと様々な形で交流ができるのではと、今後に新たな可能性を見出すことができた。チームとして同じ場にメンバーが集まれば、(オンラインでも)あまり問題はないと感じた。ただし、直接的な交流を持てたら、やはり生徒にとってより刺激になると思う。

3. キーノートレクチャーについて

- ・とても興味深い内容で、面白かったです。技術の発展や、それを生活の中でいかせるのだということにとっても驚きました。色々な技術についてもっと知っていったらなと思いました。
- ・VR 技術研究の目的が分かってよかった。
- ・興味深い内容でした。私が思っているより技術が進んでいて、たくさんの新しいことを知ることができました。
- ・最先端の科学技術を使って生活を便利にするような研究をしていて興味を持ちました。
- ・元々興味があったので面白かったです。また議題に関連する話題だったので、改めてディベートは話す力だけでなく知識や話す中身が大切なのだと感じました。時代の最先端について話し合えるディベーターになりたいです。
- ・面白いビデオなどを見ることができ、いつもは気にしない最先端のテクノロジーを見ることができました。
- ・少し自分の興味範囲と違ったのですが、日常聴聞けない話が聞けて、良かったです。

以上

予選結果

- 1位 聖光学院中学校
- 2位 栄光学園中学校
- 3位 筑波大学附属駒場中学校
- 4位 渋谷教育学園渋谷中学校
- 5位 東京都立両国高校附属中学校
- 6位 神戸大学附属中等教育学校

- 7位 福岡雙葉中学校
- 8位 翔凜中高等学校
- 9位 熊本県立八代中学校
- 10位 東海中学校
- 11位 八戸聖ウルスラ学院中学校
- 12位 Swing

PDA 認定教育ジャッジ

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)



勝敗の決定

勝敗の理由

個人コメント (良かった点、改善点)

PDA 認定教育ジャッジとは

2017 年度文部科学省委託事業から本格実施



PDA 認定教育ジャッジとは、主に中学・高等学校の授業で即興型英語ディベートの教育的な指導ができる認定ジャッジのことです。単にディベートが上手い人ではなく、教育的配慮をもって生徒の学びやモチベーションを高められるジャッジができる人財のため、PDA 認定「教育」ジャッジと名付けられています。

ここで取り扱う「即興型英語ディベート」は、50 分の授業で完結するフォーマットです。6 年以上の文部科学省委託事業での取り扱い実績のあるディベートシステムで、課外活動等の一部の生徒が取り組むものではなく、授業の中で一般の生徒が十分取り組める仕組みであることが実証されています。PDA は、授業や公式大会においてジャッジが求められる際、認定を受けた教育ジャッジを推薦します。

受験資格

1. 大学生以上。PDA 個人会員であること。
2. ディベートおよびジャッジの実践経験 ※1 ※2
 - (1) ディベート実践を 6 回以上。
 - (2) ジャッジ実践を 6 回以上。(内、3 回以上を PDA 公認の授業現場において実践)

本冊子では、学校教員の中から、一部の PDA 認定教育ジャッジをご紹介します。皆さん、各校にて活躍されています。

<h3>筆記試験</h3> <p>※会場受験 8 月合宿@大阪、12 月全国大会@東京、3 月@全国教員研修@大阪、他教育委員会等連携の研修会にて</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ルール ● ジャッジとしての心構え等 	<h3>ディベート実技試験</h3> <p>※インターネット受験 (ネット上でディベート実践) 毎月実施中。zoom を使用。マイクおよびウェブカメラが使用できる PC をご用意ください。(画面は小さくなりますが、スマホやタブレットでも zoom は使用可能。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 基本的な構成のスピーチができる。 ● タイムマネージメントができる。 ● POI を 1 回以上出せる。 ● POI を 1 回以上受け、適切な返答ができる。 ● アイコンタクトがある。(スピーチ時間の 50% 以上) ● 説明において大きな論理の飛躍が見られない。 	<h3>ジャッジ実技試験</h3> <p>※インターネット受験 (配信動画をジャッジ実践) ネット動画が見られる PC とご自身の様子を撮影できるビデオカメラ (スマホやタブレットでも可) をご用意ください。試験時間に、ディベート試験動画を配信。司会進行からジャッジコメントまで、ご自身がジャッジをしている様子を動画で撮影、動画データを提出。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 司会進行ができる。 ● 授業時間を考慮したタイムマネジメントができる。 ● 勝敗を出せる。 ● 論理的にある程度納得できる勝敗の理由を述べられる。 ● 建設的な個人コメントを述べられる。 ● 教育的配慮に欠けない。



PDA 認定教育ジャッジ

一般社団法人パラメンタリー
ディベート人財育成協会
(PDA)
2019年度

PDA CERTIFIED EDUCATIONAL JUDGE



當麻 進仁先生（青森県立青森高校）

青森県での即興型英語ディベートの導入・推進に当初よりご尽力され、生徒・教員ともに学びの場を設定いただきました



濱田 剛志先生（青森県立五戸高校）

第1回 PDA 岩手県高校即興型英語ディベート交流大会にて隣県からの推進にも尽力いただきました

青森県

2日間集中型での教員研修

青森県では、2日間集中型での教員研修を行い、教員自身がディベートおよびジャッジの実践を行う機会を設けました。これにより、授業のできる即興型英語ディベートへの理解を深めました。また、希望者は PDA 認定教育ジャッジ試験の受験にも挑戦しました。筆記試験は、当該教員研修会場および青森県高校即興型英語ディベート交流大会にて行いました。ディベートおよびジャッジ実技試験はインターネットを用いて受験しました。

Q) PDA 認定教育ジャッジ資格を取得した理由は何ですか？

- 6年前、青森で英語ディベートをやりたいと思い提案しましたが、受け入れられませんでした。ディベートを分かっている人がいる必要があると思い、自分になれるならなろうと思い、受験することを決めました。（當麻先生）
- ディベート交流大会を見学したことがきっかけです。様々な高校の生徒が短い時間で準備をし、イキイキと人前でスピーチしている様子を見て、ジャッジに興味を持ちました。（濱田先生）

PDA 認定教育ジャッジ試験にも挑戦！

Q) PDA 認定教育ジャッジ資格を取得して変わったことはありますか？

- 生徒への指導内容が格段に変わりました。ディベートで何が重要なのか、ということを知ることができ、生徒にもそれを教えることができるようになりました。（當麻先生）
- 自分の英語力を見直すようになりました。いろいろなトピックに対応できるようにと知識を身につけようと思いましたが、論理的思考についても意識するようになりました。（濱田先生）

Q) PDA 認定教育ジャッジ試験で難しかった点などありますか？

- すべて難しかったです（笑）。その中でも、ジャッジ実技試験の中で、この主張に十分な説得力があるのかどうかということを根拠をもって説明することが特に難しかったです。（當麻先生）
- ジャッジをする際、ディベートを見る基準を考え、勝敗を出すということが難しいなと感じました。また、限られた時間の中で勝敗を出してコメントをしきることも大変だなと感じました。（濱田先生）





神奈川県

神奈川県教育委員会との連携

神奈川県教育委員会・学力向上進学重点校英語 4 技能指導法研究グループの協力を得、教員が「公務として」即興型英語ディベート学べる年間 6 回の研修を開催しました。

平成 29 年度から今年度まで、3 年間にわたり、公務としての研修が続いています。教員が、即興型英語ディベートの実践を行うことはもちろん、ジャッジについても勉強し、さらに、交流大会にて生徒に対して教育的配慮を伴うジャッジ実践を行っています。



研修修了証を授与された参加者

神奈川県教育委員会における PDA と連携した英語教員の人材育成について

- ✓ 平成 28 年度までの取組を受けて、継続的な研修会を通じた人材育成を可能とするために、エントリー校の校長と県教育委員会高校教育課が協議し、交流会と人材育成のための研修会を高校教育課の主催とし、参加教員の公務性を担保するとともに各校での継続的な人材育成と授業改善を可能とした。
- ✓ 研修内容としては、即興型英語ディベートを活用して英語の授業改善を行うことを目的として、校長推薦による教員に対して年間 7 回の研修会を実施し PDA 認定教育ジャッジ資格の取得を目指すこととした。

元神奈川県教育委員会 高校教育企画室
時兼 洋昭先生

<ul style="list-style-type: none"> ・教員の主体的な学び ・授業への導入 <p>研修 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な学びの評価 ・モチベーションの向上 <p>表彰 </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・見える形で成果を実感 ・質の高い授業提供 <p>認定 </p>
--	--	---

文部科学省「平成 29 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」
主題：即興型英語ディベートの指導者育成に関する研修開発と評価制度構築

文部科学省「平成 30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」
主題：即興型英語ディベートの指導者育成に関する遠隔研修の開発

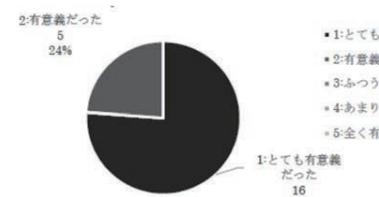
公務としての研修 年間 6 回午後

神奈川県教育委員会高校教育課主催の公務としての研修に参加し、ディベートおよびジャッジ実践回数をこなし、PDA 認定教育ジャッジ試験受験資格を得ました。試験にもみごと合格し、資格を取得されました。

Q) PDA 認定教育ジャッジを目指したモチベーション、合格できた秘訣

PDA 認定教育ジャッジを目指したモチベーションは、ディベートで自分の考えを伝えられなかった悔しさと、伝えられるようになりたいという願望から来ています。ディベートでうまく話せずに悔しい思いをしたとき、もっとルールや役割を理解する必要があると感じました。それらを効率的に学ぶは、PDA 認定教育ジャッジを目指すのが早いのではないかと考え、受験を決めました。

試験には、ディベートの実技、ジャッジの実技、筆記と 3 種類があります。実技に関しては、研修で回数を重ねてきたので、試験でも同じような気持ちで取



Q1. ディベート実践は有意義だったか。
平成 29 年度学力向上進学重点校エントリー校 4 技能指導法研究グループ第 3 回研究会(N=21)

り組むことができました。緊張せずに力を発揮できたのは、交流大会などを通して人前で話すことに慣れることができたからだと思います。数をこなすことで、ディベートに対する不安がだんだんと自信に変わっていきました。筆記に関しては、基本的なルールやジャッジの役割に加えて、必要とされる教育的配慮まで答えられたことが、合格の秘訣だったと考えます。これらを自然に考えつことができたのは、即興型英語ディベートを授業に取り入れてきて、生徒の様子を間近で見えてきたからです。生徒に混ざり、実際にディベートやジャッジをすることで、生徒の抱える困難点やジャッジとしての心得を理解することができました。また、生徒が喜んでディベートをしている姿は、即興型英語ディベートについてもっと深く学ぼうという私自身のモチベーションにつながりました。



近藤 飛鳥先生
(神奈川県立保土ヶ谷高校)

神奈川県

社会科教員も

PDA 即興型英語ディベートに出会ってから5年が経ちます。それまでは、全くの初心者でしたので、最初の年は、PDA 神奈川県交流大会に向けて、独自に調べて生徒に話していました。これでは、全く進化していかないため、多くの先生方に話を伺いました。そして、ジャッジができないと生徒に教えることができないと考え、PDA 認定教育ジャッジ資格も取りました。

生徒はある程度英語ディベートができるようになると、ジャッジに公平性と適確な説明能力を求めてきますので、ジャッジを勉強する必要性が出てきます。また、ジャッジを勉強するとディベートのテクニカルな部分だけでなく、生徒の良いところも見つけて褒めるテクニックも身につきます。特に若い先生には、是非やっていただきたいです。(林先生、地歴公民科)



林 弘一先生 (神奈川県立相模原高校)

宇佐美 修先生
(栄光学園高校)河野 周先生
(聖光学院高校)早坂 大先生
(神奈川県立横須賀高校)

2019年の神奈川県公立高校即興型英語ディベート交流大会にて
 前列には17校からの校長先生方が並びます
 多くの校長先生方のご理解・ご参加があることもPDAの大会の特徴です

長野県

交流大会から全国大会、世界交流大会へ



青木 郁子先生
(長野県松本深志高校)



池上 博先生
(長野県松本県ヶ丘高校)

交流大会

教員研修も兼ねながら、推進

長野県では、PDA 長野県高校生即興型英語ディベート交流大会や教員研修を開催させていただきました。また、長野県からは、毎年夏に大阪で開催しているPDA 高校即興型英語ディベート合宿・大会、冬の全国大会、そしてPDA 学校会員向けの遠隔ディベートなど、多くの機会に継続的に参加され、学校を超え、地域としても即興型英語ディベートのノウハウが広がっています。PDA 認定教育ジャッジについても早い時期から複数名の教員が資格を取得しています。

(池上先生)「おそらく最高齢での認定ジャッジ挑戦。準備型のディベートではジャッジに客観的な資格はなし。そこで客観的にジャッジとして認定してもらうよい機会と思いましたが、こんな私ですが、ディベート実技試験で不合格になりました。PDA の形式を無視してしゃべりまくり、POI をすべて拒絶したことが原因です。教育ジャッジに熱烈ディベーターは必要ありません。PDA の format を理解し、PDA 規則を忠実に実践できる指導者です。Hello everyone ... で始まる素直なディベートをし、生徒に温かいまなざしを送ることができればだれでも教育ジャッジの資格があります。」



文部科学省・外務省後援
第2回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会にて
松本県ヶ丘高校は、地域交流大会に参加し、そして全国大会優勝
世界交流大会に参加しました



PDA 認定教育ジャッジ

一般社団法人パラメンタリー
ディベート人財育成協会
(PDA)
2019年度

PDA CERTIFIED EDUCATIONAL JUDGE



岡本 領子先生
(京都府立嵯峨野高校)



PDA 京都公立高校即興型英語ディベート交流大会にて
POI のポーズとともに

京都府

PDA 即興型英語ディベートを初任者研修に

京都府総合教育センターは、京都府が設置する教育に関する研究及び教育関係職員の研修を行う機関です。2017 年度から毎年、即興型英語ディベートを取り入れた教員研修を行っています。新学習指導要領を踏まえ、PDA で紹介する授業でできる形式の即興型英語ディベートの手法を学び、また実際に教員がそれを体験する形です。

2017 年度には、中学校・高等学校教員の希望者が集まりました。他教科(理科)担当の教員の参加もありました。

2018 年度には、中学校・高等学校教員の希望者に加え、高等学校教員の初任者研修としても位置付けられました。

2019 年度には、2018 年度の形に加え、中学校教員の初任者研修としても実施されました。中学校・高等学校の教員が共同で研修に参加することにより、中高連携の意見交換もしやすくなりました。

なお、初任者研修とは、法定研修であり、初任者は悉皆で参加となる。京都府の初任者研修で設定している教科教育 7 回のうち、1 回(午後)に、当該即興型英語ディベートの研修を設定しています。

中学校にも広がる即興型英語ディベート

Q) 研修をしてよかった点は?

1. 内容がディベートのノウハウだけでなく、新学習指導要領を踏まえ、言語活動に即興性が重視されること、また高等学校においては「論理・表現」の科目案の中での使用が期待されることなど、今後の指針を踏まえた説明がなされたこと。
2. ディベートの理論だけでなく、50 分の授業の中でできる流れの説明、そして教員自身がディベート実践及びジャッジ実践を体験できたこと。
3. 特に、ディベート後のフィードバックとして、どのように建設的なコメントを生徒にすればよいかの事例を講師より学べたこと。

大槻裕代先生 (京都府総合教育センター研修・支援部
研究主事兼指導主事)

PDA 認定教育ジャッジである岡本先生は、左記の京都府総合教育センターが実施する初任者研修の即興型英語ディベートと実践において、模範のジャッジとしても参加者をリードし、ご活躍されています。

また、京都では、京都公立高等学校長会 国際・外国語部系部会のご協力を得、PDA 京都高等学校即興型英語ディベート交流大会も実施しています。そのような交流大会においても、PDA は認定教育ジャッジの先生方を推薦しています。

(岡本先生)「人として成長する場として英語ディベートを活用するときに、俯瞰的客観的にそのやりとりを振り返る事が非常に重要だと考えます。ジャッジはその振り返りをファシリテートする大切な役割だと認識しています。認定ジャッジになる過程で得た経験は、競技ディベート未経験であった私が教育ディベートに関わり

始めた際、私自身の自信となってくれました。一つ一つの論題に向き合う経験を積むことが論理的思考力を鍛え、対話する力を育みます。これからもディベートを楽しみながら、生徒と一緒に成長していきたいです。」



PDA 認定教育ジャッジのバンド



PDA 認定教育ジャッジ

一般社団法人パラメンタリー
ディベート人財育成協会
(PDA)
2019年度

PDA CERTIFIED EDUCATIONAL JUDGE

兵庫 県

兵庫県では、兵庫県立教育研究所や兵庫県教育委員会における教員研修をお手伝いさせていただきました。

関西公立高校即興型英語ディベート交流大会では、会場校の大阪府立北野高校、京都市立堀川高校、奈良県立奈良高校、滋賀県立膳所高校、滋賀県立彦根東高校、兵庫県立神戸高校の6校が集結し、熱い議論を交わしました。兵庫県からはPDA認定教育ジャッジの田村駿先生がジャッジとして参加されました。

遠隔ディベート研修（2018年度文部科学省委託事業）

では、全国の多数の地域から教員が集まり、インターネット上で、ディベート実践およびジャッジ実践の研修会を行いました。



田村 駿先生（兵庫県立千種高校）

関西公立高校即興型英語ディベート交流大会にて校長先生方と並んで、決勝のチェアジャッジを務めていただきました

遠隔 ディベート研修

放課後、休日を使って

Q) PDA 認定教育ジャッジ資格取得までの道のり

兵庫県の教員研修でPDAに出会って、そのポテンシャルと英語のみならず、さまざまなソーシャルスキルの育成に直結する手段であることに非常に魅力を感じ、そこから自らPDAについて実践やレクチャー、座学を通して勉強すると同時に、さまざまな到達度の生徒に還元するための活用方法について勉強を重ねました。その中で「認定教育ジャッジ」取得

に向けて学ぶことが、生徒へのより良い指導に向けた道しるべになると考え、1つの目標にすることにしました。特に昨年度、年度を通して行われた「オンラインレクチャー」を受講し、中川先生や推進委員の先生方から直接レクチャーと実践フィードバックを頂いたこと、また、受講された全国の先生と実践を通して交流できたことが目標達成だけでなく、自分のスキル向上の大きな助けになりました。そのおかげで、「認定教育ジャッジ」を取得することができました。（田村先生）



PDA 関西公立高校即興型英語ディベート交流大会にて最前列に校長先生方が並びます



福岡県

即興型英語ディベート授業モデル校 福岡県立城南高校から



即興型英語ディベートを授業に導入して6年が経ちました。全校規模での導入成功の秘訣をよく聞かれますが、3年間の指導シラプスの作成や、定期考査への毎回の出題などが根底にあるのは事実です。しかしそれよりも生徒が意欲的に楽しく英語を学ぶようになり、また成績も向上している

の事実が私たち教師の背中を強く押してくれました。他教科の先生からも「質問の質が良くなった」とか、「創作ダンスの表現が驚くほど豊かになった」などのご指摘があり、即興型英語ディベートの多岐にわたる教育効果を学校全体で共有し美感してきたように思います。現在は、議論の

質を高めるため国語科とコラボして論理について学ぶなど、教科横断型の展開を心がけています。これからも本校を支える大きな柱のひとつとして即興型英語ディベートに真摯に取り組んでいきたいと思えます。(石橋先生)

3 学年全校生徒 1200 人で 教科を超え、学校全体で、即興型英語ディベート授業

ルールを知ったばかりの英語科の教員と、英語は大学以来という他教科の教員。このメンバーによるラウンドが私と即興型英語ディベートとの最初の出会でした。このジェスチャーゲームのようなラウンドで大笑いしてディベートへの根拠のない苦手がなくなったと同時に、印象的だったのはジャッジからいただいた丁寧な個人コメントでした。言いたかったことを十二分に汲み取っていただいて、全員ご機嫌な気分になったのを今でもよく覚えています。

その後数日間は、ほめていただいたことを思い出してはニヤニヤし改善点を思い出せば「どうしてもう少し気の利いたことが言えなかったのか」と悔しくなり。今思うに、この「後を引く気持ち」にさせる個人コメントが即興型英語ディベートの魅力のひとつのように思います。私は PDA が推奨されるジャッジの手法を真似て生徒を指導してきましたが、単に勝敗を決める「ジャッジ」ではなく「教育ジャッジ」であろうとすることが全校での授業導入実現の鍵だったと確信しています。

とはいえ「私には無理」と思われる方も多しと思います。私もそうでした。しかし、指導するうち「立場は人をつくる」という言葉が頭をよぎるようになりました。教育ジャッジという立場を意識し始めてから自分の指導法にぶれない軸ができたように思います。まだまだディベート初心者の私ですが、教育ジャッジの先輩方の背中を追いかけて自己研鑽に努めたいと思っています。



石橋 由利江先生
(福岡県立城南高校)

青森県教員研修会にて



PDA 認定教育ジャッジ

一般社団法人パラメンタリー
ディベート人財育成協会
(PDA)
2019年度

PDA CERTIFIED EDUCATIONAL JUDGE



山本 朝昭先生
(熊本県高英研会長・熊本県立第二高等学校校長)



熊本県教育委員会・熊本県高英研による
PDA 認定教育ジャッジ試験向け教員研修にて

熊本県

熊本県教育委員会・熊本県高英研による 教員研修

熊本県では、PDA 設立の前身プロジェクトである文部科学省助成事業 高等学校における「多様な学習成果の評価手法に関する調査研究」(<http://englishdebate.org/>)の活動時代(2013年度～)から即興型英語ディベートの生徒および教員向け研修を開催していただいております。また、全国初の中学生の PDA 即興型英語ディベート体験会および交流大会が 2016 年度に開催されるなど、時代を先取りした企画を牽引されてきた熊本県高英研会長・熊本県立第二高等学校校長の山本朝昭先生に、以下インタビューをいただきました。なお、2019 年度には、熊本県教育委員会・高英研による PDA 認定教育ジャッジの資格取得に向けた教員研修を設定いただきました。

Q) PDA 認定教育ジャッジの資格取得に向けた研修について

(6 年前でしょうか。)中川先生をお呼びして、即興型英語ディベートの体験会を開催した時、PDA ジャッジの方々のコメントの出し方にすごく感銘を受けたことを思い出します。全く話せていない生徒に対して、必ずほめる言葉があった、決して傷つけることがない。どの生徒も、またディベートをやってみたいという気にさせるコメントなんですね。次のディベートにどのような気持ちで、どう向き合うかということが、伸びを左右する一番大切なポイントです。そこをうまくやってほしい。

即興型英語ディベートのルールなどのうべだけをかじって、形式的なマネだけやっても、ジャッジがうまく機能しなければ成功しません。「お題の立て方」や「ジャッジの視点の持ち方」、「多様な生徒のモチベーションをどうアップさせるか」など、生徒のやる気を引き出す、面白いと思わせるジャッジの在り方を勉強しておくことが大切です。「こうすればよかった」というマイナスの指摘のみを言うのが一番良くない。そのような意味で、ジャッジ研修会で、教育的配慮を伴ってジャッジができる技量を鍛えてもらう価値はとて大きいです。ジャッジ認定によって身についたスキルは、他の領域においても転移可能性が高いはずですし、生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる英語教育の実践者として、ジャッジ認定制度が活用できるのではないかと思います。

PDA 認定教育ジャッジの資格取得に向けた研修 3 日間 (連続する 2 日と交流大会) 教員 22 名の登録

PDA 認定教育ジャッジの資格取得に向けた研修では、教員自身がディベート実践を行い、ジャッジにコメントをもらう側に立つことで、生徒の視点を得ることができます。今日のジャッジ研修でも、先生たちが自ら体験したことによって、生徒の気持ちを理解したジャッジができるようになったという感想を述べていました。このような機会はなかなか無いですし、相当に充実した研修だったようです。

最後に、即興型英語ディベートは学びの手段のひとつです。教科書に出てきたテーマだけでなく、日々の生活の中に見つけた課題や社会の在り方などについて、自分の意見を持つことが大切です。そして、意見を出し合っ、論理的に説得したり、説得されたりして、深い学びにしていく。そういった力を鍛えていく手段として、即興型英語ディベートは大変効果的です。最初は、意見を

持ったり、英語で話したりする練習ですが、繰り返し、即興型英語ディベートに取り組むことで、次のステップには、より深い学びにつなげていくことができます。

Q) 即興型英語ディベートが授業導入に適切である理由

即興型英語ディベートは授業との親和性が非常に高く、次のような利点があると考えています。

1. 授業 1 単位(50 分)で完結できること。
2. 授業 1 単位のなかに、4 技能の全てが織り込まれる 4 技能統合モデルであること。
3. 「主体的・対話的で深い学び」を促進するコミュニケーションゲームであること。
4. 「何を知っているか」にとどまらず、「英語を用いて何ができるか」の実践モデルであること。
5. ゲーム的要素が生徒の意欲を高め、英語による活動を楽しめること。
(6. 活動量が活動の質を確実に高めること。)

(山本先生)



PDA 認定教育ジャッジ

一般社団法人パラメンタリー
ディベート人財育成協会
(PDA)
2019年度

PDA CERTIFIED EDUCATIONAL JUDGE



Brink Bojan 先生 (沖縄県立球陽高校)

文部科学省事業 遠隔ディベート教員研修にて
本土から離れた沖縄からも、
ディベート実践およびジャッジ実践にご参加いただきました

沖縄県では、2016 年度および 2018 年度に、教員研修を
開催させていただきました。また、2018 年度には PDA 沖縄県
高校生即興型英語ディベート交流大会が開催されました。文
部科学省事業における教員向けの遠隔ディベート研修では、沖
縄県から複数名の教員がご参加されました。



沖縄県高等学校英語教育研究会 教員研修会にて

沖縄県

ネイティブの先生も資格取得

Q) About PDA Certified Educational Judge.

I have experienced PDA's impromptu parliamentary debate concept as a strong and attractive debate framework. I worked very successfully with the concept, testing it with both low- and medium- levelled High School student populations at Kyuyo SHS. My students grasped the general flow and roles relatively fast. Many appeared excited to engage in debates, showed significant progress while as a teacher I appreciated to have had a debate tool at my hands that allowed for effective implementation into regular English classes. That was something that I felt very difficult with the still standard research-based debate concept that, to me, seemed only an option for a small group of debate experts as part of their extracurricular activities. PDA's concept made regular class implementation a lot easier.

That I was able to implement the concept so smoothly had also to do with the rigorous training I have received, both in face to face and online workshops with competent PDA staff. The training sessions were well-balanced and provided not only debating and judging opportunities but also gave me important background information. The workshops culminated in the test for the PDA Certified Educational Judge which I took not only to personally achieve mastery but also to foster a high quality implementation of debate at Kyuyo HS.

At my school, I have played a key role in building a curriculum around the concept at my school and bringing debate and critical thinking to life. Japan is still in its infancy state when it comes to critical thinking and activities such as debates or discussions. In my opinion, the fact that foreigners/ ALTs are usually much more familiar with those concepts could allow them to play a very important role when it comes to teaching and implementation of debate concepts. PDA's accessible concepts and inclusive workshop policy have helped me assuming that rather unusual role. (Bojan sensei)



PDA 認定教育ジャッジ

一般社団法人パラメンタリー
ディベート人財育成協会
(PDA)
2019年度

PDA CERTIFIED EDUCATIONAL JUDGE

PDA 認定教育ジャッジ資格取得に向けた教員研修例

【集中型】

教育委員会や高英研等のご協力を得、ご多忙な教員の皆様に配慮した2日間集中型研修の例を以下に示します。PDA 認定教育ジャッジ試験受験に必要なディベート実践の回数が確保されています。また、ジャッジ実践3回を研修中に行い、受験条件に必要な残り3回は各校にて生徒に対してジャッジ実践をしていただく、または生徒が参加する交流大会(※)の機会を設け、先生方がジャッジ手法を習得します。

1日目	内容
10:00	挨拶、ルール説明
10:30	実践1
11:30	実践2
12:20	お昼休み
13:00	実践3
14:00	実践4
15:00	実践5
16:00	終了

終了後、任意で情報交換会(懇親会)

2日目	内容
10:00	挨拶
10:10	実践6
11:10	実践7
12:00	お昼休み
12:40	実践8
13:40	実践9
14:40	筆記試験
15:10	ディベート実技試験
16:00	終了

【単発型】

まずは即興型英語ディベートを知る、また、単発の研修会を複数回設け、PDA 認定教育ジャッジ試験受験に必要な実践回数を積む、といった形での研修会のご協力もさせていただいています。授業導入に向けたレクチャーなど地域や参加者に応じて、内容を調整しています。2.5~3時間程度。

時間	内容
13:00	挨拶、ルール説明等
13:40	ラウンド1
14:30	休憩
14:40	ラウンド2
15:30	まとめ
16:00	終了

※交流大会

即興型英語ディベートを練習してきた生徒も、初めて行う生徒も、他校の参加者とその場で交流できるプログラムを提案しています。4~6時間程度。



これからの即興型英語ディベート

文部科学省の新高等学校学習指導要領において、外国語では「論理・表現Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」が各2単位（標準）で導入され、内容にはディベートやディスカッションの活動が明記されています。専門学科（文理学科や国際科学、国際教養など）における教科「英語」における科目では、「ディベート・ディスカッションⅠ、ディベート・ディスカッションⅡ」という名称も示され、授業としてのディベートの必修科目化がもう目の前にきています。

限られた授業時間で、英語4技能をはじめ、さまざまなスキルを最大限に向上させられるよう、適切に即興型英語ディベートが活用されることを期待しています。

データを覚えたり、過去の事例を探したりすることはAIの最も得意とすることです。しかし、今のところ、文章の意味を理解し、論理を組み立てることはAIの苦手とするところ。よって、これから我々は暗記などAIの得意とするところで勝負をするのではなく、人間としての強みをさらに鍛えていく必要があります。即興型英語ディベートでは、誰にでもわかるよう丁寧に論理を説明することはもちろん、聴衆が納得できる道徳的な考察、また聴衆を惹きつける紳士的な態度まで鍛える機会に恵まれます。限られた会議時間などでは、最も重要なことを簡潔述べ、論点を的確に素早く整理する力が重要となります。このように、将来に役立つスキルを効果的に伸ばしていく機会を提供することは重要であり、即興型英語ディベートはその一翼を担っています。

「ディベート」という言葉（これから必要になる教育という漠然としたイメージ）に踊らされず、何のためにディベートをするのか、今一度、時代が求めるスキルを整理しながら考えることが重要ではないでしょうか。それを前提に、どのような形式のディベートをすべきであるか、どのようにディベートを取り入れるべきか、よく考えて、かけがえのない時間を使わねばなりません。

PDAで取り扱う即興型英語ディベートは、授業の50分で完結し、そのルールや補助教材を含む系全体の設計は、工学的にも研究されたものです。また、PDA認定教育ジャッジによるフィードバックもコミュニケーション場の特徴を捉えて、システム設計されたものです。このように、時代の変化にも敏感になりながら構築されたPDAでの即興型英語ディベートは、文部科学省事業をはじめ、数々の地域での教員研修（悉皆、初任者研修など多岐にわたります）で導入されています。

PDA認定教育ジャッジの先生方をはじめとし、これからも即興型英語ディベートを一手法として、グローバルな社会において将来を担う生徒のみなさんの生きる力を向上できますよう願っています。



PDA 代表理事 中川智皓
(大阪府立大学 工学研究科 准教授、
国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST)
戦略的創造研究推進事業 さきがけ研究員 (兼任)
東京大学生産技術研究所 協力研究員)

お問合せ
一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)
大阪府堺市中区学園町 1-1 大阪府立大学内
jimukyoku@pdpda.org



授業でできる即興型英語ディベート、中川智皓著、ネリーズ出版 のお求めは、ネリーズオンラインストアまで。
学校の教科書としても使用されています。



4. おわりに

公益財団法人 日本財団の助成を受け、「学校教育における即興型英語ディベートの推進・指導者育成」を行うことができました。本活動では、全国の高校生、中学生、教員が即興型英語ディベートを知り、実際に実践できる場を提供いたしました。それを通じ、即興型英語ディベートの有用性を実感したこと、またさらなる学習へのモチベーションにつながったことなど、多くの感想をいただきました。特に、今年度は、新たな紹介・交流大会エリアとして、四国地方への推進ができました。昨今、とりわけ英語科では、アクティブラーニングが重要視され、また次期学習指導要領では「論理・表現」という新しい科目案も挙げられています。即興型英語ディベートは、実際のコミュニケーションに近い形で、ルールに基づいて論理的に表現していく、時代にあった学習手法の一つであることも本活動を通して改めて示唆されました。

教員研修を行う教育委員会や教育センターの先生方との情報交換においても、今後、即興型英語ディベートの指導ができる教員の育成が急務であることが示されており、本年度はさらに多くの方々に即興型英語ディベートを経験いただきました。本事業を通じ、即興型英語ディベートのジャッジ、評価についても知見を増やしています。PDA では、即興型英語ディベートについて、教育的配慮を伴った指導ができる人財を PDA 認定教育ジャッジとして認定していく制度を作っています。文部科学省「平成 28 年度総合的な教師力向上のための調査研究事業」「平成 29 年度、30 年度教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業」においても、教員の PDA 認定教育ジャッジ制度の活用の旨を記載しています。今年度は PDA 認定教育ジャッジの有資格者が急増しました。今後も、即興型英語ディベートが学校教育において浸透し、社会が一步でも前に進む一助になりますよう、活動を続けて参りたいと思います。

本事業の遂行にあたり、ご助成いただきました公益財団法人 日本財団、多くのご支援、ご協力を賜りました皆様方に、深く感謝いたします。

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

代表理事 中川 智皓

(大阪府立大学 工学研究科 機械工学分野 准教授)

発行

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

2020年3月

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町 1-1
大阪府立大学 工学研究科 中川研究室内
Tel : 072-254-9220 Fax : 072-254-9904
E-mail : contact@pdpda.org